
英語学科講義概要（シラバス）について

英語学科長 大竹 孝司

いよいよ21世紀最初の年が始まりました。グローバル化された国際化社会、IT革命による高度情報化社会、そして競争を前提とした社会などこれまで我々が経験したことがない新たな時代を迎えたと言えるでしょう。

このような社会では「知」の学習と創出という言葉がキーワードであると思います。大学4年間で新たな社会を生き抜くための基本的な「知」を学ぶと共に新たな「知」の創出を行うことが期待されています。大学で学ぶことは、社会では役に立たないとしばしば言われてきました。いつからか日本の大学では、大学生活＝モラトリアムという考え方が蔓延し、「知」の探求とは無縁な大学生活を送る人が多々見られるようになりました。その結果、何が起こったのでしょうか。日本の大学のレベルは世界の基準からすると相当低いレベルにあることが指摘されるようになってしまったのです。この傾向は偏差値が高い大学も例外ではありません。大学のレベルはいかなるものによって決まるのでしょうか。偏差値で決まると思っている人はいませんか。もしそうであるとするならば、この考え方はすぐに捨ててください。世界の大学で学ぶ大学生の間では偏差値のようなものではなく、個としていかなる価値を身に付けたかが重要であると考えているのです。このことは留学をしてみれば直ぐに気付かされるでしょう。

皆さんは真面目に学ぶことをダサイと思っている人はいませんか？しかし、世界の主要な大学ではひたすら真面目に学ぶ学生で満ち溢れています。何のために？「知」を身に付けるためです。「知」を身に付ける最善の方法は、コツコツと一步一步着実に前進することです。松原団地のローカルなレベルの大学生ではなく、世界に通用する大学生としてはばたくためには、「知」の学習が不可欠です。高度で複雑な国際社会の中で賢く生き抜くことを希望するのであるなら「知」を身につけた人の勝ちであると思います。

このシラバスには、英語学科の皆さんが多様な価値観を身につけることができるように工夫を凝らした英語学科の全科目の授業内容の概要が書かれています。何をどのように学ぶかは人によって異なります。皆さんの将来の進路や夢を実現させるためにはどのような科目を履修したらよいのか、シラバスをじっくり読み、そして授業に臨み、皆さんの将来設計に必要な科目を選択する時に役立ててください。

なお、今年から英語学科に入学する1年生から能力主義を導入することになりました。これで世界標準に一步近付いたと言えるでしょう。

科目名	英 語 （ Reading strategies ）
担当者	各担当教員

講義の目標

まず授業の最初の数週間で基本的な読解技術を習得し、その後各担当教員が決めた現代英語の教材を使用しながら読解力の養成を行う。

講義概要

1. 最初の数週間は、現在の高度情報化社会において必要とされている情報収集のための読解技術を習得する。具体的には以下の技術を学ぶ。

(1) paragraph reading : パラグラフの構成原理を理解し、トピック・センテンスの置かれている位置をすばやく判断する技術。

(2) skimming : 長めのパッセージを読む際、付随的な情報に惑わされずにメイン・アイデアだけを探して大意をつかむ技術。

(3) Scanning : 案内用のパンフレットやコンピュータ・ホームページなどを含むさまざまな情報媒体から、読み手が必要とする特定の情報だけを正確かつ迅速に探す技術。

2. その後は、各担当教員が決めた現代英語の教材を使用しながら読解力の養成を行う。場合によっては上記の読解技術とリーディング教材を交えながら年間を通して学んでいくこともあり得る。

テキスト

各担当教員が指示する。

評価方法

各担当教員が授業時に説明する。

科目名	英 語 (Reading comprehension)
担当者	各担当教員

講義の目標

英語の語彙を徐々に増やしなが、日本語ではなく英語で考える能力を養い、将来予想される英語圏での学習に備える。そのために必要とされる基礎的な読解技術も学習する。

講義概要

1. 最初の数週間は、以下の読解技術を中心に学習する。

(1) Scanning : 読み手が必要とする特定の情報だけを正確かつ迅速に探す技術。この技術は日常生活においてとても重要で、たとえば広告、新聞、番組表などを見る時に便利である。

(2) Skimming : 詳細にこだわらずすばやく読んで大体の意味を把握する技術。

(3) Previewing and Predicting : 本の表紙や目次、あるいは絵などを見て本の内容を予測する技術。これによって、本に書かれている情報が理解しやすくなる。

(4) Vocabulary building : 文脈から単語の意味を推測する。これによって単語の使い方も学習できる。

(5) Recognizing topics : パッセージのなかで何が最も重要なトピックなのかを把握する技術。こうすることによって、今読んでいる内容と自分の過去の経験とを結びつけることができる。

(6) Recognizing patterns of text organization : 本の構成にはいくつかのパターンがある。例えば、原因と結果、比較、時間順などのパターンがあり、これらのパターンに気づくことにより内容理解が容易になる。

(7) Making Inferences : はっきりとは書かれていない内容を読み取る技術。

2. 以上の読解技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用し読解力の向上を図る。場合によっては上記の読解技術とリーディング教材を交えながら年間を通して学んでいくこともあり得る。

テキスト

各担当教員が指示する。

評価方法

各担当教員が授業時に説明する。

科目名	英 語 （講読）
担当者	各担当教員

講義の目標

英語の読解力を身につけるためにはできるだけ量を多く読むことが必要とされる。英語では、英語に引き続き現代のさまざまな英文を読み、基礎的な読解力の仕上げを行い専門講読に備える。

講義概要

授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。

テキスト

各担当教員が指示する。

評価方法

各担当教員が授業時に説明する。

科目名	英 語 (Advanced speech communication)
担当者	各担当教員

講義の目標

身近なテーマについて人前で分かりやすく説明できるようにすることを目標とする。慣れてきたら、徐々に少し複雑なテーマにチャレンジしていく。

講義概要

1. 授業では具体的に以下のような練習を含む。

(1) 学生 1 人につき年間を通して少なくとも 1 回は、他の学生の前で、事前準備をしたスピーチを英語で発表する。

* 発表のない学生は各発表者に対して peer evaluation を行う。

* 発表者は、自分のスピーチへの peer evaluation を受け取ったら、簡単な反省文(「自分が考える今後の課題」等)を提出する。

* 1 人 1 回という時間がなければ、小グループ(3~5 人)でプレゼンテーションに代えることもできる。そこでは全員が必ず一定の量を話すようにする。

(2) 与えられた単純な図や表や絵や写真を 1 分以内で即座に英語で説明する訓練をする。小グループに分けて行うか、または毎回、授業の最初の 5 分を使って 5 人くらいずつ順番に英語で説明する。

2. 上記に加えて、各教員の使用する教材を通して口頭による表現力を向上させる。

テキスト

各担当教員が指示する。

評価方法

各担当教員が授業時に説明する。

科目名	英 語 (Speech communication)
担当者	各担当教員

講義の目標

身近なテーマについて人前で分かりやすく説明できるようにすることを目標とする。

講義概要

1. 授業では具体的に以下のような練習を含む。

(1) 学生 1 人につき年間を通して少なくとも 1 回は、他の学生の前で、事前準備をしたスピーチを英語で発表する。

* 発表のない学生は各発表者に対して peer evaluation を行う。

* 発表者は、自分のスピーチへの peer evaluation を受け取ったら、簡単な反省文(「自分が考える今後の課題」等)を提出する。

* 1 人 1 回という時間がなければ、小グループ(3~5 人)でプレゼンテーションに代えることもできる。そこでは全員が必ず一定の量を話すようにする。

(2) 与えられた単純な図や表や絵や写真を 1 分以内で即座に英語で説明する訓練をする。小グループに分けて行うか、または毎回、授業の最初の 5 分を使って 5 人くらいずつ順番に英語で説明する。

2. 上記に加えて、各教員の使用する教材を通して口頭による表現力を向上させる。

テキスト

各担当教員が指示する。

評価方法

各担当教員が授業時に説明する。

科目名	英 語 （ Writing strategies ）
担当者	各担当教員

講義の目標

基本的な単語や文法を用い、文章構成の基本を学びながら身近でやさしいトピックについて具体的に目的を持った短い文章が書けるようになることを目標とする。

講義概要

授業では具体的に以下を学んでいく。

1. 基本的な文法項目等を復習する
2. 日常使われる手紙の基本形式を学び、実際に短い手紙を書いてみる。(お祝いの手紙、入学/就職希望の手紙、英文履歴書の書き方など)
3. パラグラフの基本について学ぶ
 - (1) パラグラフとは何か
 - (2) トピック・センテンスについて
 - (3) トピック・センテンスをサポートする
 - (4) 列挙の仕方
 - (5) 表現の言い換え
- 他
4. 以上の作文技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用し作文力の向上を図る。場合によっては上記の作文技術と文法・作文用の教材を交えながら年間を通して学んでいくこともあり得る。

テキスト

各担当教員が指示する。

評価方法

各担当教員が授業時に説明する。

科目名	英 語 (Paragraph writing)
担当者	各担当教員

講義の目標

- (1) 英文パラグラフにおけるいくつかのパターンを理解する。
- (2) 論理的な流れのあるパラグラフを書くことができる。
- (3) 日本語の作文と英語の作文の違いを理解する。

講義概要

授業では具体的に以下を学んでいく。

- (1) パラグラフとは何か。
- (2) トピックとトピック・センテンスについて
- (3) トピック・センテンスのサポートの仕方
(例の挙げ方、列挙の仕方、原因・結果の示し方、比較・対照の仕方、定義の仕方)
- (4) 表現の言い換えと盗用について
- (5) 要約の仕方

他

2. 以上の技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用しライティング力の向上を図る。場合によっては上記のライティング技術と教員が指定した教材を交えながら年間を通して学んでいくこともあり得る。

テキスト

各担当教員が指示する。

評価方法

各担当教員が授業時に説明する。

科目名	英語学概論 1
担当者	神尾 昭雄

講義の目標

本講義の目的は、最新の英語学および言語学の成果に基づいて、できるだけわかりやすく英語という言葉について科学的に理解を深めることである。その際に、われわれの母国語である日本語とわれわれにとって外国語である英語とを比較対照しながら、英語の諸側面について理解を深めると同時に日本語についての理解をも深めることをねらいとする。

講義概要

講義は下の教科書に基いて行なわれ、学生は毎回指定された部分をあらかじめ読んでおくことが必要である。

テキスト

「日英語対照による英語学概論」増補版 西光義弘編 くろしお出版 1999年
DUO の教科書販売所においてあらかじめ各自購入し、第1回の授業時に持参すること。

参考文献

教室で指示する。

評価方法

前期および後期の定期試験のほかに、前期及び後期の中間に中間試験を行ない、以上4回の試験結果を総合して評価する。

受講者への要望

上記のように、あらかじめ指定された教科書の部分を必ず読んでくること。

年間授業計画

1. 教科書についての説明。授業の進め方などについての説明
2. 英語史および世界の英語について（教科書 pp.287～365まで）
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 音声学・音韻論について（教科書 pp.1～46）
7. 同上
8. 同上
9. 形態論とレキシコンについて（教科書 pp.47～96）
10. 同上
11. 同上
12. 統語論 生成文法について（教科書 pp.97～136）
13. 同上

14. 同上
15. 統語論 機能主義について（教科書 pp.137～183）
16. 同上
17. 同上
18. 意味論について（教科書 pp.185～242）
19. 同上
20. 同上
21. 語用論について（教科書 pp.243～285）
22. 同上
23. 同上
24. まとめ

科目名	英語学概論 2
担当者	児 玉 仁 士

講義の目標

まず、英語自体についての理解を深める前に、われわれが日常用いている言語そのものの実態をある程度明らかにしておく必要がある。この言語学的な理解・知識を基礎にして、英語が持っている言語的特性を概説するのがこの講義の目標である。

講義概要

英語学が一つの独立した学問体系をなすかどうかはともかくとして、英語を専攻するものが基本的・必須的知識として、当然修めなければならない英語全般に関する学問領域である。それには、英語が一つの言語として有する言語的諸相とそれに関する学問的業績すべてが包括される。ただし、この領域はあまりにも広範にわたり、限られた年間の授業数でそれをカバーすることは到底不可能である。したがって、この講義では、その中で最も中心となる課題に焦点を絞って解説することになる。言語行為、音声学・音韻論、意味論、文法論、英語史が主なトピックである。

テキスト

E.M. Heatherington ; *How Language Works* (英語学入門) 金星堂

参考文献

- ・石黒昭博・他著『現代の英語学』 金星堂
- ・島岡丘・他著『最新の音声学・音韻論』 研究社
- ・今井邦彦 編『英語変形文法』 大修館
- ・ジノ・ソング著『言語学への招待』 南雲堂
- ・F. モセ著 / 郡司・岡田訳『英語史概説』 開文社出版

評価方法

評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に基づく。なお、随時、出席をとり、それも総合評価に加味したい。

受講者への要望

出席してただノートを取るだけでなく、その時々々のトピックに関心を持って、理解を深めて欲しい。なお、講義には英和辞書を携帯すること。

年間授業計画

1. 序論：言語の実態：言語が人・社会・文化という構図の中でどのような機能を持っているのかを、概観したい。

2. 第1章：言語および言語行為 1) 伝達手段：言語・非言語、動物・人間の伝達手段 2) 言語の特性
3. 3) 言語記号の2面性・恣意性・線状性 4) 言語研究の分野・方法
4. 第2章：英語の音声 1) 言語音声 2) 言語音声の記述：音声学・音韻論
5. 3) 音声表記・音素表記：万国表意文字、精密表記・簡略表記 4) 発音器官：どのような器官を用いて言語音は発せられるのか 5) 音声の分類：母音と子音、有声音・無声音
6. 6) 母音の分類と種類 7) 子音の分類と種類
7. 音節・強勢/弱勢・アクセント・音調 9) 音連続における音声変化：推移音・音連結・同化・異化
8. 10) リズム：散文・韻文のリズム、頭韻・脚韻、詩型
9. 第3章：英語の意味 1) 「意味」とは？ 2) 意味論：一般意味論・哲学的意味論・言語学的意味論
10. 3) 言語学的意味論：指示的・辞書的・形式的・構造的・文脈の意味 4) 意味の分析：Osgood の「意味微分法」と Katz / Forder の「意義素性分析」
11. 5) 意味の同一性：外延的・内包の意味 6) 意味の多義性：辞書の語義
12. 7) 意味の具象性と抽象性：Hayakawa の「抽象の過程」 8) 意味と文化・意味の変化：縮小・拡大・墮落・向上
13. 第4章：英語の文法 1) 「文法」の概念・その変遷 2) 文法の研究の方法・その種類
14. 3) 文法の記述の対象：形態論・統語論 4) 規範文法：規範性・単語・品詞分類・文、文の正用・誤用の基準
15. 5) 科学文法：科学性・形態・機能・文法範疇：Sweet / Jespersen の文法
16. 6) 構造主義文法：構造的・音素・形態素・語類・統語分析
17. 7) 変形生成文法：Chomsky の理論とその変遷
18. 第5章：英語の歴史 1) インド・ヨーロッパ語族・ゲルマン語族派の位置：Grimm の音韻法則
19. 2) 西ゲルマン語語 (フリジア語・オランダ語・ドイツ語) と英語との比較：第2次子音推移 3) 英語とフリジア語の類似性
20. 4) 英語史の時代区分とイギリスの歴史 (特に、アングロ・サクソン期および中期)
21. 5) 英語の階級方言・社会方言 6) 古期英語：文字・綴り・発音・文法 (形態・統語)

22. 7) 中期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）：Chaucer の英語、大母音推移
23. 8) 近代英語：綴り・発音・文法；聖書の英語、Shakespeare の英語
24. 9) アメリカ英語 10) 英語の辞書：編纂とその歴史

科目名	英語学概論 3
担当者	清水 由理子

講義の目標

高校までは、コミュニケーションの道具としての英語を学んできたと思うが、ここでは英語自体を研究対象とする視点から学ぶ。まず、人間の用いる言語（ここでは英語）はどのような構造を持ち、どのような歴史的背景の中で形成されて来たかを学び、人間の言語の特徴について考える。更に、どのような視点から研究されてきたか、また、現在されているのか、その研究成果を知ることにより、英語という言語に対する理解を深める。

講義を通して、英語のみならず、私たちが毎日使っている「ことば」に対して関心を向け、「ことば」に対する感覚を磨いてもらいたい。

また、言語研究の分野には、どのようなことが含まれるのかの紹介ともなるので、専門のコースを選択する際に役立ててほしい。

講義概要

「ことば」は、それを使う人間とは切り離せない関係にある。人間の「ことば」の1つである英語とは、どのような特徴を持った言語であるのかについて学ぶ。まず現代の英語の音・語彙・文構造及び意味の仕組みについて講義し、次に、歴史的な視点から現代英語の成り立ちとその特徴を紹介する。

具体的なテーマについては、授業計画を参照のこと。

テキスト

石黒昭博他著『現代の英語学』 金星堂

参考文献

参考文献は、テキスト巻末の参考文献を活用するようにし、テーマごとに紹介する。また、必要に応じてそれ以外の文献を紹介する。

評価方法

前期・後期の定期試験および Take-Home Quiz（不定期）により評価を出す。

受講者への要望

前もってテキストの関連した章を必ず読んで上で講義に出席すること。

年間授業計画

[前期]

1. 英語学とは、どのようなことを研究する分野か。
(テキスト第1章参照)
2. 人間のことばの特徴

3. 英語の音構造

音声学 音声学について

英語音の特徴 (第3章の1)

4. 音韻論(1) 音素について (第3章の2)

5. 音韻論(2) 超文節音素について

(")

6. 英語の語構造

形態論(1) 形態素について (第4章の1)

7. 形態論(2) 語の形成 (第4章の2)

8. 英語の文構造

統語論(1) 科学的伝統文法での考え方

(第5章の1)

9. 統語論(2) 構造主義文法での考え方

(第5章の2)

10. 統語論(3) 生成文法での考え方

(第6章)

11. 統語論(4) 生成文法での考え方

(")

12. 統語論(5) 文法と意味

(第7章)

[後期]

13. 英語の意味構造

意味論(1) 意味とは何か。語の意味

(第8章の1と2)

14. 意味論(2) 文の意味

(第8章の3)

15. 語用論 発話と談話

(第8章の4)

16. 英語の歴史

(1) プリテン島の歴史と言語

(第9章の1と2)

17. (2) 古期英語の文字と発音 (")

18. (3) 古期英語の語彙と文法 (")

19. (4) 中期英語の時代的背景 (第9章の3)

20. (5) 中期英語の綴りと発音 (")

21. (6) 中期英語の語彙と文法 (")

22. (7) 近代英語の特徴 (第10章)

23. (8) 近代英語の特徴 (")

24. (9) アメリカ英語の特徴 (第11章)

科目名	英語学概論 4
担当者	長谷川 欣 佑

講義の目標

英語の多様な言語事象の分析を通して言語研究の面白さを伝えたい。具体的にはデータに基いて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般の原理を発見していく統語分析の方法に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解することは、英語の学習に役立つだけでなく、ことば（更には自然、社会）の問題を自分の頭で考え、自主的に判断する能力を養う上でも役に立つと思う。

講義概要

人間の言語使用は「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組」を明らかにすることを目標とする（生成）文法理論の基本的な考え方と方法を概説し、それに基づいて英語の主要な統語現象の背後にあるさまざまな規則性を明らかにする。

テキスト

特に指定しないが下記の参考書（のいずれか）を読んでおくことが望ましい。講義の主要な内容はプリントして配布する。

参考文献

Akmajian - Heny (1975), *An Introduction to the Principles of Transformational Syntax* (MIT Press); Akamajian - Demers - Farmer - Harnish (1995), *Linguistics* (MIT Press); L . Haegeman (19942), *Introduction to Government and Binding Theory* (Blackwell); 西光 (編) 「英語学概論」(くろしお出版)

評価方法

前・後期一回づつのテストと授業への参加度

受講者への要望

連続した体系をなすので毎回出席すること。

年間授業計画

1～3．前期は「序論」と「第Ⅰ部：文の組み立て方についての一般原理」について述べる。

まず序論として人間の言語の基本的性質である、言語使用の創造性をデータに基いて例証し、文法研究の目標を設定する。ここで英語の代名詞や再帰代名詞の用法について簡単な原則を提示する。

4・5．「文の組み立て方」に関する第1の原理とし

ての「句構造規則」の必要性とその説明。文法上の単位（文法カテゴリー）を立てる根拠について「動詞句」などを例にとり、やや詳しく解説。

6～11．「文の組み立て方」に関する第2の原理としての「変形」の概念を導入。典型的な例に基いてこの仕組の必要性をわかりやすく解説。さらに英語のいくつかの構文を取り挙げ、それらの説明のために変形が必要であることを示し、同時にこれらの構文自体の構文分析によって文法解析の方法を理解してもらう。取り挙げる事象は、wh-句移動変形、外置変形（以上 6-7 週） Tough 構文移動変形（8 週） 繰り上げ変形（Raising）（9 週） 助動詞成分の分析（10-11 週） など。（10-11 週）では音韻論・形態論の基礎にも触れる。

12．試験

13．後期「第2部：英語統語構造の概要」前期の講義に立脚し、主要な文法単位（カテゴリー）の内部構造と、それらに関連する構文分析の典型例について述べる。

14・15．「動詞句」の内部構造。補語（Complement）と副詞的要素（Adjunct）の区別の根拠・重要性について do so テストなどを用いて解説。

16～18．「動詞＋小辞」、「動詞＋前置詞」などの複合動詞の分析。小辞（Particle）移動変形、間接目的語・直接目的語構文の構造と意味。VNP to VP 形の構造分析、表層フィルターの必要性など。

19・20．受動構文の分析。文法分析の一典型例として、古典的分析から比較的妥当な分析へ至る過程をデータに基いて解説し、受動文の構造と意味を明らかにする。

21．名詞句の内部構造

22～23．Wh-句移動変形などへの「一般的制約」

24．試験

科目名	英米文学概論 1
担当者	(前期) 島田 啓一 (後期) 藤田 永 純

(前 期)

講義の目標

アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品に出来るだけ直接触れる(小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。

講義概要

米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム(文化多元主義)に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって講義を進める予定。

テキスト

板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房、1989)

参考文献

福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』<増補版>(中京出版、1985)

評価方法

中間試験と定期試験 90%、不定期に課す課題 10%の予定。

受講者への要望

島田ゼミホームページ内に「英米文学概論」のページ

(<http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm>) を作成しましたので参照して下さい。

年間授業計画

- 1 . アメリカ文学概説(授業のやり方、注意事項などの説明を含む): 必ず出席すること。
- 2 . Multiculturalism(1): 概説。Multiculturalism の背景 <以下、() 内は授業で読む予定の作品名>
- 3 . Multiculturalism(2): African American Writers と Jewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years")
- 4 . Multiculturalism(3): Jewish Writers ("The First Seven Years") [中間試験 1]
- 5 . Modernism(1): Post Modernism と Modernism の作家たち: John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc.
- 6 . Modernism (2): William Faulkner と

Yoknapatawpha County ("That Evening Sun")

7 . Modernism (3): William Faulkner と Yoknapatawpha County (The Sound and the Fury) [中間試験 2]

8 Realism(1): Mark Twain, William Dean Howells, Henry James, Stephen Crane, Frank Norris, Theodore Dreiser

9 . Realism (2): "gender/class/race" - Mark Twain の場合 (The Adventures of Huckleberry Finn)

10 . American Renaissance (1): Emerson, Thoreau, E.A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc. (詩を数編)

11 . American Renaissance (2): Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc

12 . 創世記のアメリカ文学: Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc.

(後 期)

講義の目標

テキストを中心に講義を進めます。柔軟な鑑賞眼、細やかな感性、心理的洞察力を併せもつ著者がヨーロッパの文学、思想、文化一般に関する豊かな知識を自在に駆使して、イギリス近代の文学を考察する見事さを、先ず第一に感じ読みとって欲しい。イギリス文学を活きたものとして捉えていくのがこの講義の主たる目的です。

講義概要

近代以前および19世紀以後のイギリス文学に関しては、他の文献から作成したプリントを使って授業を進めますが、全体の焦点を、欧米でも日本でも大きな影響を及ぼしてきた、このテキストに置いて、イギリス小説の特徴と魅力を解説していきたいと思います。

テキスト

『小説の勃興』イアン・ワット著 藤田訳

参考文献

必要に応じて、プリントを配布する

評価方法

期末のレポートと授業中の課題

受講者への要望

集団の中においても自分の心と目で判断する主体性

年間授業計画

- 1 . イギリス文学の解説(講義の進め方、テキストの特長などの説明も兼ねる)
- 2 . 近代以前のイギリス小説(その1)
- 3 . 近代以前のイギリス小説(その2)

4. リアリズムと小説形式(その1)
5. リアリズムと小説形式(その2)
6. 読書層と小説の勃興
7. 『ロビンソン・クルーソー』個人主義と小説
(その1)
8. 『ロビンソン・クルーソー』個人主義と小説
(その2)
9. 私的経験と小説
10. 恋愛という主題と『バメラ』
11. フィールドディング
12. フィールドディング以降の小説

科目名	英米文学概論 2
担当者	(前期) 藤田永穂 (後期) 島田啓一

(前期)

講義の目標

テキストを中心に講義を進めます。柔軟な鑑賞眼、細やかな感性、心理的洞察力を併せもつ著者がヨーロッパの文学、思想、文化一般に関する豊かな知識を自在に駆使して、イギリス近代の文学を考察する見事さを、先ず第一に感じ読みとって欲しい。イギリス文学を活きたものとして捉えていくのがこの講義の主たる目的です。

講義概要

近代以前および 19 世紀以後のイギリス文学に関しては、他の文献から作成したプリントを使って授業を進めますが、全体の焦点を、欧米でも日本でも大きな影響を及ぼしてきた、このテキストに置いて、イギリス小説の特徴と魅力を解説していきたいと思います。

テキスト

『小説の勃興』イアン・ワット著 藤田訳

参考文献

必要に応じて、プリントを配布する

評価方法

期末のレポートと授業中の課題

受講者への要望

集団の中においても自分の心と目で判断する主体性

年間授業計画

1. イギリス文学の解説（講義の進め方、テキストの特長などの説明も兼ねる）
2. 近代以前のイギリス小説（その 1）
3. 近代以前のイギリス小説（その 2）
4. リアリズムと小説形式（その 1）
5. リアリズムと小説形式（その 2）
6. 読書層と小説の勃興
7. 『ロビンソン・クルーソー』個人主義と小説（その 1）
8. 『ロビンソン・クルーソー』個人主義と小説（その 2）
9. 私的経験と小説
10. 恋愛という主題と『バメラ』
11. フィールドینگ
12. フィールドینگ以降の小説

(後期)

講義の目標

アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品に出来るだけ直接接触する（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。

講義概要

米文学史の概略をなぞるが、19 世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60 年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって講義を進める予定。

テキスト

板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）

参考文献

福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』＜増補版＞（中京出版、1985）

評価方法

中間試験と定期試験 90%、不定期に課す課題 10% の予定。

受講者への要望

島田ゼミホームページ内に「英米文学概論」のページ

(<http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amli t.htm>) を作成しましたので参照して下さい。

年間授業計画

1. アメリカ文学概説（授業のやり方、注意事項などの説明を含む）：必ず出席すること。
2. Multiculturalism(1): 概説。Multiculturalism の背景 <以下、() 内は授業で読む予定の作品名>
3. Multiculturalism(2): African American Writers と Jewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years")
4. Multiculturalism(3): Jewish Writers ("The First Seven Years") [中間試験 1]
5. Modernism(1): Post Modernism と Modernism の作家たち：John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc.
6. Modernism (2) : William Faulkner と Yoknapatawpha County ("That Evening Sun")
7. Modernism (3) : William Faulkner と Yoknapatawpha County (The Sound and the Fury) [中間試験 2]
8. Realism(1): Mark Twain, William Dean Howells, Henry James, Stephen Crane, Frank Norris,

Theodore Dreiser

- 9 . Realism (2) : "gender/class/race" - Mark Twain
の場合 (The Adventures of Huckleberry Finn)
- 10 . American Renaissance (1) : Emerson, Thoreau,
E.A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc.
(詩を数編)
- 11 . American Renaissance (2) : Nathaniel
Hawthorne, Herman Melville, etc
- 12 . 創世記のアメリカ文学 : Benjamin Franklin,
Charles Brockden Brown, Washington Irving,
James Fenimore Cooper, etc.

科目名	英米文学概論 3
担当者	(前期) 原 成吉 (後期) 白鳥 正孝

(前 期)

講義の目標

アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。

講義概要

このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題 (Native American, Feminism, Multiculturalism... etc.) を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそでいま」の視点からアメリカの (異) 文化を紹介する。

テキスト

板橋好枝 / 高田賢一 編著 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 ミネルヴァ書房

参考文献

各テーマごとに紹介する。

評価方法

前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。

受講者への要望

教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, *Adventures of Huckleberry Finn* 『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫)と Jack Kerouac, *On the Road* 『路上』(河出文庫)を読んでおくことが望ましい。

年間授業計画

1. アメリカ文学の特徴について (序論)
2. ネイティブ・アメリカンの文学
3. 土地が作る文学
4. デモクラシーと文学
5. 戦争と文学
6. マルチ・カルチャリズムと文学 (1)
7. マルチ・カルチャリズムと文学 (2)
8. マルチ・カルチャリズムと文学 (3)
9. カウンター・カルチャと文学
10. フェミニズムと文学
11. 現代詩を読む
12. 作品研究の方法

(後 期)

講義の目標

本講義はイギリス文学の精髓 (エッセンス) を学ぶことを目標とする。

尚、合わせて、英文学の学び方についても講ずる予定。

講義概要

講義のあらましを、次の 3 つの主要テーマに分ける。

- . ルネッサンス
- . 近代とは何か
- . 英文学の学び方である。

上記テーマに沿って、それを代表すると思われる作家・作品によって講ずる。

テキスト

前川祐一他編著 『原典で読む英文学史』 弓プレス 1997年

参考文献

川崎寿彦 『イギリス文学史』 成美堂、1988年
(その他随時、教室にて示す)

評価方法

平常点としては、授業時の終わりに時々 (3 ~ 4回) 課される小レポート、及び期末レポート (4000字程度) による総合評価。

受講者への要望

提示されている作品の幾つかをなるべく早めに読んでもらいたい。

年間授業計画

1. . ルネッサンス (Early Modern Literature)
 - A. チョーサー (Geoffrey Chaucer, c. 1340 - 1400) 『カンダベリ物語』 他
2. . B. シェークスピア (William Shakespeare, 1564 - 1616) 『ハムレット』 『オセロ』 『リア王』 『マクベス』 他
3. . C. ミルトン (John Milton, 1608 - 1674) 『失楽園』 他
4. . 近代とは何か (Versions of Modernity)
 - A. 小説
 - a. 小説の勃興 リチャードソン (Samuel Richardson, 1689 - 1761), 『パメラ』 他
 - b. 女流文学の興隆、エミリー・ブロンテ (Emily Brontë, 1818 - 48) 『嵐ヶ丘』、シャーロット・ブロンテ (Charlotte Brontë 1816 - 55) 『ジェイン・エア』 他
 - c. ディケンズ (Charles Dickens, 1812 - 70) 『二都物語』 他、ハーディー (Thomas Hardy, 1840 - 1928) 『テス』 他
 - B. 詩
 - a. ロマン派 ワーズワス (William Wordsworth, 1770 - 1928)

「虹」「水仙」「ルーシー」他

- 8 . b . ヴィクトリア朝 テニスン (Alfred Tennyson 1809 - 1850) 「追悼詩」他、ブラウニング (Robert Browning, 1812 - 89), 「春の朝」他
- 9 . c . エリオット (Thomas S. Eliot, 1888 - 1965) 『荒地』他、イエーツ、オーデン、D・トマス 等
- 10 . . 英文学の学び方 (Approaches to Text)
 - A . ニュークリティシズム (new criticism)
(作品中心主義)
 - 11 . B . ポストモダン (postmodernism)
(ポストモダニズム、脱構築、新歴史主義、ポストコロニアリズム等)
- 12 . C . フェミニズム (feminist criticism)
(女性特性の個有化の可能性とは？)

科目名	英米文学概論 4
担当者	(前期) 白鳥 正孝 (後期) 原 成吉

(前 期)

講義の目標

本講義はイギリス文学の精髓 (エッセンス) を学ぶことを目標とする。

尚、合わせて、英文学の学び方についても講ずる予定。

講義概要

講義のあらましを、次の 3 つの主要テーマに分ける。

- ・ルネッサンス
- ・近代とは何か
- ・英文学の学び方である。

上記テーマに沿って、それを代表すると思われる作家・作品によって講ずる。

テキスト

前川祐一他編著『原典で読む英文学史』弓プレス 1997年

参考文献

川崎寿彦『イギリス文学史』成美堂、1988年
(その他随時、教室にて示す)

評価方法

平常点としては、授業時の終わりに時々 (3 ~ 4 回) 課される小レポート、及び期末レポート (4000 字程度) による総合評価。

受講者への要望

提示されている作品の幾つかをなるべく早めに読んでもらいたい。

年間授業計画

1. . ルネッサンス (Early Modern Literature)
 - A. チョーサー (Geoffrey Chaucer, c. 1340 - 1400) 『カンダベリ物語』他
2. B. シェークスピア (William Shakespeare, 1564 - 1616) 『ハムレット』 『オセロー』 『リア王』 『マクベス』他
3. C. ミルトン (John Milton, 1608 - 1674) 『失楽園』他
4. . 近代とは何か (Versions of Modernity)
 - A. 小説
 - a. 小説の勃興 リチャードソン (Samuel Richardson, 1689 - 1761), 『パメラ』他
5. b. 女流文学の興隆、エミリー・ブロンテ (Emily Brontë, 1818 - 48) 『嵐ヶ丘』、シャーロット・ブロンテ (Charlotte Brontë 1816 - 55) 『ジェイン・エア』他

6. c. ディケンズ (Charles Dickens, 1812 - 70) 『二都物語』他、ハーディー (Thomas Hardy, 1840 - 1928) 『テス』他
7. B. 詩
 - a. ロマン派 ワーズワス (William Wordsworth, 1770 - 1928) 「虹」「水仙」「ルーシー」他
 8. b. ヴィクトリア朝 テニスン (Alfred Tennyson 1809 - 1850) 「追悼詩」他、ブラウニング (Robert Browning, 1812 - 89), 「春の朝」他
 9. c. エリオット (Thomas S. Eliot, 1888 - 1965) 『荒地』他、イエーツ、オーデン、D・トマス 等
10. . 英文学の学び方 (Approaches to Text)
 - A. ニュークリティシズム (new criticism) (作品中心主義)
 11. B. ポストモダン (postmodernism) (ポストモダニズム、脱構築、新歴史主義、ポストコロニアニズム等)
 12. C. フェミニズム (feminist criticism) (女性特性の個有化の可能性とは?)

(後 期)

講義の目標

アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマに論じながら、アメリカ文学の魅力伝える。

講義概要

このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題 (Native American, Feminism, Multiculturalism... etc.) を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの (異) 文化を紹介する。

テキスト

板橋好枝 / 高田賢一 編著 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 ミネルヴァ書房

参考文献

各テーマごとに紹介する。

評価方法

前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。

受講者への要望

教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, *Adventures of Huckleberry Finn* 『ハックルベリー・フィンの冒険』 (講談社文庫) と Jack Kerouac,

On the Road 『路上』(河出文庫)を読んでおく
ことが望ましい。

年間授業計画

1. アメリカ文学の特徴について(序論)
2. ネイティブ・アメリカンの文学
3. 土地が作る文学
4. デモクラシーと文学
5. 戦争と文学
6. マルチ・カルチャリズムと文学(1)
7. マルチ・カルチャリズムと文学(2)
8. マルチ・カルチャリズムと文学(3)
9. カウンター・カルチャと文学
10. フェミニズムと文学
11. 現代詩を読む
12. 作品研究の方法

科目名	国際コミュニケーション概論 1
担当者	(前期) 板場 良久 (後期) 永野 隆行

(前 期)

講義の目標

コミュニケーションとは単なる会話や言葉のキャッチボール、あるいは情報や意見の伝達ではありません。意味の共有過程とも言い切れません。人間の存在の根源と深く結びついた複雑な現象です。このクラスでは、社会における複雑なコミュニケーションの諸現象を多角的に考察することができ、それに基づいて、賢慮ある判断のできるコミュニケーターになることを目指します。学問的には、20世紀の初頭から始まったコミュニケーション学における諸々の理論を学びながら、言語学や言語教育あるいは文学研究との本質的相違点や接点などを理解することを目指します。

講義概要

これまで提唱されてきたコミュニケーションの見方や考え方を理解し、同時にその限界や問題点も浮き彫りにし、今後どのようにコミュニケーションを考えるべきかというテーマを探っていきます。なお、各回の講義の要約をその次の講義の冒頭に英語でおこないます。

テキスト

プリント配布予定。

参考文献

松本茂監修『コミュニケーション教育の現状と課題』(英潮社) 石井敏他編『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣) 岸田秀『ものごさ精神分析』(中公文庫)

評価方法

小テスト(不定期・予告なしで学期中に2回)100%受講者への要望

この講義で取り上げる問題を、単なる知識としてではなく、自分と深く関係のある問題としてとらえるようにしてください。なお、真面目な受講生の妨げとなる、授業内容と無関係の私語は厳しく取り締まります。ただし、講義に関係のある質問は積極的にするようにしてください。

年間授業計画

1. この講義の概要と受講上の諸注意。コミュニケーション研究の特徴(他の学問分野との比較)。
2. 伝統的なコミュニケーション・モデルと種類
3. 「機械」としてのコミュニケーター
4. 「芸術」としてのコミュニケーション

5. 「演技」としてのコミュニケーション

6. コミュニケーション教育と言語教育の比較

7. テキスト、コンテキストとはなにか

8. ステレオタイプ、偏見からの脱却

9. コミュニケーション理論の種類と混同の問題

10. コミュニケーションと本能、言語、文化、歴史との関係について

11. 日常会話とはなにか

12. コミュニケーションと共生

(さらに詳しい授業計画を初回の講義で配布します。)

(後 期)

講義の目標

国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを、この半年間の講義を通じて理解してもらいたい。他の社会科学と同様に、国際関係についても十人十色の解釈や理解が可能である。担当教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。そして最終的には、学生諸君が少なくとも国際関係の出来事に関心を持つようになってもらえればいいと思っている。

講義概要

本講義は、2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論にはいる。まず、第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係の特徴を論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。

第一部では、本講義の基本文献である『新しい「中世」』の著者である田中明彦が取り上げた、戦後国際関係の三つのキーワード - 「冷戦」、「アメリカの覇権」、「相互依存」を用いて、戦後国際関係の特徴を明らかにする。三つのキーワードから国際関係を分析した場合、どのような特徴が浮き彫りになり、どのような国際関係像が描けるのか、これらを通じて、国際政治の「分析視角」、「枠組み」というものを理解してもらいたい。また第一部では、その誕生以来、国際安全保障に大きな脅威を与えている「核兵器」の問題について、若干の考察を加えたい。

第二部では、前半での学習を踏まえたうえで、冷戦終結後から今に至る国際関係の諸問題を論じる。冷戦の終結によって、世界は平和で安定した時代へと向かっているように見えたが、現実には混沌と不安が渦巻いている。我々はどこへ向かおうとしているのか。21世紀を迎えて、国際関係という文脈では

どのような問題が生じているのか、そして日本は何をすべきなのかを考えてみたい。

なお、講義は下記に示す「年間授業計画」にそって進める。ただし学生諸君の反応を見て、予定を変更する場合がある。時に応じて、ビデオ教材などを利用する。毎回の講義の冒頭では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設ける。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

田中明彦『新しい「中世」』日本経済新聞社、1997年。(本講義での基本文献)

講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布する予定。

評価方法

学期中のブックレポート、ならびに学期末のレポートによる評価。

受講者への要望

他の学生の迷惑となるので、私語は厳禁。場合によっては登録を抹消する権利を教員は持つ。

年間授業計画

1. 国際関係論とは何か ~ イントロダクション - 国際関係論を学ぶ目的とは何か?
2. 国際関係論とは何か ~ 現代国際関係の誕生とその特質 - アナーキーとは何か?
3. 冷戦はどのように始まったのか ~ ビデオ上映
4. 冷戦はどのように始まったのか ~ 冷戦起源論をめぐって - 歴史とは何か?
5. 国際政治を見る眼 ~ ホブズ的、グロティウスの、カント的、マルクスの見方とは何か?
6. 冷戦と核兵器 ~ 核兵器の登場は国際関係にどのような変化をもたらしたか?
7. 戦後のパックスアメリカーナの時代 ~ 国際政治における覇権(ヘゲモニー)の意義とは?
8. 国際的相互依存 ~ 経済的相互依存の深化は国際関係にどのような変化をもたらしたか?
9. 冷戦時代とは何であったのか、そして冷戦後世界をどう捉えるべきか?
10. 冷戦後の世界を考える ~ 頻発する地域紛争 - 人道的介入、予防外交とは?
11. 冷戦後の世界を考える ~ 国際社会における日本の役割とは?
12. 総括 / 国際関係論をこれから学ぶには、質疑応答

科目名	国際コミュニケーション概論2
担当者	(前期) 永野 隆行 (後期) 板場 良久

(前 期)

講義の目標

国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを、この半年間の講義を通じて理解してもらいたい。他の社会科学と同様に、国際関係についても十人十色の解釈や理解が可能である。担当教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。そして最終的には、学生諸君が少なくとも国際関係の出来事に関心を持つようになってもらえればいいと思っている。

講義概要

本講義は、2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論にはいる。まず、第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係の特徴を論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。

第一部では、本講義の基本文献である『新しい「中世」』の著者である田中明彦が取り上げた、戦後国際関係の三つのキーワード - 「冷戦」、「アメリカの覇権」、「相互依存」を用いて、戦後国際関係の特徴を明らかにする。三つのキーワードから国際関係を分析した場合、どのような特徴が浮き彫りになり、どのような国際関係像が描けるのか、これらを通じて、国際政治の「分析視角」、「枠組み」というものを理解してもらいたい。また第一部では、その誕生以来、国際安全保障に大きな脅威を与えている「核兵器」の問題について、若干の考察を加えたい。

第二部では、前半での学習を踏まえたうえで、冷戦終結後から今に至る国際関係の諸問題を論じる。冷戦の終結によって、世界は平和で安定した時代へと向かっているように見えたが、現実には混沌と不安が渦巻いている。我々はどこへ向かおうとしているのか。21世紀を迎えて、国際関係という文脈ではどのような問題が生じているのか、そして日本は何をすべきなのかを考えてみたい。

なお、講義は下記に示す「年間授業計画」にそって進める。ただし学生諸君の反応を見て、予定を変更する場合がある。時に応じて、ビデオ教材などを

利用する。毎回の講義の冒頭では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設ける。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

田中明彦『新しい「中世」』日本経済新聞社、1997年。(本講義での基本文献)

講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布する予定。

評価方法

学期中のブックレポート、ならびに学期末のレポートによる評価。

受講者への要望

他の学生の迷惑となるので、私語は厳禁。場合によっては登録を抹消する権利を教員は持つ。

年間授業計画

1. 国際関係論とは何か ~ イントロダクション - 国際関係論を学ぶ目的とは何か?
2. 国際関係論とは何か ~ 現代国際関係の誕生とその特質 - アナーキーとは何か?
3. 冷戦はどのように始まったのか ~ ビデオ上映
4. 冷戦はどのように始まったのか ~ 冷戦起源論をめぐって - 歴史とは何か?
5. 国際政治を見る眼 - ホブズ的、グロティウスの、カント的、マルクスの見方とは何か?
6. 冷戦と核兵器 ~ 核兵器の登場は国際関係にいかなる変化をもたらしたか?
7. 戦後のボックスアメリカーナの時代 - 国際政治における覇権 (ヘゲモニー) の意義とは?
8. 国際的相互依存 ~ 経済的相互依存の深化は国際関係にどのような変化をもたらしたか?
9. 冷戦時代とは何であったのか、そして冷戦後世界をどう捉えるべきか?
10. 冷戦後の世界を考える ~ 頻発する地域紛争 - 人道的介入、予防外交とは?
11. 冷戦後の世界を考える ~ 国際社会における日本の役割とは?
12. 総括 / 国際関係論をこれから学ぶには、質疑応答

(後 期)

講義の目標

コミュニケーションとは単なる会話や言葉のキャッチボール、あるいは情報や意見の伝達ではありません。意味の共有過程とも言い切れません。人間の存在の根源と深く結びついた複雑な現象です。このク

(さらに詳しい授業計画を初回の講義で配布します。)

ラスでは、社会における複雑なコミュニケーションの諸現象を多角的に考察することができ、それに基づいて、賢慮ある判断のできるコミュニケーターになることを目指します。学問的には、20世紀の初頭から始まったコミュニケーション学における諸々の理論を学びながら、言語学や言語教育あるいは文学研究との本質的相違点や接点などを理解することを目指します。

講義概要

これまで提唱されてきたコミュニケーションの見方や考え方を理解し、同時にその限界や問題点も浮き彫りにし、今後どのようにコミュニケーションを考えるべきかというテーマを探っていきます。なお、各回の講義の要約をその次の講義の冒頭に英語でおこないます。

テキスト

プリント配布予定。

参考文献

松本茂監修『コミュニケーション教育の現状と課題』(英潮社) 石井敏他編『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣) 岸田秀『ものぐさ精神分析』(中公文庫)

評価方法

小テスト(不定期・予告なしで学期中に2回)100%

受講者への要望

この講義で取りあげる問題を、単なる知識としてではなく、自分と深く関係のある問題としてとらえるようにしてください。なお、真面目な受講生の妨げとなる、授業内容と無関係の私語は厳しく取り締まります。ただし、講義に関係のある質問は積極的にするようにしてください。

年間授業計画

1. この講義の概要と受講上の諸注意。コミュニケーション研究の特徴(他の学問分野との比較)
2. 伝統的なコミュニケーション・モデルと種類
3. 「機械」としてのコミュニケーター
4. 「芸術」としてのコミュニケーション
5. 「演技」としてのコミュニケーション
6. コミュニケーション教育と言語教育の比較
7. テキスト、コンテキストとはなにか
8. ステレオタイプ、偏見からの脱却
9. コミュニケーション理論の種類と混同の問題
10. コミュニケーションと本能、言語、文化、歴史との関係について
11. 日常会話とはなにか
12. コミュニケーションと共生

科目名	国際コミュニケーション概論3
担当者	(前期) 金子 芳 樹 (後期) 鍋 倉 健 悦

(前 期)

講義の目標

「冷戦」という国際関係のフレームワークが崩壊したあと、世界の各地域で新しいタイプの紛争や新たな国際秩序を模索する動きが起こっている。本講義では、流動的で不透明な現代の国際社会を理解し、次世紀に向かって自らの視点と判断力を養うために必要な国際関係の基礎的知識と分析方法の習得を目指す。

講義概要

1. 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開について説明するとともに、基本的な国際関係論の理論について解説する。

2. 冷戦崩壊後（ポスト冷戦期）の国際社会で起こった（起こっている）幾つかの事象を取り上げ、歴史的背景の確認、現状分析、国際関係全体の中での位置付けなどを盛り込みながら、国際関係の構造変化について検討する。

なお、授業はプレゼンテーション・ソフトとビデオ資料を用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。

テキスト

特に指定しないが、各授業ごとに主要な参考資料を紹介する。

参考文献

長谷川雄一・高杉忠明編著『現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、1998年）

田中明彦『新しい中世：21世紀の世界システム』（日本経済新聞社、1996年）など

評価方法

レポートを1回提出したうえで学年末試験を受け、それぞれに一定水準以上の成績を納めることが単位修得の条件。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailで提出する。

年間授業計画

1. 国際関係論とは - 国際関係、国際社会、国家
2. 冷戦の構造 - 冷戦期の国際政治の基本的枠組み
3. 冷戦の起源 - ヤルタ会議の意味
4. 冷戦の展開(1) - ベルリンの壁、軍拡競争、デタント
5. 冷戦の展開(2) - ケーススタディ：ヴェトナム戦争
6. 冷戦の終結 - 社会主義体制の崩壊
7. ポスト冷戦期の現象(1) - 移民の流れが生み出す問

題

8. ポスト冷戦期の現象(2) - 民族対立、宗教対立
9. ポスト冷戦期の現象(3) - 金融のグローバル化
10. ポスト冷戦期の現象(4) - イスラームの台頭と「文明の衝突」
11. ポスト冷戦期の現象(5) - インターネットが変える世界
12. まとめ：国際社会を見る眼
(テーマについては若干の変更があり得る)

(後 期)

講義の目標

科目名は“国際”コミュニケーションとなっているが、インターナショナル・コミュニケーションに終始するのではなく、コミュニケーション全般について広く学習する。ただし、国際関係論ではないので、国際政治はいっさい取り扱わない。あくまでも人間行動としてのコミュニケーションを扱っていく。

講義概要

個人内コミュニケーション（自己との対話）、対人コミュニケーション、集団コミュニケーション、組織コミュニケーション、マス・コミュニケーション、国際コミュニケーション、異文化間コミュニケーション、などを扱う。

テキスト

・鍋倉健悦『人間行動としてのコミュニケーション』（思索社）

参考文献

求めに応じてクラスで紹介する。

評価方法

未定（レポートか試験による）

受講者への要望

特にはない。

年間授業計画

1. 当講座の概要説明
2. コミュニケーションとは何か
3. 人間の体験の世界
4. コミュニケーションの種類
5. 個人内コミュニケーション（1）
6. 個人内コミュニケーション（2）
7. 対人コミュニケーションから集団コミュニケーション
8. ネットコミュニケーション
9. 文化とコミュニケーション
10. 言語とは何か
11. 言語とコミュニケーション

12. 異文化間コミュニケーションと国際コミュニケーション

科目名	国際コミュニケーション概論 4
担当者	(前期) 鍋 倉 健 悦 (後期) 金 子 芳 樹

(前 期)

講義の目標

科目名は“ 国際 ” コミュニケーションとなっているが、インターナショナル・コミュニケーションに終始するわけではなく、コミュニケーション論で扱われているテーマ全般にわたって広く学習する。

講義概要

個人内コミュニケーションから始まり、対人コミュニケーション、集団コミュニケーション、マス・コミュニケーション、そして国際コミュニケーションや異文化間コミュニケーションなどを取り扱う。

テキスト

・鍋倉健悦『人間行動としてのコミュニケーション』(思索社)

参考文献

求めに応じてクラスで紹介する。

評価方法

未定(レポートか試験による)

受講者への要望

特にはない。

年間授業計画

1. 当講座の概要説明
2. コミュニケーションとは何か
3. 人間の体験の世界
4. コミュニケーションの種類
5. 個人内コミュニケーション(1)
6. 個人内コミュニケーション(2)
7. 対人コミュニケーションから集団コミュニケーション
8. ネットコミュニケーション
9. 文化とコミュニケーションのつながり
10. 言語とは何か
11. 言語とコミュニケーション
12. 異文化間コミュニケーションと国際コミュニケーションへ

(後 期)

講義の目標

「冷戦」という国際関係のフレームワークが崩壊したあと、世界の各地域で新しいタイプの紛争や新たな国際秩序を模索する動きが起きている。本講義では、流動的で不透明な現代の国際社会を理解し、次世紀に向かって自らの視点と判断力を養うために

必要な国際関係の基礎的知識と分析方法の習得を目指す。

講義概要

1. 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開について説明するとともに、基本的な国際関係論の理論について解説する。

2. 冷戦崩壊後(ポスト冷戦期)の国際社会で起こった(起きている)幾つかの事象を取り上げ、歴史的背景の確認、現状分析、国際関係全体の中での位置付けなどを盛り込みながら、国際関係の構造変化について検討する。

なお、授業はプレゼンテーション・ソフトとビデオ資料を用いて行い。ビデオ資料も適宜使用する。

テキスト

特に指定しないが、各授業ごとに主要な参考資料を紹介する。

参考文献

長谷川雄一・高杉忠明編著『現代の国際政治』(ミネルヴァ書房、1998年)

田中明彦『新しい中世:21世紀の世界システム』(日本経済新聞社、1996年)など

評価方法

レポートを1回提出したうえで学年末試験を受け、それぞれに一定水準以上の成績を納めることが単位修得の条件。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailで提出する。

年間授業計画

1. 国際関係論とは - 国際関係、国際社会、国家
2. 冷戦の構造 - 冷戦期の国際政治の基本的枠組み
3. 冷戦の起源 - ヤルタ会議の意味
4. 冷戦の展開(1) - ベルリンの壁、軍拡競争、デタント
5. 冷戦の展開(2) - ケーススタディ: ヴェトナム戦争
6. 冷戦の終結 - 社会主義体制の崩壊
7. ポスト冷戦期の現象(1) - 移民の流れが生み出す問題
8. ポスト冷戦期の現象(2) - 民族対立、宗教対立
9. ポスト冷戦期の現象(3) - 金融のグローバル化
10. ポスト冷戦期の現象(4) - イスラームの台頭と「文明の衝突」
11. ポスト冷戦期の現象(5) - インターネットが変える世界
12. まとめ: 国際社会を見る眼
(テーマについては若干の変更があり得る)

科目名	英語音声学 1,2
担当者	大 竹 孝 司

講義の目標

本講義は、アメリカ英語の音声の基礎的な知識を得ることを目的とする。英語音声の生成（発音）と知覚（リスニング）の両側面を扱うことで音声の全体が理解できるようにする。

講義概要

音声学は、他の講義科目と異なり、本に書かれたことを理解するだけでは十分でない。自分で実際に発音できるようになるためには練習が不可欠である。本講義では、英語音声に関する基礎知識を学ぶことが中心となるので、授業外で多くの英語を聞く作業を課したい。なお、外国語の音声を理解することは音声をどのように認識するかと言う問題と密接な関係があるので、様々な音声の実験を通して理解を深めてもらう予定である。

テキスト

最初の授業で指示する。

参考文献

授業時に指示する。

評価方法

試験、課題、実験の三つで総合的に評価する。

受講者への要望

言葉を学ぶということは、脳内に言語を蓄積すること。その為には相当の時間が必要であることを理解して欲しい。

年間授業計画

1. 講義の概要の説明。
2. 音声言語と文字言語の違い、発音記号と音について学ぶ。
3. 調音器官の説明。
4. 英語の母音（英語の母音の分類）
5. 英語の母音（英語の母音の実際の発音と知覚）
6. 英語の子音（英語の子音の分類）
7. 英語の子音（英語の子音の実際の発音と知覚）
8. 英語の音節構造の特徴
9. 英語のアクセントの構造と実際の発音と知覚
10. 英語のリズムの構造と実際の発音と知覚
11. 英語のリズムの構造と実際の発音と知覚
12. 日本人の英語学習の問題点

科目名	英語音声学 3,4,5
担当者	大西雅行

講義の目標

英語に現れる一般的な音声現象や英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。さらには、言語研究やその応用研究への基礎となる入門事項を述べる。

講義概要

音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類、英語音の各論、日英米音の差異、英語の韻律特徴など通常の発話に必要な現象を講義する。視聴覚機器を使い理論と実際音との両面から授業を進める。

テキスト

なし。

評価方法

期末テストによる

年間授業計画

1. 英語の標準語と標準音
2. 発音器官の部位と機能
3. 音声の表記法
4. 母音の定義と分類
5. 英語の単母音
6. 英語の二重母音、三重母音
7. 英語の子音分類
8. 破裂音、破擦音、
9. 鼻音、側音、摩擦音、半母音
10. 連続音中の音変化
11. 強勢、リズム
12. 長音、イントネーション

科目名	スピーチ・クリニック 1,2,3,4
担当者	浅岡 千利世

講義の目標

英語の音を聞き取り、自分でも自信を持って発話できるようにする。

講義概要

さまざまな音を聞き、自分でも正確に発音できるような訓練を行う。前半は単語レベル、徐々にセンテンスレベル、パラグラフレベルの発音を練習する。実際の会話の流れの中での発音の重要性を学ぶ。

テキスト

M. Hewings & S. Goldstein, *Pronunciation Plus - Practice Through Interaction* (Cambridge Univ. Press)

評価方法

出席、小テスト、テーププロジェクト、授業参加態度などを総合して評価する。

受講者への要望

英英辞書を持参すること。

年間授業計画

- 1 . Introduction to course, phonetic symbols
- 2 . Reading phonetic symbols
- 3 . Vowels
- 4 . Vowels and consonants
- 5 . Consonants, quiz 1
- 6 . Rhythm
- 7 . Connected speech, thought groups
- 8 . Linking words, quiz 2
- 9 . Disappearing sounds, prominent words
- 10 . More on prominent and nonprominent words
- 11 . Weak and strong forms, long and short forms
- 12 . Quiz 3, wrap-up activity

科目名	スピーチ・クリニック 6.7
担当者	清水 由理子

講義の目標

2年生以上で教職を目指す人が対象となる授業で次のような目的で行う。

英語の発音矯正を主な目的とする。発音矯正の第一歩として、まず聞き取りの力をつけることから始める。音や強勢・抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるようにするための訓練をする。

将来、英語教員になる人のためのコースであるので、英語の発音に関することを教室で教える際にも役立つような方法を身につける。

講義概要

英語音の単音からはじまり、音のつながり、リズム、抑揚について学ぶ。英語の発音の仕方の要点を把握し、それを実践出来るようにテープ等を使いながら練習する。毎回、診断テストとアチーブメント・テストを行なうので、これを手掛かりとして自分の苦手な部分を十分練習していく。

テキスト

New Approach to English Pronunciation (愛育社)

参考文献

授業時に紹介する。

評価方法

日常点(毎時間行う Achievement Test の結果と出席状況)および定期試験(Listening と Speaking)の結果による。

受講者への要望

前期・後期各 20 名の定員制である。

英語音声学を既習していることが望まれる。少なくとも発音記号は読めることが必要である。

毎回の練習の積み上げが必要なので、欠席をしないように。また、60 分テープ 1 本を必ず毎回持参すること。

[注意事項]

一年次にスピーチ・クリニックを既に履修した場合は、重複履修になるため、この授業は履修できない。

前期授業の第一日目(後期受講を希望する場合も)に必ず出席すること。人数によってはその日に調整する。無断登録はしないこと。

年間授業計画

1. Introduction and Pre - Test, Lesson 1: Stress

2. Lessons 2 - 3: Stops (1) and (2)

3. Lessons 4 - 5: Stops (3) and Fricatives (1)

4. Lessons 6 - 7: Fricatives (2) and (3)

5. Lessons 8 - 9: Nasals and Liquids (1)

6. Lessons 10 - 11: Liquids (2) and Semivowels

7. Lessons 12 - 13: Consonant Clusters and Stress & Rhythm

8. Lessons 14 - 15: Front Vowels (1) and (2)

9. Lessons 16 - 17: Central Vowels (1) and (2)

10. Lessons 18 - 19: Back Vowels (1) and (2)

11. Lessons 20 - 21: Diphthongs and Obscure Vowels & Rhythm

12. Lessons 22 - 23: Intonation (1) and (2)

科目名	専門講読 1 (アメリカ文学)
担当者	秋山 武夫

講義の目標

アメリカを文学を通して比較文化の立場から現代のアメリカを概観してみたい。

講義概要

移民の国アメリカのかかえている葛藤を考え、論じあいたい。原住民インディアンの現状、黒人の苦悩、日本、中国、イギリス、ドイツなどさまざまな国から移民した人々の異文化体験、一世と二世の葛藤、日系アメリカ人の太平洋戦争時の苦難などの文章(短編小説、詩、エッセイ)を読んでいく。

テキスト

Crossing Cultures by Henry and Myma Knepler (ed.) のプリントを使用する。

参考文献

特になし。

評価方法

出席、提出レポート及びテスト。

受講者への要望

多くの本を読んでほしい。

年間授業計画

- 1 . Henry Mark Petrakis, "Barba Nikos"
- 2 . Marcus Mabry, "Living in Two Worlds"
- 3 . Alfred Kazin, "The Kitchen"
- 4 . Malcolm X, "Hair"
- 5 . Jeanne and James Houston, "Arrival at Manzanar"
- 6 . Dwight Okita, "In Responsee to Executive Order 9066"
- 7 . Michel St. Jean de Crivecoeur
"What Is an American?"
- 8 . Alistair Cooke, "The Huddled Masses"
- 9 . Joseph Bruchac, "Ellis Island"
- 10 . Mark Salzman, "Teacher Mark"
- 11 . George Orwell, "Shooting an Elephant"
- 12 . Ian Buruma, "Conformity & Individuality in Japan"
- 13 . Laura Bohannon, "Shakespeare in the Bush"
- 14 . Robin Lakoff, "You Are What You Say"
- 15 . Jack Shabean, "The Media's Image of Arabs"
- 16 . Donna Cross, "Sin, Suffer and Repent"
- 17 . Bernard Malamud, "The German Refugee"
- 18 . Alan Devenish, "After the Beep"

- 19 . Christopher Columbus, "Journal of Discovery"
- 20 . Michael Dorris, "For the Indians, No Thanksgiving"
- 21 . Piri Thomas, "Alian Turf"
- 22 . Beete Lord, "Walking in Lucky Shoes"
- 23 . Brent Staples, "Night Walker"
- 24 . Walter White, "I Learn What I Am"

科目名	専門講読 2 (英米文化)
担当者	阿 部 純 一

講義の目標

アメリカの東アジア外交の現状分析をおこなう。

講義概要

混迷を極めた 2000 年米大統領選挙でブッシュ新政権が誕生した。新政権にとって、東アジアはクリントン前政権に引き続き、外交の重点地域に位置づけられる。クリントン外交を「場当たりので一貫性を欠く」と批判してきたブッシュ政権としては、早々に「前政権との違い」をアピールすることになるが、注目されるのは中国政策の見直し、日米同盟の強化、台湾の防衛へのコミットメント確認など、いずれの点でも米中関係を冷却化させる政策展開であろう。こうした関心領域をカバーする文献を選択し、アメリカの東アジア外交の現状と展望について分析する。

テキスト

インターネットからアメリカの公式外交書、政府高官の議会証言およびシンクタンクのレポート等、最新のテキストを入手し、毎回配布する。

参考文献

なし

評価方法

成績は授業時の学生による報告（詳細なレジュメを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件となる。出席率 70%以下は不可。

受講者への要望

現代国際関係、とくに最近の東アジア情勢について基礎的な知識を持っていることが履修の最低条件。

年間授業計画

その時々的情勢と政策展開により、取り上げるトピックス、テキストを考えるので未定。

科目名	専門講読3(応用言語学)
担当者	阿部 一

講義の目標

本講座は「会話分析」(Conversational Analysis) についての基本的な知識を得ることと、実際のコーパスをプロソディーを含めたスクリプトをもとに分析体験してみることを目標とする。そのために必要とされるコーパス言語学とプロソディー表記法の基礎も合わせて学習する。合わせて、総合的な英語力のレベルアップを図る。

講義概要

基本的な各種文献や実際の資料を読み進めつつ、「会話分析」の必要性や基本的な考え方や枠組あるいは分析方法などについて解説を加えていく。と同時に、映画や記録フィルムあるいは会議録などのコーパスを実際に分析してみる。さらに、お互いに分析結果を発表することで、より多く英語における日常会話の特徴に気付く機会を持ちたいと考えている。

テキスト

未定(最初の授業で指示する)

参考文献

未定(最初の授業で指示する)

評価方法

授業内のグループ及び個人発表: 40% 各学期末のテストもしくはレポート: 40% 年に数回行われる小テストもしくはコーパスの分析: 10% 発表重視型の授業なので出席はキチンとする: 10%

受講者への要望

「ことば」や特に日常会話の「構成力」に興味のある人、英語の「語感」を身に付けたいという人に受講して欲しい。

年間授業計画

1. オリエンテーション: 会話分析とは?
2. 会話分析入門 理論篇(その1)+実例を観察(その1)
3. " 理論篇(その2)+ " (その2)
4. " 理論篇(その3)+ " (その3)
5. 会話分析の具体的な方法・手順(その1)
ER 他
6. " (その2)
ER 他
7. " (その3)

教室他

8. 実践発表(その1)+プロソディー表記法の注意点
9. " (その2)
10. " (その3)
11. " (その4)
12. " (その5)
13. 会話分析 バリエーション(その1)+映画などの利用法
14. " "
15. " "
16. " (その6)+ " (その1)
17. " (その7)+ " (その2)
18. " (その8)+ " (その3)
19. " (その9)+ " (その4)
20. " (その10)+ " (その5)
21. 映像まで含めたトータルな会話分析例(その1)
Doctor Patient 他
22. (その2)
裁判・政治 他
23. (その3)
カウンセリング 他
24. エピローグ: 今後の課題と展望

科目名	専門講読 4 (ワシントンDCの「ベトナム戦争戦没者慰霊碑」)
担当者	板 場 良 久

講義の目標

コミュニケーション研究の学術論文を英語で読む。関連小説も読む。なんとしても読破する。日本で一般的に知られている観光スポットの説明がいかにも不十分かを知る。現地の複数の声に耳を傾ける。

記念碑のような「過去」を象徴したものを「現在」の自分がどこまで意味をみいだせるか、深く考え、読み解いてみる。仲間と論議してみる。他の記念碑や文化的シンボルについても英語で語れるようにする。コミュニケーションにおけるメッセージが一義的でないことを認識する。

講義概要

米国の首都ワシントン DC には有名な記念建造物がたくさんあります。米国のコミュニケーション学会では、これらが現地の人々と対話するという観点から、さまざまな論文が発表されてきました。このクラスでは、「ベトナム戦争戦没者慰霊碑 (Vietnam Veterans Memorial)」に関連した英語論文(4本、A4コピーで合計 35 枚分)と小説(1篇、245 頁)を読んで話し合います。なお、授業形式は、訳読はいつさい行わず、グループ学習、ディスカッション、グループ発表をひんばんに用います。また、初回のクラスを除いて、すべて平易な英語で行いますので、それも了解の上で履修してください。

テキスト

論文(配布資料):(a) P. Ehrenhaus, "The Vietnam Veterans Memorial..." Argumentation & Advocacy, 25 (1988): 56-64. (b) S.K. Foss, "Ambiguity as Persuasion..." Communication Quarterly, 34 (1986): 326-340. (c) A.C. Carlson & J.E. Hocking, "Strategies of Redemption..." Western Journal of Speech Communication, 52 (1988): 203-215. (d) C. Blair, et al., "Public Memorializing in Postmodernity..." Quarterly Journal of Speech, 77 (1991): 263-288. 課題図書: Bobbie Ann Mason, In Country (Harper & Row, 1985), Paperback.

参考文献

『地球の歩き方 - ワシントン D . C . 』(ダイヤモンド・ビク社)

評価方法

クイズ 60% グループ発表 20% 学期末レポート (Take-Home Exam) 20%

受講者への要望

グループ・ワークに積極的に参加・貢献する意欲を持続できそうかを判断してから履修登録してください。課題小説 In Country は夏休み明けまでに各自で最低 1 回は読んでおいてください。

年間授業計画

- 1 . Overview.
- 2 . Lecture(1) : "Let's Look at the Washington Mall in Washington DC, USA. What's VVM?"
3. Lecture(2) : "What's Rhetoric in Communication Studies? A Critical Approach."
- 4 . P. Ehrenhaus, A & A, (1).
- 5 . P. Ehrenhaus, A & A, (2).
- 6 . P. Ehrenhaus, A & A, (3).
- 7 . S.K. Foss, CQ, (1).
- 8 . S.K. Foss, CQ, (2).
- 9 . S.K. Foss, CQ, (3).
- 10 . Preparation for Group Presentation.
- 11 . Group Presentation, (1).
- 12 . Group Presentation, (2).
- 13 . Bobbie Ann Mason, In Country (1).
- 14 . Bobbie Ann Mason, In Country (2).
- 15 . A. C. Carlson & J. E. Hocking, WJSC, (1).
- 16 . A. C. Carlson & J. E. Hocking, WJSC, (2).
- 17 . A. C. Carlson & J. E. Hocking, WJSC, (3).
- 18 . Carole Blair, et al., QJS, (1).
- 19 . Carole Blair, et al., QJS, (2).
- 20 . Carole Blair, et al., QJS, (3).
- 21 . Preparation for Group Presentation.
- 22 . Group Presentation, (1).
- 23 . Group Presentation, (2) ; Receive Take-Home Exam.
- 24 . Feedback Session; Take-Home Exam Due.

科目名	専門講読 5 (英語学)
担当者	大西雅行

講義の目標

英語は異なった国で異なった人が異なった発音で用いている。その個々の違いは別言語のように理解しがたいものもある。この本は3巻からなり、1巻は入門、2巻はイギリス諸島、3巻はその他の国に分けている。英語の音特徴を項目別に事例を多く取り込み、内容は詳しく多少難しいところもあるが分かりやすくまとめている。個々の音現象を理解すると、個々の英語が見え、世界の英語も浮かび上がってくる。

講義概要

学生が訳し、講義担当者が注、補足説明を行う。

テキスト

プリント (J. C. Wells, *Accents of English* , Cambridge University Press の抜粋)

評価方法

前期・後期の期末テストと平常点

年間授業計画

- 1 . Dialect and accent
- 2 . Geographical variation
- 3 . Social variability
- 4 . Accent phonology
- 5 . Phonetic similarity
- 6 . Affricates and diphthongs
- 7 . Phonological rules
- 8 . Phonetic realization
- 9 . Rhythmical characteristics
- 10 . Voice quality
- 11 . The vowel system of RP
- 12 . The vowel system of General American
- 13 . RP and Gen. Ame. : further comparison
- 14 . The velar fricative
- 15 . Thought monophthonging
- 16 . Pre-Fricative lengthening
- 17 . Yod dropping
- 18 . Vowels before / r /
- 19 . R dropping and R insertion
- 20 . Glide cluster reduction
- 21 . BATH and CLOTH
- 22 . Tapping and T voicing
- 23 . Diphthong shift
- 24 . Glottalization

科目名	専門講読 6 (アメリカにおける黒人文化の流れ)
担当者	岡田 誠 一

講義の目標

アメリカ黒人文学の背景となっている、黒人文化の流れを学ぶのが、この講義の目標。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストとして使う予定。英文をじっくり読む訓練によって、将来どのような仕事に就こうとも、必ず役立つような英語力を培うことを目指す授業でもある。

講義概要

アメリカ黒人の文化には、我々日本人に知られていないことがたくさんある。そして、これらを知らなければ、アメリカ黒人文学を十分に理解することはできない。

今年度も、このようなアメリカ文学の背景を学んでいく予定である。

なお、アメリカ文学を知るための一助として、年間2～3本の米文学・文化に関係する映画を鑑賞する計画である。

テキスト

プリントを使用する予定。

参考文献

授業にて適宜指示する。

評価方法

評価は前後期の試験と出席状況、及び、どの程度予習をして授業に臨んだか、などによって決定される。

受講者への要望

毎回当たるものと考え、必ず予習をして授業に出ること。また、出席を重視する点にも留意すること。

年間授業計画

- 1 . Back to Africa? / Work and Freedom
- 2 . Hardships Endured / Education
- 3 . A Famous Actor / Arts and Sciences
- 4 . The Written Word / Highways and Byways
- 5 . The Convention Movement / “ Liberty...Next unto Life ”
- 6 . Mighty Words / Negro Abolitionists
- 7 . Freedom's Journals / Garrison and Phillips
- 8 . The South Strikes Back / In Spite of Mobs
- 9 . Songs of Freedom / Great Reformers
- 10 . Anti-Slavery Poets / “ The Branded Hand ”
- 11 . A Crime to Teach / Mutiny on the Amistad

12 . “ God...Give Me Utterance”

13 . Frederick Douglass

14 . “ One Life to Lose ” / “ A Piece of Property or a Man ”

15 . “ All We Are Brethren ” / Anti-Slavery Politics

16 . A Negro Resolution / The Republican Party

17 . “ I Think of the Great Things of God, Not the Little Things ”

18 . The Underground Railroad / “ The Business of Egypt ”

19 . Rescue by Force / The Year 1851

20 . The Sims Case

21 . 40,000 dollars for a Slave

22 . Former Slaves Tell Their Tales / “ Uncle Tom's Cabin ”

23 . “ The Impending Crisis of the South ” / John Brown's Raid

24 . “ For a Noble Cause ” / “ High Noon ”

科目名	専門講読 7 (アジア太平洋諸国の政治・国際関係)
担当者	金子 芳 樹

講義の目標

アジア太平洋地域諸国の政治と同地域の国際関係の基本的構造を理解するとともに、各国の現状分析を行う際の視点・手法の習得を図る。

講義概要

テキスト（アジア太平洋地域の政治・国際関係の現状分析を国別に行ったもの）を読み進めることを中心に、同地域に横たわる諸問題について検討する。受講者は指定されたテキストのパートを熟読したうえで、さらにその他の文献・資料で関連知識を補強しながら報告を行う。英語による要約を求める場合もあり得る。また、履修者全員に対して、指定したテーマに関するレポートの提出を定期的に（月に1・2回程度）求める。

テキスト

Far Eastern Economic Review, Asia 2001 Yearbook : A Review of the Events of 2000, Review Publishing Company Limited, 2000.

（価格は約 4500 円。なお、テキストは一括購入するので受講者が事前に準備する必要はない）

参考文献

アジア経済研究所『アジア動向年報 2000』アジア経済研究所、2000年

平和・安全保障研究所『アジアの安全保障 1999/2000』朝雲新聞社、1999年

Richard W. Baker, Charles E. Morrison, *Asia Pacific Security Outlook 2000*, Japan Center for International Exchange, 2000

評価方法

出席率、報告内容、討論への参加状況、レポート内容に基づいて総合的に評価を行う。

受講者への要望

出席を重視する。受講者数の上限を設定する。

年間授業計画

（テキストのパートごとに進める）

科目名	専門講読8(英語学)
担当者	川崎 潔

講義の目標

英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version(1611年出版)は W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書である。AV は先行する英訳聖書の粹を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは「英語散文の金字塔」であり、「近代英語の性格を決定した」と言われるに至ったからである。Book of Job のヘブル語源典は text の乱れがあるので、原典解釈上の進歩による改訂版 Revised Version で Book of Job を読むことにしたい。

講義概要

Book of Job は、正しい人が苦難に襲われることがあるのは何故かという mystery of suffering の問題を中心として、神の絶対性と人間の浅はかさを教える偉大な宗教文学である。授業ではテキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。Revised Version (1885年出版)は用語や文体がほぼ AV に似ているが、これを他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version (新旧両訳1952)や New English Bible (新旧両訳・外典1970)と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。

テキスト

齋藤 勇注釈; *The Book of Job* (in the Revised Version) 研究社

参考文献

- ・浅野順一『ヨブ記の研究』創文社
- ・浅野順一『ヨブ記注解』, , , 創文社
- ・浅野順一『ヨブ記 その今日への意義』(岩波新書)

評価方法

前期と後期の2回の期末テストと平常点によって評価する。

受講者への要望

予習と復習を行うことを要望したい。

年間授業計画

1. Chapter
2. Chapter
3. Chapter
4. Chapter ,Chapter

5. Chapter
6. Chapter
7. Chapter
8. Chapter , Chapter
9. Chapter
10. Chapter
11. Chapter
12. Chapter
13. Chapter , Chapter X
14. Chapter X
15. Chapter X
16. Chapter XII
17. Chapter XII, Chapter III
18. Chapter XIII
19. Chapter XIV
20. Chapter XXXVIII
21. Chapter XXXVIII
22. Chapter XL
23. Chapter XLII
24. 予備日

科目名	専門講読9(イギリス文学)
担当者	北澤 滋久

講義の目標

高級な文学作品をどう読み、いかに理解して、自己の感性にも照らして各自の心の糧にするかを、従来からこの授業の目標としている。言語芸術としての文学の表現の妙を味わい、象徴的意味を把握して、作家がそこに注ぎこんだテーマを吟味、解明、思考するのである。従って単に英文を日本語に読み替えて、それでこと足りるというわけにはゆかない。

講義概要

今回は、上の線に沿って、下記の中編小説を精読する。現代文明を支える「アポロ的」世界観に対抗する「ディオニユスソ的」宇宙観に基づくロレンスの思想が最もよく表された作品と思われ、担当者はすでに下記の参考文献に掲げた拙著において、詳しい textual criticism をおこなっていて参考に供しえようが、この授業に関する限り、文中の翻訳の丸呑みでよしというわけにもゆかない。

テキスト

D. H. Lawrence, *The Ladybird*.

参考文献

北澤滋久著、『D. H. ロレンス、生と死のファンタジィ：人と文明の再生をもとめて』（金星堂）

評価方法

平常点・前後期の試験・休暇期間中の小論文において評価する予定である。

受講者への要望

文字通りの「専門」講読である。上記の主旨に納得の学生のみを受講を切に望んでいる。なお、最初の授業には必ず出席のこと。

科目名	専門講読 10 (英米の現代劇)
担当者	児嶋 一 男

講義の目標

英文を精読する。戯曲テキストから会話の英語表現を学ぶ。舞台上で交わされる話し言葉を意識して、訳の日本語表現を考える。一回に約 10 ページずつ進んで、英文を読む量を増やす。作品の普遍性を考えながら戯曲というひとつの文学作品を解釈する。

講義概要

まず T.Wilder と E. O'Neill の一幕劇を読んで劇作品の講読に慣れ、続いて W. Russell のミュージカル (全二幕) を読む。は、日本では柴田恭平が 7 歳から 20 代の青年までを演じて話題となり、過去に繰り返し再演され、ロンドンでは 2001 年 1 月現在で 17 年のロングランを続けている。各作品が世界で受け入れられる理由を考えながら、ロール・プレイ形式で読む。

テキスト

『アメリカ一幕劇集』(開文社)、 *Blood Brothers* (新水社)

参考文献

授業中に話す。

評価方法

毎回の vocabulary テストと前期・後期の観劇レポートによる。定期試験は行なわない。出欠は毎回授業の開始時にとり、全授業数の 3 分の 1 以上欠席した者には単位を認めない。

受講者への要望

第一回目のテキストのコピーを中央棟 5 階 504 室前に置いてある。読み終わったら vocabulary テストを行うので、準備したうえで出席すること。

科目名	専門講読 11 (コミュニケーション論)
担当者	佐々木 輝 美

講義の目標

マス・コミュニケーションに関わるモデルを理解し、それらのモデルを利用してマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目的とする。

講義概要

過去の研究者によって提出された主なコミュニケーション・モデルについての英文を読み、具体的な例を当てはめながら個々のモデルを理解していく。

テキスト

McQuail, D. & Windahl, S. (1993). *Communication models for the study of mass communication*. Longman.

評価方法

定期試験、グループ発表、平常点の総合評価を行う。

受講者への要望

グループ発表を中心に授業を進めていきますので、活発な質疑応答に備えて下さい。1冊(225ページ)を1年間で読み終えます。

年間授業計画

以下の内容を1日約10ページずつ読み、その内容について効果的にグループ発表を行います。

<前期>

第1章: Introduction

第2章: Basic models

第3章: Personal influence, diffusion and short-term effects of mass communication on individuals

第4章: Effects of mass communication on culture and society (~ p.110)

<後期>

第4章: Effects of mass communication on culture and society (p.111 ~)

第5章: Audience-centered models

第6章: Media organization, selection and production

第7章: Planned communication

第8章: New media and the information society

第9章: International communication

科目名	専門講読 12 (アメリカのエスニックヒストリー)
担当者	佐藤唯行

講義の目標

平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を、授業の目標といたします。

講義概要

使用するテキストは合衆国ユダヤ史の研究者フェインゴールドがアメリカ人の大学生向きに執筆した教科書です。そこにかかれた文章は比較的平易で平均的な大学生でも辞書をひきながら読む事が出来るでしょう。唯、時おり「特殊な単語」が登場することがありますので、そういう時には、労を惜まず図書館へゆき「大きな辞書」で調べてください。合衆国ユダヤ人史の通史である本書の中で、この授業では第 3 章「植民地時代と独立革命期の経済におけるユダヤ人」、第 4 章「旧南部期の経済におけるユダヤ人」、第 5 章「ドイツ系ユダヤ人の経済的成功」を中心に訳読を行います。正確な和訳作業を各センテンス毎に行うと同時に、パラグラフ毎の要旨をまとめる事が授業では要求されます。

テキスト

Zion in America, H. L. Feingold (1974) テキストはコピーを配布いたします。

評価方法

評価は試験結果 60%、平常点 40%、欠席が授業回数 の 1 / 3 を超えた場合、試験結果が合格点に達していても単位を与えません。遅刻は 3 回で欠席 1 回分に換算します。

科目名	専門講読 13 (英語の文体)
担当者	四宮 満

16 . "

17 . "

18 . "

19 . "

20 . "

21 . "

22 . "

23 . "

24 . "

講義の目標

いろいろな分野、レジスターの英文（フィクション、ノンフィクション）を読み、それぞれの表現の特徴を理解し、読みの中、深さのレベルをあげ、英語文体への興味を深める。

講義概要

新聞、雑誌などジャーナリズムの英文、広告、技術（テクニカルなもの）の英文、小説、詩などのフィクションの英文などを読み、それぞれの語い、統語形式、談話などの分析をする。なお英文の内容についてのコメントを和文、英文で求めることもある。

テキスト

- ・プリント（教室で配布）
- ・ *Modern English Language Reader* by R.Carter

参考文献

Exploring The Language of poems, plays and prose by M.Short

評価方法

レポートとテストによる。なお出席の悪いものは評価の対象にならない（授業の性格上）

受講者への要望

英語の読む力を増進するためにも必ず宿題、課題をこなす、こなしたい熱意をもっていること。出席すること。

年間授業計画

1. 授業についてのオリエンテーション、授業のプリント配布
2. テキストの読み（プリントその他）解説、コメント（学生の）、課題（次週の）提示
3. "
4. "
5. "
6. "
7. "
8. "
9. "
10. "
11. "
12. "
13. "
14. "
15. "

科目名	専門講読 14 (イギリス児童文学)
担当者	白鳥正孝

講義の目標

「習うより慣れよ」(Use makes perfect.)の観点から、面白くて易しい英語を多読することを目的とする。(昨年の実績は約510頁ほどであった。)

講義概要

Lang (Andrew, 1844-1912) の『色分昔話集』(全12巻)の内、『茶色昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に追ぎないが、中には翻訳、再話で少し変えているところもある。今回はなじみの話は少ないが、基本は同じ：夢とヒューマーとペイソスである。(一回20頁を2人の共同責任で読む。)

テキスト

Lang, A. ed. *The Brown Fairy Book*, Dover, 1965
(受講数が確定し次第海外発注するので、初めはプリント使用。)

参考文献

その都度、教室で指示する。

評価方法

期末毎(前後期)のペーパーテストと夏の課題(詳細は教室にて指示)と平常授業での発表具合も参考にし、総合的に評価する。

受講者への要望

アニメは勿論、映画や芝居や音楽などにも案外、昔話に材をとっているものが多い。易しいなどと馬鹿にするなかれ。

年間授業計画

- 1 . " What The Rose Did to The Cypress, "
- 2 . (同続き)
- 3 . " Ball-Carrier And The Bad One "
- 4 . " The Bunyip "
- 5 . " Father Grumbler "
- 6 . " The Story of The Yara "
- 7 . " The Cunning Hare "
- 8 . " The Turtle And His Bride "
- 9 . " Geirald The Coward "
- 10 . " The Little And Big Brothers "
- 11 . " The Husband of The Rat ' s ",
- 12 . " Pivi And Kabo "
- 13 . " Fortune And The Wood-Cutler "
- 14 . " The Sister of The Sun "
- 15 . " The Prince And The Three Fates "
- 16 . " The Lion and The Cat "

17 . " Rubezahl "

18 . " Story of The King Who Would Be Stronger Than Fate "

19 . " Wali Dad The Simple-Hearted "

20 . " The Knights of The Fish "

21 . *The Crimson Fairy Book* (プリント)
"Lovely Ilonka" (以下同書より)

22 . " The Hairy Man "

23 . " The Story of The Seven Simons "

24 . " The Boy Who Could Keep A Secret "

科目名	専門講読 15 (各種英文ビジネス文書の読み方と実務)
担当者	杉山晴信

講義の目標

ビジネス通信文 (Business Correspondence) のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書にまで学習範囲を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とリーガルマインドの早期涵養を目指します。具体的には、法律文書 (契約書、定款等) と英文財務諸表の「現物」をテキストとして読み、当該分野に用いられる英語を言語的知識として学ぶと同時に、ビジネスに関する実務的知識を習得することを目標とします。

講義概要

今年度は、前期に海外販売代理店契約の英文契約書と米国法に基づく株式会社の設立定款を、後期に米国企業が作成した英文財務諸表をそれぞれ教材として扱います。前期の授業では、法律英語の文体や語法、英文契約書の構造、定款の記載事項などについて若干の説明を行った後、履修者に担当箇所を順次発表していただく予定です。後期の授業では、貸借対照表と損益計算書の意義、表示区分と読み方、各種の分析指標などについて十分な講義を行ってから、実在の企業の直近の財務諸表を読み、業績を検討します。

テキスト

プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。

参考文献

小中信幸監修・中谷栄一郎著『契約の英語』(荒竹出版、1994)

長谷川俊明『法律英語のカギ』(正・続)(東京布井出版、1985,1988)

菊地義明『英和契約・法律基本用語辞典』(洋販出版、1997)

本郷孔洋・永峰潤『よくわかる英文会計』(税務経理協会、1997)

小川洌・鎌田信夫『現代英和会計用語辞典』(同文館、1991)

評価方法

出席や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験(またはレポート)の結果を加味して決定します。

受講者への要望

コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。

年間授業計画

1. 1年間の授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。
2. 「契約」の概念、英米契約法における主要原則、代表的な国際契約類型の概要と特色について講義します。
3. 英文契約書の標準的構成と用語法について、実例を用いて説明します。
4. 海外販売代理店契約について全体的な説明を行った後、契約書の前文を読みます。
5. 当事者の指定、当事者関係、販売地域、および取扱製品の各条項を読みます。
6. 排他独占権、最低保証、個々の契約、および情報と報告の条項を読みます。
7. 販売促進と工業所有権の条項を読みます。
8. 地域外販売禁止、および費用の条項を読みます。
9. その他の一般条項を読みます。
10. 米国における株式会社の設立手順と定款の記載事項について、日本の場合と比較して詳しく講義します。
11. 日本企業の米国子会社(現地法人)の設立定款を読みます。
12. 同上
13. 財務諸表(特に貸借対照表と損益計算書)の意義について詳しく講義します。
14. 英文財務諸表の表示区分と読み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。
15. 同上
16. 実在の企業の英文財務諸表をテキストとして、実務知識を習得しながら読みます。
17. 同上
18. 同上
19. 同上
20. 同上
21. 財務分析について講義し、流動性、健全性、収益性、効率性、および成長性の各々に関する主要な分析指標を紹介します。
22. テキストとして扱った企業の業績を上記の分析指標を用いて検討します。
23. 同上
24. 1年間の授業を総括し、質疑応答と討議を行います。

科目名	専門講読 16 (- ドライデン -)
担当者	園部明彦

講義の目標

本年度は、第二版から削除された部分を取り上げる。推敲不足のためか、やや文体に堅さが見られるという点以外は、昨年度のテキストと内容的にはまったく変りない。強いて言えば、論旨の説明に飛躍があり、その分、難解になっている。授業では、一言一句疎かにせず厳密に読み進めていく。教養英語の延長と考えていただきたい。スクール・グラマーの復習には最適となろう。

講義概要

「詩と絵画の対比論」は、詩と絵画に見られる類似点、相違点を論じたものだが、そこには時としてドライデンの置かれた複雑な時代背景が顔を覗かせる。ピューリタン革命、王政復古という目まぐるしい変化に対し、ドライデンのような文化人はどのように対応していったか興味深いテーマがここには見られる。

テキスト

ドライデン「詩と絵画の対比論」(プリント)

評価方法

毎回 10 点満点としての評価の合計を年間の成績として出す。従って、欠席は非常に不利になる。

受講者への要望

遅刻ほど周りに迷惑をかけるばかりでなく、授業に対する意欲を失わせるものはない。例年どおり、遅刻は絶対に認めない方針である。次に授業のポイントを示すので、参考にされたい。

年間授業計画

1. 比較級について
2. then について
3. no ~ but の構文
4. if not の構文
5. 省略文について
6. 代名詞について
7. advantage について
8. mechanic について
9. 比較級と代名詞について
10. 目的補語について
11. 省略文について
12. above の用法について
13. 省略文について
14. person について

15. 代名詞について
16. sort について
17. 代名詞について
18. air について
19. the の意味について
20. 特殊な関係代名詞について
21. raising について
22. lost について
23. 代名詞 it の内容について
24. be を含む構文について

科目名	専門講読 17 (パフォーマンス・アートを読む)
担当者	高橋 雄一郎

講義の目標

現在、アメリカ合州国で活躍しているソロ・パフォーマンス・アーティストたちの作品を輪読し、その楽しさに触れるとともに、彼女たち／彼らが提起している問題について議論します。

講義概要

Lisa Kron, *2.5 Minutes Ride* と、Tim Miller, *My Queer Body* を読みます。前者では、ホローコーストで祖父母を殺された女性が、父親との関係をどのように構築していく過程が、また後者では、ゲイの男性が自分のアンデンティティをどのように確立していく過程が演じられます。両作品とも本人の人生を題材としたパーソナルな物語です。作品を扱った劇評や論文なども適宜、教材とする予定です。また、もし時間があまれば、Karen Finley, Holly Hughes などの作品も取り上げたいと思います。

テキスト

プリントを使用。

参考文献

授業中に多数、提示します。とりあえず、イギリスの新聞、*The Independent* (6/2/00,13)に掲載された Jonathan Thompson のエッセイ “A Day Trip to Darkness” を読んでみてください。コピーは高橋研究室(611)の外に置いておきます。受講確定者は、感想を初回の授業で発表できるように、日本語で 400 字から 600 字程度の原稿にまとめておいて下さい。

評価方法

平常点（予習、授業への積極的な参加、小テスト、宿題を含む）が、60%。学年末に提出する 4000 字程度のレポートが 40%。

受講者への要望

病気、実習などの場合を除き、予習した上で毎週授業に出席しないと単位は取れません。予習とは単語の意味を調べるだけでなく、文章のつながりを考え、背景の思想や社会問題についても考えてくることなのは、いうまでもありません。

年間授業計画

未定

科目名	専門講読 18 (現代の国際関係)
担当者	竹田 いさみ

講義の目標

アジア太平洋地域の国際関係と安全保障を分析することが、第 1 の目的です。第 2 の目的は、英語の運用能力を高めるとともに、現代の国際関係に関する情報を獲得することです。対象国 (18 カ国・地域) は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、欧州連合、日本、韓国など先進諸国、中国、インド、ロシアなど巨大な途上国、シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジア諸国連合 (ASEAN) 諸国などです。

講義概要

アジア太平洋の国際関係と安全保障問題を、テキストを使用しながら分析します。テキストは 2 部構成となっており、第 1 部は全体を鳥瞰する地域的展望 (Regional Overview)、第 2 は国別 (18 カ国・地域) の概観となっています。テキストの大半は第 2 部です。第 2 部では日米欧などの先進国、中国・ロシア・インドなどの巨大な途上国、ASEAN 諸国などが、どのような国際問題に関心を持ち、どのような視点から安全保障環境を分析し、いかに個別的な対応 (外交政策・安全保障政策) を模索・形成しているかが検討されます。

テキスト

Richard Baker and Charles Morrison ed., Asia Pacific Security Outlook 2000
(Tokyo: Japan Center for International Exchange, 2000)

参考文献

Asia Yearbook 1990 Edition ~ 2001 Edition
(Hong Kong: Far Eastern Economic Review)
『朝日現代用語・知恵蔵 2001』(朝日新聞社、2000年) など現代用語事典

評価方法

受講生による報告 (レジュメを用意すること) と討議への参加が評価の基準となります。

受講者への要望

報告するためには、十分な予習が必要となります。英語辞典に収録されていない用語に出会ったら、新聞、現代用語事典、専門書などで用語の内容を理解することが求められます。参加型の授業であり、物理的に出席できない学生は履修しない方がよいと思います。

科目名	専門講読 19 (イギリス文学 生命へのまなざし)
担当者	珍田 弥一郎

講義の目標

Mandala はサンスクリット語で輪円を意味することばだが、これをキーワードにして宇宙から人体、人間の思考とその表現にいたる全領域をながめてみようとする試みである。

ある現象がマンダラと呼ばれていなくとも、それをマンダラとして見るとき、深い統一体としてあらわれることがある。多様性を統括するマンダラとはなにか。

講義概要

テキストがあつかう対象は多岐にわたり、古今東西の文学・宗教・美術・建築・学問・儀式が引き合いに出される。いわばマンダラ入門である。たとえば、イギリス文学で最もマンダラ的な詩人はウィリアム・ブレイクである。

テキスト

José & Miriam Argüelles: *Mandala* (Shambhala, 1972)

参考文献

テキストに参考文献はくわしく紹介されている。大学図書館にあるものは、そのつど紹介する。

評価方法

年二回の試験またはレポートと、授業への参加度（発表・発言・出席など）による。ことに出席と発表を重視する。

受講者への要望

かならず予習し、内容についてよく考えてくること。

科目名	専門講読 20 (国際関係研究)
担当者	永野 隆行

講義の目標

国際関係の理論と歴史を学び、現代国際関係の理解の一助とする。

講義概要

一年間を通じて、計 2 冊のテキストを読破する。

前期には、国際関係理論についてのテキストを読み、後期には国際関係の現実の世界、すなわち第二次世界大戦後の国際政治史についてのテキストを読む。

指定テキストを 1 週につき約 1 章のペースで進む。登録人数にもよるが、あらかじめ指定された学生が 1 章ごとに内容の発表を行う。指定された学生は、内容をまとめたレジュメを用意し、また特に興味を持った部分については独自に調べ、その結果もあわせて報告する。発表の際、担当教員や他の学生からの質問に対して、適切に答えられたかどうかによって成績評価が決まるので、指定された英文をただ読んでくればそれで済むとは考えないでもらいたい。また毎週、テキストの内容についてのレポートを全学生に要求する。レポートを提出しないものは、たとえ授業に出席しても、欠席扱いとする。

参考文献

前期：Robert Jackson & Georg Sorensen , *Introduction to International Relations* , London: 1999 , Oxford University Press .

後期：Martin Walker , *The Cold War : A History* , London : 1993 , Owl Books .

それぞれのテキストは各自購入のこと。なお、www.amazon.com や www.barnesandnoble.com などにアクセスし、クレジットカードにて注文する方法が便利で早く、しかも割引価格で購入できる。また 4 月以降、図書館のレファレンスカウンターにも授業指定図書として配置する予定。ただし、館外持ち出しはできないので、各自複写して利用することになる。

評価方法

出欠、発表、授業中の参加態度、さらに毎週のレポートによる総合評価。(定期試験は一切行わない) なお、授業総数の 1 / 5 以上の欠席をした場合は、その時点で「不可」となる。2 回の遅刻は欠席 1 回に相当する。就職活動という理由は認められないので、4 年生は特に注意されたい。要件を満たしてい

なければ、「就職が内定しているから、単位をください」と言われても、どうすることもできない。

受講者への要望

本講義は、みずからの自由な意志によって選択し、登録するものであり、授業中の私語、携帯電話のベルなどについては厳罰に処する。場合によっては、登録を取り消す。また自分が担当になっていないからといって、予習を怠るような学生はご遠慮願いたい。

科目名	専門講読 21 (歴史・文化)
担当者	中村 燦

講義の目標

- ・英文を正しく音読し、内容を正確に理解する。
- ・他国と我国との思考発想や文化の相違を理解する。
- ・文化語の語彙を増やし、対外発信の内容を豊かにする。

講義概要

- ・英米人の目を通して見た日本と日本の歴史や戦争を考える。今年度は先ず、「真珠湾攻撃」が「奇襲」ではなく、一年有余にわたるルーズベルトの陰謀であったことを克明な資料調査によって立証した衝撃の話題作品を読む。
- ・指名して音読と和訳をさせる。音吐朗朗、明瞭かつ淀みない朗読力を要求する。
- ・随時、現下の重要問題を解説、論評する。

テキスト

Robert B. Stinnett : *Day of Deceit the truth about FDR and Pearl Harbor*

参考文献

中村 燦 『大東亜戦争への道』(展転社)
 ジョン・トーランド 『真珠湾攻撃』(文藝春秋社)

評価方法

平素の勤怠、授業への姿勢、学期末の試験。

受講者への要望

真剣に授業に臨むこと。始業時には大きな声で挨拶すること。授業中の私語、飲食等厳禁。茶髪、金髪は感心しない。

科目名	専門講読 22 (シェイクスピア「夏の夜の夢」)
担当者	長谷部 加寿子

- 19 .
- 20 .
- 21 .
- 22 .
- 23 . 演技テスト
- 24 . 論文発表と提出

講義の目標

シェイクスピアの劇作品を、立体的に劇として研究する。

講義概要

1595 年頃の作品で、二組の恋人達を軸にして、妖精達、職人達と三つのグループがからみあい、もつれあいながら恋の不安定さを幻想的にしかも現実的に、滑稽にしかも寛容に描いている喜劇である。

グループ毎にわりあてられた、シーンを言葉の意味、訳、演技、演出について研究発表し、クラス討論をする。

テキスト

William Shakespeare : *A Midsummer Night's Dream*

参考文献

テキストは、どの版でも可。各自購入の事。辞典、参考書等は最初の授業の時に話す。

評価方法

年 2 回原文での演技を行い、その演出論と批評論を提出する。及び年 1 回の「『夏の夜の夢』論」を発表し、その論文提出を評価の対象とする。

年間授業計画

1 . 16 世紀イギリスの演劇風土、及びシェイクスピアより全体の概観と読み方

2 .

3 .

4 .

5 .

6 .

7 .

8 .

9 .

10 .

11 .

12 . 3 幕までの演技・演出・批評のテスト

年間授業計画 (a)

13 . 4 幕以降

14 .

15 .

16 .

17 .

18 .

科目名	専門講読 23(20世紀英・米文学)
担当者	林 節 雄

講義の目標

劇作家・ベストセラー作家 Maugham の 1928 年初演の劇をテキストに用いて、マナーの良いイギリス英語の話し言葉を研究し、われわれ自身の英語表現力を豊かにすることを目標とする。なおこのテキストは 1999 年度にも使用し好評だったので、再度新しいアプローチで取り上げる。すでに取った人は受講できない。

講義概要

毎回 5 頁程度を読むこととし、前もって指名された学生数名が発音、意味、表現の問題点を指摘し、質問に答え、私が解説する。特に夫婦間、親子の間の感情の表現の仕方に注意したい。

テキスト

W. Somerset Maugham : *The Sacred Flame*. 北星堂

参考文献

必要に応じて授業中に紹介する。

評価方法

前後期の定期試験と日常の授業への参加度により評価する。

受講者への要望

英語・英語文化をもっと分かるようになりたいという意志を持っている学生が望ましい。

科目名	専門講読 24 (アメリカ文学)
担当者	原 成 吉

講義の目標

英語によって書かれた現代詩をとおして日本を含めた環太平洋文化圏を考える。

講義概要

アメリカの現代詩を代表する詩人ゲーリー・スナイダー (b. 1930) の散文、詩を集めた選集 *The Gary Snyder Reader* (1999) をとおして、地域生態主義 (Bioregionalism) の可能性や禅、チベット仏教、そしてネイティブ・アメリカンの自然観を考える。エコロジーが日常レベルの問題となったいま、自然と人間の関係を、ヨーロッパ = ユダヤ・キリスト教 = 男性中心の視点からではなく、「多文化主義」 (multiculturalism) の立場から検討する。あるインタヴューで「いまいちばん差し迫った環境問題は何か？」という問いに対してスナイダーは、「まず、心と魂の喪失だろうね。いまこの世界の中で生きているという感覚の欠如、本当に豊かであること、地球とはガイア (生命ある惑星) であり、女神であるという認識の欠如こそ、最大の問題だ」と答えている。このクラスでは、ガイアとの触れ合いから生まれた彼の作品を読み、レポーターを中心にディスカッション形式で進める。

テキスト

Gary Snyder, *The Gary Snyder Reader* (Washington, D. C.: Counterpoint, 2000) ISBN : 1582430799 (約 2,000 円) テキストは、amazon.co.jp で購入できるので各自用意しておくこと。購入方法がわからない場合は、最初の授業で希望をとり担当教員が発注する。

参考文献

Patrick Murphy, *A Place for Wayfaring : The Poetry and Prose of Gary Snyder* (Oregon State U P, 2000). 『スナイダー詩集』 (思潮社) 『野性の実践』 (山と溪谷社) 『聖なる地球の集いかな』 (山と溪谷社)

評価方法

授業への参加度と年 2 回のレポート (ワープロで 4,000 字程度の作品論、または詩人論) で決める。欠席は授業回数の 4 分の 1 (6 回) を限度とする。

受講者への要望

英語力と想像力のマッサージのつもりで授業に参加してほしい。

科目名	専門講読 25 (英米文化)
担当者	福井嘉彦

講義の目標

一定水準に達した内容の英文の読解力をつける。

講義概要

聖書の内、「創世紀」に関する内容のものである。

学生による輪読を行う。

テキスト

・ Karen Armstrong : *In the Beginning. A New Interpretation of Genesis.* プリント使用

参考文献

The Bible

評価方法

授業時での発表と試験。一定以上の欠席は不合格。

最初の授業には必ず出席、履修承認の手続きを取ること。

受講者への要望

最初の授業を欠席した場合は、履修単位を認めない。必ず「聖書」を持参して授業に出席すること。

年間授業計画

1. 概要説明と注意等

以下の章を順次講読する。進度はテキストの内容が理解された都度次に進む。

2. 1 Wrestling with God and scripture
- 2 Beginnings
- 3 Creation
3. 4 An Initial Complexity
- 5 Blessing
- 6 Fact or Fiction
4. 7 Separation
- 8 Knowledge
- 9 The Possibility
5. 10 Sin and Curse
- 11 Cain and Abel
- 12 The "Evil Inclination"
6. 13 The Flood
- 14 Noah
- 15 The Ark
7. 16 The New Adam
- 17 The Tower of Babel
- 18 Abraham
8. 19 Lot
- 20 Abraham and Pharaoh
- 21 The Friend of God

9. 22 Family Values

23 Isaac

24 Rebekah

10. 25 Jacob and Esau

26 The blessing of Jacob

27 Jacob's Ladder

11. 28 A Blessing or Curse

29 Jacob Agonistes

但し、以上の全てを読み切れぬ場合もありうる。

科目名	専門講読 26 (短編小説鑑賞)
担当者	富士川 和 男

講義の目標

20 世紀のイギリス作家の短編小説（ジョイス、ロレンス、マンスフィールド、E・ウォー、G・グリーン）を読み、小説の読み方について考える。

講義概要

テキストを精読し、いろいろの点でわからないことに会ったら、どのように解決したらよいかについて考える。作品の鑑賞を通して、作者のメッセージを考察する。受講生に訳読を割り当てる。

テキスト

Modern English Short Stories （英宝社）

評価方法

前後期各 1 回の試験

受講者への要望

必ず予習すること。

年間授業計画

テキストの進度に応じて、問題を提起していく。

科目名	専門講読 27 (イギリス文学)
担当者	藤田永祐

講義の目標

語学力を養成する最も有効な方法の一つは、いかにも英文らしい英文、好きな文章、感情移入できる文章を味わい分析しくり返し読むことです。昔も今も将来もこのことは変わりないと思います。20世紀のクラシカルな作品を選んでテキストにします。原文の一部を自分なりの英文で口で言うか記すか試みて、原文と比較するといった操作を随時とり入れます。

講義概要

簡潔ないい方をすれば、一つ一つの単語や文章の把握の深さ、正確さを求めます。

テキスト

検討中

参考文献

授業中に指摘する

評価方法

平常点と二回のテスト。平常点は、予習復習を当然のこととみなしてつけていきます。

受講者への要望

暇な時間があれば好きな洋書を独り読んでいく積極性

科目名	専門講読 28 (イギリスの政治、議会制民主主義)
担当者	宮川 淑

- 20. 同上
- 21. 同上
- 22. 同上
- 23. 予備
- 24. 予備

講義の目標

第二次世界大戦後、イギリスでは、労働党と保守党の2大政党が交互に政権を担ってきたが、いまは労働党政権でトニー・ブレアが首相をつとめている。ひとつの成文憲法がないイギリスの特徴、ダイアナ死後の王室の存在、変革のさなかにある議会の上院、現在の連合王国の政治の概略、さらに議会制民主主義の成立・発展の過程を知る。

講義概要

前期はイギリスの政治の現況、後期は議会制民主主義の歴史に関する当方で編集した英文文献を訳読する。

テキスト

Introduction to British Politics (当方で準備し配布する)。

参考文献

宮川淑『地元利益定数は憲法違反』(アストラ)

評価方法

前・後期の2度の定期試験の成績に日頃の授業での発表を加味して評価する。

受講者への要望

予習を欠かさないこと。

年間授業計画

1. The Changing Constitution の訳読
2. 同上
3. 同上
4. The Crown の訳読
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. The House of Lords の訳読
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. The Cabinet and Prime Minister の訳読
15. 同上
16. 同上
17. 同上
18. What is Democracy の訳読
19. 同上

科目名	専門講読 29 (現代アメリカ文学 レイモンド・カーヴァー論)
担当者	村松 美映子

講義の目標

Raymond Carver は、わずか 28 年間の作家生活に、数十篇の短編小説を残しました。そして、アメリカだけでなく世界各国の現在活躍中の作家や芸術家に影響を与え続けています。作品の共通した特徴として、ありふれた設定、断片的な語り、結論を与えない終わり方があげられるため、Raymond Carver は「ミニマリズム作家」の旗手として評されています。また、彼の卓越した描写力に注目すれば「フォトリアリスト」と考えることもできます。本講義では、晩年の集大成というべき *Cathedral* を扱い、Raymond Carver の鋭い観察眼と描写力を考えます。また、後期には Raymond Carver の書いた評論も読む予定です。他の作家の短編も適時取り扱う予定です。

講義概要

講義と作品の訳読に加えグループ・ディスカッションを授業に取り入れます。

テキスト

Raymond Carver, *Cathedral*. (New York: Vintage Contemporaries, 1989)

プリント教材

参考文献

関連の書評や論文は、授業中に配布いたします。

評価方法

前期後期試験またはレポート、授業への貢献度を総合的に評価します。

受講者への要望

各作品ごとに議論のポイントを記した Study Guide を配布しますので、それにそって自宅で作品を読んで下さい。訳本が出版されているので、少なくともあらすじはつかんでから授業に参加しましょう。Study Guide は教員のホームページ (<http://www.02.u-page.so-net.ne.jp/fa2/mrmtmrmt/>) に掲載されるので、やむを得ず授業に欠席した場合は、これを利用して必ず追いつくようにしておいて下さい。担当教員への連絡は、muramats@fa2.so-net.ne.jp を使ってください。

年間授業計画

1. Raymond Carver について
2. “ Preservation ”
3. “ Preservation ”

4. “ Features ”
5. “ Features ”
6. “ Compartment ”
7. “ Compartment ”
8. Minimalism とは
9. “ A Small Good Thing ” “ The Bath ”
(プリント教材)
10. “ A Small Good Thing ” “ The Bath ”
(プリント教材)
11. “ Careful ”
12. “ Careful ”
13. 他の作家の短編
14. 他の作家の短編
15. “ On writing ” (プリント教材)
16. “ On writing ” (プリント教材)
17. “ Cathedral ”
18. “ Cathedral ”
19. “ Fires ” (プリント教材)
20. “ Fires ” (プリント教材)
21. “ John Gardner: The writer as a teacher ”
(プリント教材)
22. “ John Gardner: The writer as a teacher ”
(プリント教材)
23. 他の作家の短編
24. 他の作家の短編

科目名	専門講読 30 (スコットランド短編集)
担当者	山田 修

講義の目標

普段読んだことのないスコットランドの作品をよみ、何気なく手にした作品についてひきこまれて、終りまで読んでしまうような読書をエンジョイしてもらえればよい。

講義概要

スコットランドの作家の短編を数編読む。諸君の知らない作家ばかりになると思う。

テキスト

プリント（適当なテキストがあった場合には使用の予定。テキスト使用の場合には、掲示で指示する。）

評価方法

前・後期の試験及び平常点にて評価する。

受講者への要望

受講希望者は最初の授業に出席して、名前を確認すること。予習を忘れないように。

年間授業計画

1. 毎時間 2~3 ページ。

科目名	専門講読 31 (シェイクスピアの喜劇を読む)
担当者	山田玲子

講義の目標

シェイクスピアの代表的な喜劇(1599～1600)を読みながら、シェイクスピア劇の特色を受講者が感取出来るようになるよう努める。エリザベス朝に独特な語義と文の構成に慣れ、正確に内容を把握しながら作品鑑賞することを目標とする。これを機に、受講者が、観劇のよるこびをその生活の中に取り入れられるとよいと思う。

講義概要

毎時テープを聞く。次第に読み馴れるように配慮し、150行づつ読み進むことを目標とする。牧歌劇という日本にはないジャンルの戯曲を、その特色にも触れながら味わってゆきたい。

テキスト

William Shakespeare : *As You Like It* (研究社詳注シェイクスピア双書)

参考文献

授業中に述べる。

評価方法

評価は年に二度の試験と一度の観劇レポートの提出、及び平常の授業への参加度による。

受講者への要望

精読に耐え得る根気と努力。舞台公演を観ること。
なお、1999年度に同じ作品を扱っているので、当時の受講者は受講を遠慮していただきたい。

年間授業計画

1. オリエンテーション
2. テキストの進み方に応じて、各授業で問題点を指示する。

科目名	専門講読 32 (英米文化)
担当者	山本英政

講義の目標

前期は、マイノリティーのことを、後期では「銃社会アメリカ」ことを、扱う。

アメリカの文化的な特徴のなかで、わたしが興味を持つのは「多様性に於ける銃」と「自立の精神」についてである。後者の価値観の延長線上に「自衛の精神」があり、それは近年この国で、大きな論議をよんでいる「銃をもつ権利」思想の基盤にもなっている。

授業では、前期にマイノリティーのこと、後期には銃社会のことを扱う。

講義概要

授業の構成は、はじめに扱うテーマについてわたしが解説を行い、つぎに文献を読解する。そして、テーマに関係のある映像を鑑賞し、理解を深める。

テキスト

プリント

参考文献

『銃社会アメリカのディレンマ』、丸田隆、日本評論社

評価方法

定期試験、普段点

受講者への要望

初回の授業には必ず出席すること

年間授業計画

二つのテーマをさらに次のように分化する

マイノリティー

黒人について モハメッド・アリ

ゲイについて ハーヴィー・ミルク

銃所持とその背景

未開地(フロンティア)

銃による犯罪

科目名	専門講読 33 (英・米文学)
担当者	E . カーニイ

講義の目標

This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.

講義概要

The stories are chosen for their active ingredients; thought - provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer' s style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.

テキスト

Short story prints of Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury , and others.

参考文献

Dahl' s "The Visitor", "Bitch", "The Great Grammatizator ", etc.

King' s "Quitters", "Mrs. Todd' s Shortcut", "The Ledge", etc.

Excerpts from Bradbury's "The Martian Chronicles", etc.

評価方法

Grading will be in the form of quizzes for each story. Students can gain supplementary bonuses by writing 'intelligent comments' and doing some supplementary research.

受講者への要望

If student selection is necessary ,there will be a short quiz given.

科目名	専門講読 34 (英米文化)
担当者	J . J . ダゲン

講義の目標

The aim of this course is to give students the chance to further develop reading and comprehension skills and the opportunity to explore the United States and its people through the intensive reading study of authentic readings from TIME magazine.

講義概要

The study of each reading selection will follow a two-week cycle as in this schedule:

- 1) A reading selection is assigned as homework, together with comprehension questions.
- 2) In class, any questions concerning the vocabulary and/or comprehension are addressed.
- 3) The reading selection is read and analyzed as a class.
- 4) The students work in groups to compare and check their homework answers, which some groups then present to the class for class discussion.
- 5) The homework is collected, and the discussion questions assigned for the next class as homework.
- 6) In the next class, students work in groups and discuss their answers, which some groups present to the class for class discussion.
- 7) After the homework is collected, the cultural vocabulary for the next reading selection is covered.

テキスト

L.Schinke- Llano. TIME:We the people.

評価方法

Grades will be based on in-class participation, and therefore attendance is important (If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail), weekly homework assignments, and written midyear and final exams.

年間授業計画

- 1 . Course description & explanation
- 2 . Selection A reading comprehension study
- 3 . Selection A discussion study
- 4 . Selection B reading comprehension study
- 5 . Selection B discussion study
- 6 . Selection C reading comprehension study
- 7 . Selection C discussion study

- 8 . Selection D reading comprehension study
- 9 . Selection D discussion study
- 10 . Selection E reading comprehension study
- 11 . Selection E discussion study
- 12 . First term consolidation & review
- 13 . Second term preview & preparation
- 14 . Selection F reading comprehension study
- 15 . Selection F discussion study
- 16 . Selection G reading comprehension study
- 17 . Selection G discussion study
- 18 . Selection H reading comprehension study
- 19 . Selection H discussion study
- 20 . Selection I reading comprehension study
- 21 . Selection I discussion study
- 22 . Selection J reading comprehension study
- 23 . Selection J discussion study
- 24 . Second term consolidation & review

科目名	専門講読 35 (アメリカ文学)
担当者	M . A . シブル

講義の目標

The goal of the course is to not only help students improve their vocabulary and reading skills, but to gain a deeper insight into American culture and values. If necessary, selection will be by drawing.

講義概要

Each week we will discuss the text and the historical and social background of a work. I've chosen the short story because it is, in the view of a respected critic and scholar, America's most characteristic and popular literary form. Moreover, since they are short, the form makes it possible for the non-native reader to survey a number of writers in a year's study. Students will be encouraged to ask questions and offer their comments during the class and suggest stories for reading.

テキスト

Short stories by, Raymond Carver, Bernard Malamud, J. D. Salinger and others. Prints of the stories, notes, vocabulary and study questions provided by instructor.

参考文献

Please bring to class a paperback edition of a dictionary for native adult speakers of English. I recommend any of the following: *The Merriam Webster Dictionary*, *The American Heritage College Dictionary* or *The Random House Dictionary of the English Language*.

評価方法

Grades will be based on active participation during the weekly classes, attendance, quizzes, the term and final reports.

受講者への要望

To get the most from the class, students should carefully read the assigned text each week and be prepared to discuss the content, the style and background of the work.

科目名	専門講読 36 (英語文化)
担当者	N . H . ジョスト

講義の目標

This course is intended for students who are interested in reading and learning about essays, especially modern essays. The objectives for this course are (1) to understand what an essay is, (2) to learn how to read an essay, (3) to learn about the writing style of a good essayist, and (4) to gain a fuller appreciation for the essay as a literary genre. This course is suited for students who have completed the course on essay writing, and who are interested in learning about contemporary thought.

講義概要

One essay will be covered every two weeks. The essays will come from the New Yorker, Harper's Magazine, The New York Review of Books, Esquire, Time Magazine, News Week Magazine and other sources. The class will follow a lecture and discussion format. A handout with key questions and vocabulary items will be provided for each lecture.

テキスト

Essays for this class will be provided by the instructor. Students are required to have an English/English dictionary.

評価方法

Grades will be based on attendance, participation, classroom discussions and two examinations.

受講者への要望

Students entering this class will be called on to actively participate in classroom discussions. While this not a discussions class, group discussions will be an integral part of the class.

科目名	専門講読 37 (英語学)
担当者	T . ヒ ル

講義の目標

To provide an introduction to sociolinguistics: a field that studies the relation between language and society.

講義概要

In this class we will read the text together, and students will engage in small group discussion on the major issues in sociolinguistics.

テキスト

Sociolinguistics Peter Trudgill Penguin Books

評価方法

Grades will be based on attendance, class participation, the writing of a number of papers, and semester tests.

受講者への要望

An intermediate to advanced level of English proficiency is required for this course

年間授業計画

- 1 . Introduction and course explanation
- 2 . Language and society ・ 1
- 3 . Language and society ・ 2
- 4 . Language and social class ・ 1
- 5 . Language and social class ・ 2
- 6 . Language and ethnic group ・ 1
- 7 . Language and ethnic group ・ 2
- 8 . Language and ethnic group ・ 3
- 9 . Language and gender ・ 1
- 10 . Language and gender ・ 2
- 11 . Review of first semester work
- 12 . First semester test
- 13 . Language and context ・ 1
- 14 . Language and context ・ 2
- 15 . Language and context ・ 3
- 16 . Language and social interaction ・ 1
- 17 . Language and social interaction ・ 2
- 18 . Language and social interaction ・ 3
- 19 . Language and nation ・ 1
- 20 . Language and nation ・ 2
- 21 . Language and geography ・ 1
- 22 . Language and geography ・ 2
- 23 . Review of second semester work
- 24 . Second semester test

科目名	専門講読 38 (英米文化)
担当者	W . J . ベンフィールド

- 22 . Reading and discussion
- 23 . Reading and discussion
- 24 . Review of second term's work

講義の目標

The course aims to introduce students to the pleasures and difficulties of tackling a major full-length novel in English. As well as providing extensive practice in reading English, the novel will also raise many wider questions about life and society, which we will investigate in class.

講義概要

Each week we will look at a chapter of the novel in class. There will be both comprehension exercises and discussions of some of the wider issues raised by the book.

テキスト

"1984" by George Orwell, one of the best-known English novels of the twentieth century.

評価方法

There will be a test at the end of each semester. Attendance and participation in class will also be taken into account when awarding the final grade.

年間授業計画

- 1 . Introduction to the author and background of the book.
- 2 . Reading and discussion
- 3 . Reading and discussion
- 4 . Reading and discussion
- 5 . Reading and discussion
- 6 . Review of work so far
- 7 . Reading and discussion
- 8 . Reading and discussion
- 9 . Reading and discussion
- 10 . Reading and discussion
- 11 . Reading and discussion
- 12 . Review of first term's work
- 13 . Reading and discussion
- 14 . Reading and discussion
- 15 . Reading and discussion
- 16 . Reading and discussion
- 17 . Reading and discussion
- 18 . Review of work so far
- 19 . Reading and discussion
- 20 . Reading and discussion
- 21 . Reading and discussion

科目名	英 作 文 1
担当者	秋 山 武 夫

講義の目標

文法が正確なばかりでなく、達意の文を書けるように努める。

講義概要

毎回課題を出して、文を書いてもらう。

テキスト

なし。

参考文献

その都度指定する。

評価方法

出席、提出した作文、及びテスト。

受講者への要望

多くの英文を読み、暗誦すること。

年間授業計画

その都度指定する。(たとえば、"Tree"、"Cooking"、"Dancing"、"Singing" など。)また、英文を読んでもらい、それにたいする意見を英語で書いてもらう。

科目名	英 作 文 2
担当者	秋 山 武 夫

講義の目標

文法が正確なばかりでなく、達意の文を書けるように努める。

講義概要

毎回課題を出して、文を書いてもらう。

テキスト

なし。

参考文献

その都度指定する。

評価方法

出席、提出した作文、及びテスト。

受講者への要望

多くの英文を読み、暗誦すること。

年間授業計画

その都度指定する。(たとえば、"Tree"、"Cooking"、"Dancing"、"Singing" など。)また、時事問題などを新聞から採り、訳してもらう。

科目名	英 作 文 3
担当者	浅 岡 千利世

講義の目標

- (1) 英文パラグラフにおけるいくつかのパターンを理解する。
- (2) 論理的な流れのあるパラグラフを書くことができる。
- (3) 日本語の作文と英語の作文の違いを理解する。

講義概要

授業では具体的に以下を学んでいく。

- (1) パラグラフとは何か。
- (2) トピックとトピック・センテンスについて
- (3) トピック・センテンスのサポートの仕方
- (4) 表現の言い換えと剽窃について
- (5) 要約の仕方

テキスト

M.L.Arnaudet & M.E.Barrett, "Paragraph Development" (Prentice Hall Regents)

評価方法

毎回の提出物と授業への貢献度

受講者への要望

この授業はすべて英語で行い、授業中のペアワーク、グループワークも英語で行う。最終提出物は手書きではなくタイプしてあるものしか受け取らない。この2点を理解した上で受講して欲しい。

年間授業計画

- 1 . Introduction
- 2 . Paragraph
- 3 . Topic versus topic sentence
- 4 . Paragraph unity
- 5 . Supporting topic sentences
- 6 8 . Examples, details, anecdotes, facts and statistics
- 9 11 . Enumeration
- 12 . Wrap-up
- 13 15 . Cause and effect
- 16 18 . Comarison and contrast
- 19 20 . Definition
- 21 . From paragraph to composition
- 22 . Plagiarism
- 23 . Paraphrasing
- 24 . Summarizing

科目名	英 作 文 4
担当者	川 崎 潔

講義の目標

教養ある native speaker (Donald Keene , Edward G . Seidensticker , Edwin O . Reischauer) の書いた自然な英文を読んで英語らしい表現法を学び、それにならって英文を書く練習をし、自己表現の域に達する。

講義概要

- 1) Model Paragraph を読んで Comprehension Questions に英語で答える。
- 2) Model Paragraph の英文を体得するために、テキストを見ないで再現する練習。
- 3) Sentence Building : 既習の語や言いまわしを用いて、テキストとはやや異なった状況を表現する。
- 4) Model Paragraph を範例として、指示された状況に適合した英文を作成する。

テキスト

天満美智子 : *A Modern Writing Laboratory* (朝日出版)

参考文献

なし

評価方法

平常点と年間5～6回の英作文の提出による。

受講者への要望

授業に出席し、予習と復習を行なうこと。

年間授業計画

- 1 . 授業の説明と Lesson1 の一部
- 2 . Lesson1 , 2
- 3 . Lesson2 , 3
- 4 . Lesson3 , 4
- 5 . Lesson4 , 5
- 6 . Lesson5 , 6
- 7 . Lesson6 , 7
- 8 . Lesson7 , 8
- 9 . Lesson8 , 9
- 10 . Lesson9 , 10
- 11 . Lesson10
- 12 . 予備日
- 13 . Lesson11
- 14 . Lesson11 , 12
- 15 . Lesson12 , 13
- 16 . Lesson13 , 14

- 17 . Lesson14 , 15
- 18 . Lesson15 , 16
- 19 . Lesson16 , 17
- 20 . Lesson17 , 18
- 21 . Lesson18 , 19
- 22 . Lesson19 , 20
- 23 . Lesson20
- 24 . 予備日

科目名	英 作 文 5
担当者	喜 田 慶 文

講義の目標

英文エッセイライティングの基礎力の上に日本語特有の表現を自然な英語で書ける能力を養う

講義概要

英語の基礎文法、英文構成法を学習しながら日本語に特有な表現に対応する英語の表現方法を学ぶ。また、意味論（特に認知言語学的）の概念を作文に取り入れ、より意味的に正確な文書構成法のトレーニングを行う。

テキスト

英文構成法（成美堂）

参考文献

「大学英文法の要点」朝日出版

評価方法

出席率：40%、クラスへの参加度：20%、小テスト：10%、期末テスト：30%

受講者への要望

自己の英語力向上に強い意欲を持っていること。
毎回作文の予習（宿題）を必ず行うこと。

年間授業計画

1. 作文演習の方法、実力テスト
2. 句と節、作文演習
3. 文について、作文演習
4. 英文構成の基礎について
5. 名詞、作文演習
6. 冠詞、作文演習
7. 形容詞、作文演習
8. 文法形式と意味について
9. 副詞、作文演習
10. 比較、作文演習
11. 課題作文
12. 代名詞、作文演習
13. 小テスト、作文演習
14. 関係代名詞、作文演習
15. 時制、作文演習
16. 助動詞、作文演習
17. 課題作文
18. 不定詞、助動詞、作文演習
19. 仮定法、作文演習
20. 分詞構文、文接続法、作文演習
21. ~23. 課題作文
24. 小テスト、解説

科目名	英 作 文 6
担当者	須賀川 誠 三

講義の目標

先ず、英文を書く際の基本的構文・表現を学び、次に、パラグラフ・ライティングの技法について一通り知識を習得する。更に、学んだ知識を実際に応用して、短いエッセイ、手紙、履歴書、自己紹介状などの書き方を実習する。

講義概要

全体は、三部から成る。第一部は英語らしい構文・表現を、第二部はパラグラフ・ライティングを、第三部は応用を扱う。授業は、講義による解説および学生自身による実習により行なう。基礎的知識の習得に重点をおきながら、高度な技法への展開を試みる。

テキスト

山村・岩本・D. Lanaras 共編著『基礎からパラグラフ・ライティングへ』(成美堂)

参考文献

T. Womack / 三浦新市共著『現代英文の構成と語法』(英文) 研究社

評価方法

前期レポート、後期試験、出席で総合的に判定する。出席不良の場合は、レポート、試験の点にかかわらず、不合格となる場合もある。

受講者への要望

受講希望者は第 1 回目の授業に出席し、必ず受講の承認を得ること。定員を超えた場合は抽選とする。定員は厳守する予定。英 (英作文) 履修済をを条件とする。

年間授業計画

1. この授業についてのガイダンス。語法診断テスト。
2. 1. 第 1 部「名詞表現」説明、Exercises, pp.3 - 5
3. 2. 「句動詞」説明、Exercises, pp.6 - 9
4. 3. 「無生物主語」説明、Exercises, pp.10 - 13
5. 4. 「前置詞 + 名詞」説明、Exercises, pp.14 - 17
自由英作文練習。
6. 5. 「動詞の代りに前置詞で」説明、Exercises, pp.18 - 21
7. 6. 「接続詞を用いないで結果を」説明、Exercises, pp.22 - 24
8. Punctuation, Syllabication (分節法)(プリント使用)(Unit 7 - 10 は後期に行う)

9. 11. 第 2 部 パラグラフ・ライティングの基礎
A 導入文 B 主題文 C 支持文 D 結論語文 pp.43 - 45
10. 12. パラグラフ・ライティングの基礎 A 逆ピラミッド型 B ピラミッド型 C ダイヤモンド型 説明。pp.46 - 48
11. 同上の Exercises, pp.48 - 49
12. パラグラフ・ライティングの実習。前期レポート課題。
13. パラグラフの展開法
13. 13. 列挙と例示 説明、Exercises, pp.51 - 57
自由英作文と実習
14. 14. 比較と対照 説明、Exercises, pp.58 - 64
15. 15. 分析と類推 説明、Exercises, pp.65 - 71
16. 16. 原因・結果 説明、Exercises, pp.72 - 75
17. 17. 定義と分類 説明、Exercises, pp.76 - 82
自由英作文実習
18. 18. 意見と理由 説明、Exercises, pp.83 - 86
エッセイの書き方
19. 第 1 部(つづき)
7. 「文修飾の副詞」 説明、Exercises, pp.25 - 28
20. 8. 「時を表す語・否定語を主語に」 説明、Exercises, pp.29 - 32
21. 9. 「例置」 説明、Exercises, pp.29 - 32
22. 第 3 部
19. 正式な手紙・その他の書き方 説明、Exercises, pp.91 - 97
23. 10. 「省略」 説明、Exercises, pp.37 - 39
24. 年間の総まとめ。試験の注意点など。

科目名	英 作 文 7
担当者	園 部 明 彦

講義の目標

無理遣り通じる英文ではなく、良い英文の作成を試みる。どのような英文が良いものか、毎回添削・評価した答案を通して各自考えてもらいたい。この時間では、新聞等の切りぬきから出来得る限り新鮮な題材を求めていく。従って、ここで年間の題材を予めあげることは控えたい。昨年度の一例が参考になればと思っている。

テキスト

プリント

評価方法

毎回 10 点満点としての評価の合計を年間の成績として出す。従って、欠席は非常に不利になる。

受講者への要望

遅刻ほど周りに迷惑をかけるばかりでなく、授業に対する意欲を失わせるものはない。例年どおり、遅刻は絶対に認めない方針である。

年間授業計画

(昨年度の一例)

外交官は公式の席では口がうまいが、非公式の席では口が悪い。中のひとりが今回のアメリカ大統領選挙を、ターミネーターとチャーリー・ブラウンのどちらかを選ぶ選挙と評した。抜きつ抜かれつの押し返す大波にも似た選挙開票をテレビで見ていると、この例えは少々気の毒に思える。大統領選までほぼ一年にわたって過酷なサバイバル・レース戦い抜いた人物同士である。史上まれな大接戦になるのも無理はない。

科目名	英 作 文 8
担当者	中 村 燦

講義の目標

精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらう。卒業してからも役に立つ英作文と好評を博してきた講義。なお「英作文9」とは別教材の授業である。

第一回目の授業に於て最前列から着席順に40名まで受講を許可する。

講義概要

前期は基本的文法事項を応用した和文英訳を、後期は文法応用をはなれた実戦和文英訳の練習をする。

毎回、学生に板書させ、それを直し、解答例を紹介する。

テキスト

プリント。

評価方法

平素の勤怠。定期試験。

受講者への要望

始業時に大きな声で挨拶をする。毎回、他所では聞くことのできない重要な説明をするので、遅刻、欠席せずに真剣に受講すること。授業中の私語、飲食は厳禁。茶髪、金髪は感心しない。

科目名	英 作 文 9
担当者	中 村 燦

講義の目標

精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらう。卒業してからも役に立つ英作文と好評を博してきた講義。なお「英作文8」とは別教材の授業である。第一回目の授業に於て最前列から着席順に40名まで受講を許可する。

講義概要

前期は基本的文法事項を応用した和文英訳を、後期は文法応用をはなれた実戦和文英訳の練習をする。

毎回、学生に板書させ、それを直し、解答例を紹介する。

テキスト

プリント。

評価方法

平素の勤怠。定期試験。

受講者への要望

始業時に大きな声で挨拶をする。毎回、他所では聞くことのできない重要な説明をするので、遅刻、欠席せずに真剣に受講すること。積極的に質問する姿勢を歓迎する。授業中の私語や飲食は厳禁。茶髪、金髪は感心しない。

科目名	英 作 文 10
担当者	藤 田 永 祐

講義の目標

必要に応じて適切な単語や語句を使うには、それなりの蓄積が要求されます。文と文を上手につなげたり、ある程度以上の長い文を組み立てるには、文法の基本を消化して心得ていることが必須条件です。そして英文を読みながら、色々な要領を吸収できる能力を身につけることはとても大切であると思います。自分の弱点を一つ一つ克服する熱意がないと進歩しません。

講義概要

人数が多い場合、1回目の授業で適宜に選考します。テキストにそった実習と、4、5回の授業で1回くらい、エッセイとか短詩とかを訳してもらい授業に変化をつけます。

テキスト

慎重に検討中

参考文献

折々紹介したり、役に立つ箇所はプリントで配ります。

評価方法

平常点と年二回のテスト

受講者への要望

例文がなるべく沢山のっている辞書を持参すること。出席率は熱意のバロメーターとみなします。

科目名	英 作 文 11
担当者	渡 邊 美代子

講義の目標

パラグラフ・ライティングは、思考を論理的に組み立て、アイデアを表現するための有効なコミュニケーションの手段があるが、その構成には一定の制約が課せられており、日本語の段落とは大きく様相を異にする。このコースでは、英語における基本的な文章の構成法を習得し、構造的、内容的にきちんとしたパラグラフが書けるようになることを目標とする。パラグラフ構成演習を通して、理論をうちたてて能力が培われることを期待したい。

講義概要

英語の文章における情報の構成方法を習得する。パラグラフやエッセイの構成、トピックセンテンスの役割、内容整理のためのアウトライン、パラグラフの種類等について学ぶ。また、より効果的な文章を書くために、強調、簡潔、説得方法などについても学習する。テキストに沿って進めていく。与えられたテーマで、実際にパラグラフをいくつか書いてもらう。

テキスト

“ *Basic Writing Strategies* ” 北尾 S キャスリーン
& 北尾謙治 英潮社

参考文献

“ *Common Errors in English Writing Third Edition* <英作文の盲点 200 (第 3 版)> ” 木塚晴夫・Roger Northridge Macmillan LanguageHouse
『英語基本動詞活用辞典 認知的アプローチ』
渡辺美代子 南雲堂フェニックス

評価方法

前・後期試験の結果、提出物、平常点を考慮して評価する。

受講者への要望

予習して授業に臨むことが原則である。提出物はなるべくワープロで作成するようお願いする。履修希望者数が受講上限人数を超える場合は、試験等によって決定する。履修希望者は第 1 回目の授業に必ず出席すること。

年間授業計画

- 1 . Course Introduction and Outline
- 2 . Writing Sentences
- 3 . Sentence Combining (1)
- 4 . Sentence Combining (2)

- 5 . Making Referents Clear
- 6 . Using Words to Connect Ideas
- 7 . Parallel Constructions
- 8 . Using Verb Tenses Correctly
- 9 . Using Modifiers
- 10 . Parts of Paragraphs
- 11 . Types of Organization (1)
- 12 . Types of Organization (1) & (2)
- 13 . Review of Exam
- 14 . Types of Organization (2)
- 15 . Topic Sentences
- 16 . Pre- Writing Steps
- 17 . Outlining
- 18 . From Paragraphs to Essays
- 19 . Emphasis
- 20 . Avoiding Sexist Languages
- 21 . Figures of Speech
- 22 . Making Writing More Concrete
- 23 . Writing about Time
- 24 . Review

科目名	エッセイ・ライティング 1
担当者	飛田ルミ

講義の目標

本講座では、エッセイを書くにあたって必要と考えられるスキルを効果的に習得することを目的とする。具体的には、様々な表現法で自分の考えを提示できるストラテジーを意識して、エッセイの基礎となるパラグラフの書き方を段階的に学習し、最終的に本格的なエッセイへと発展させるスキルを身に付けることが理想である。

講義概要

学習者の基礎英語能力を工夫して、無理なくレベルアップできるように、各種のパラグラフを取り上げ、練習問題を行ない、自然な英語で文章を書くための方法を指導する。また課題レポート等について、クラスでディスカッションを行うことにより、エッセイを書く際に多く見られる誤りを指摘していく。

なお、この科目は受講上限人数が決められているので、初回の授業において、選考テストを実施する。

使用教材

テキスト Introduction to Essay Writing 『エッセイライティング入門』松柏社。

参考文献

授業にて指示。プリントも配布する。

評価方法

前・後期末課題レポート、授業における課題、及び平常点（出席状況、授業中の活動状況等）を総括して評価する。

受講者に対する要望など

発表などが課されるので、授業に対する積極的な態度を必要とする。

年間授業計画

1. 授業内容、評価方法の解説
2. Unit 1 Introduction : Some Basic Points about Paragraph Writing
3. Unit 1 Basic Patterns of Paragraph Development
4. Unit 2 Explaining English Proverbs
5. Unit 2 Self - Introduction Practice
6. Unit 2 Story - Making Practice
7. Unit 3 Giving Instructions
8. Unit 3 Transitions in Paragraph
9. Unit 3 Unit Assignment
10. Unit 4 Objective Reporting

11. Unit 4 Unit Assignment
12. Unit 4 前期の復習
13. 前期期末レポートのフィードバック
14. Unit 5 Illustrations
15. Unit 5 Examples
16. Unit 5 Personal Opinion
17. Unit 6 Cause and Effect
18. Unit 6 Unit Assignment
19. Unit 6 Problem - Solving
20. Unit 7 Comparison
21. Unit 7 Contrast
22. Unit 8 Classification
23. Unit 9 Definition
24. 後期のまとめ

科目名	エッセイ・ライティング 2
担当者	D . プラドリー

講義の目標

This course aims to help students improve their ability to write clear, error-free English.

講義概要

To the above end there will be classroom activities including punctuation, letter writing, word choice and linking of sentences and paragraphs. There will also be translation activities to focus on writing what you mean to say.

There is an upper limit of 30 on the number of students who may take this class. Where the number hoping to take this class exceeds 30 we will decide the class members by lottery during the first class meeting.

テキスト

There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.

評価方法

Grades will be based on attendance (25%), class participation (25%), written work (25%) and two end-of-term assignments (25%).

受講者への要望

There will be writing activities in class each week, therefore good attendance (75%) is required for a final grade.

年間授業計画

- 1 . Introduction to the course
- 2 . Letters: informal
- 3 . Letters: formal
- 4 . Translation activity
- 5 . Choosing a topic for an essay
- 6 . Organising your ideas
- 7 . First draft
- 8 . Linking paragraphs
- 9 . Translation activity
- 10 . Translation activity
- 11 . Translation activity
- 12 . End-of-term essay due
- 13 . Consolidation
- 14 . Consolidation
- 15 . A look at some writing tests
- 16 . A look at some writing tests

- 17 . Choosing a topic for an essay
- 18 . Organising your ideas
- 19 . First draft
- 20 . Quoting sources
- 21 . Translation activity
- 22 . Translation activity
- 23 . One-to-one consultations
- 24 . End-of-term essay due

科目名	エッセイ・ライティング 3
担当者	E . カーニィ

講義の目標

This programme is aimed primarily at having the students produce good, clear, error-free English. Also, we want to find better ways to organize and to express well. Coherence and balance are target items in all writing work.

講義概要

Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write and this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Set pieces will be used as sample work and students will be asked to match their own ideas with these and express themselves accordingly.

Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week to give students the chance to show that they have grasped the explanations in class.

テキスト

Prints and videos.

参考文献

Brit-think, Ameri-think. Jane Walmsley
 Creative Writing
 Mind the Stop G.V. Carey

評価方法

All papers are graded(weekly assignments).

Where necessary, students will be asked to write a final report.

1st Term report: July(date to be announced)

2nd Term report: December(date to be announced)

受講者への要望

Students will be chosen by means of a short essay they will be asked to write.

The subjects for the essay will be given at the first class meeting.

年間授業計画

Class1. a. introduction of methods and class practice
 b. written piece for evaluation(' think'

item selection)

Class2. Basic errors in construction ... adjective and noun control in relation to article use.

Class3. Punctuation...good comma use and bad use of similar stops...the comma stressed as a communication tool.

Class4. Direct and indirect speech and the necessary punctuation.

A survey on individual tendencies in pieces written so far.

Class5. Ambiguity. Writing with awareness of meaning intended and meaning received.

Class6. Paragraph effectiveness to suit all needs. Writing as a reader of one's own work.

Class7. 1 .the relative pronoun and the related pitfalls

2 . some absurdities in singular and plural use.

Class8. Continuation of the ' plural' theme... difficulties with ' each' and the use of ' everyone' and ' his or hers'.

Class9. Descriptive writing. Some established works compared. How to make adjectives do the work in descriptive pieces.

Class10. Introductions and endings ... summaries and conclusions...the open ending.

Class11. Writing a short short story and including all the work we have covered so far.

Class12. Balanced writing ... the sweeping statement and 'narrow-minded' attitudes in producing biased writing.

Class13. Comparing what you have actually said in your writing to what you really intended to say.

Class14. Variations in presenting ideas in documentary and fictional pieces. Some prime examples studied.

Class15. Letter writing. a)person to person, b)business, c)other letters, notes, job applications, forms, etc.

- Class16. Conciseness in documentary writing. A Look at the range of meaning of the word 'academic'.
- Class17. The short story. Bringing the ideas into line and checking on sequence in time and action.
- Class18. Implied nuance and ambiguity revisited. Ambiguity as a starter for the awareness of humour in writing.
- Class19. Economy of expression. reducing length and avoiding verbosity and superfluous expression. A look at repetition and padding.
- Class20. Criticism. Analysis of subject with a view to writing a criticism. The value of discussion of your topic prior to writing.
- Class21. The anecdote as a good short form of interesting expression.
Producing some written anecdotes.
- Class22. E. B. White and his power of humorous understatement. Writing with a view to being taken seriously, and then not so seriously.
- Class23. Creative expression ... ranges and limitations. Creative writing and the modern video.
- Class24. Recapitulation, recrimination, and pooled suggestions.

科目名	エッセイ・ライティング 4
担当者	M . A . シブル

講義の目標

The goal of the course is to help students write effectively in English. The specific aim will be on preparing class assignments, term papers and graduation dissertations what one American textbook calls the college-level essay and the development of the language skills required to study overseas and necessary for success in the professions and business. If necessary, selection will be by a drawing during the first class.

講義概要

Class time will be spent in learning to choose an appropriate subject, develop a point of view, do research, and write an academic paper. Since most good writing is rewriting, a major focus will be on revision and editing. Essays by masters of the form and students will be assigned as models. A number of manuals of style have become standards for both students and scholars not only in the United States and England but internationally. Excerpts from *The MLA, A Handbook for Writers of Research Papers*, *the Publication Manual of the American Psychological Association*, and *A Manual for Writers of Term Papers, theses, and Dissertations* used by many of the professors at Dokkyo, will be introduced and used for our studies.

テキスト

Prints and exercises will be supplied by the instructor.

参考文献

A list of reference works will be handed out during the first class. Please bring to class a paperback edition of a dictionary for native adult speakers of English. I recommend any of the following:

The Merriam Webster Dictionary, *The American Heritage College Dictionary* or *The Random House Dictionary of the English Language*.

評価方法

Grades will be based on preparation, participation during classes, attendance, quizzes, class assignments and term and final reports.

受講者への要望

Perhaps the most important point in acquiring language skills for an adult is taking responsibility for learning. Students therefore should carefully prepare for and actively participate in every class. If you join expect to spend at least two hours preparing for every class.

年間授業計画

- 1 . Orientation covering course goals, methods and standards for evaluation. Selection of students
- 2 . Choosing the subject.
First writing assignment format and focus of paper to be announced
- 3 . Finding a point of view and writing the thesis sentence
- 4 . Supporting the thesis
- 5 . Documenting your sources
Using the library and the Internet; note taking
- 6 . Footnotes, references and the bibliography getting it right
Introducing *The MLA Handbook for Research Papers*
- 7 . Preparing the outline
- 8 . The first draft
Second writing assignment format and focus of paper to be announced
- 9 . Revision, editing and proofreading
- 10 . The covering letter and correspondence
- 11 . Using quotations
Introducing *A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations*
- 12 . Preparing the final draft revising to meet the reader's expectations
- 13 . Discussion and evaluation of assignments
Third assignment format and focus of paper to be announced
- 14 . Narrowing the focus
- 15 . Writing the conclusion
- 16 . Polishing the final draft. Let the first comes last the introduction and finding a title
- 17 . Tables, charts and illustrations
- 18 . Final assignment format and focus of paper to be announced
- 19 . Related correspondence the letter of intent, applications and the résumé
- 20 . Building vocabulary " Jargon and Buzzwords "
- 21 . Orientation for student presentation of papers

- 22 . Student presentation of papers
- 23 . Student presentation of papers
- 24 . Discussion and evaluation of presentations

科目名	エッセイ・ライティング 6
担当者	N . H . ジョスト

講義の目標

An essay is defined as a short literary composition on a single subject. To write a clear and interesting essay, one has to have a clear idea on what to write about. Thus, this course will help students develop skills in coming up with ideas for their essays. It will then consider how those ideas can best be organized to create a nice essay, the mechanics of essay writing. It will also look at stylistics, and how create interesting sentences and paragraphs.

講義概要

It is often said that good readers make good writers. In this class we will look at some representative model essays, read and analyze them, and finally try to create our essays based on their designs. Students will be asked to plan and defend their essay designs prior to writing. The course will also help students understand that different intentions require different kinds of essays, that there is no one standard essay in English. Students will be asked to write regular essays which will be evaluated.

テキスト

The textbook to be used in this class is designed for freshman level classes at American universities. The exact text will be decided at a later date.

評価方法

Grades will be based on the completion of all essays and on regular attendance.

受講者への要望

Students interested in joining this class should know that there will be essay assignments on a biweekly bases and that there will be numerous reading assignments. Those who join this class will be able to understand how essays are constructed in general and will be able to write an essay with more ease.

年間授業計画

- 1 . Basic principles of essay writing.
- 2 . Important factors in writing: attitude, developing a subject, prewriting.

- 3 . The first and second steps in essay writing.
- 4 . Begin with a point or thesis.
- 5 . Support the thesis with specific evidence.
- 6 . The third and fourth steps in essay writing.
- 7 . Organize and connect the specific evidence.
- 8 . Write clear, Error-free Sentences.
- 9 . Four bases for evaluating essays.
- 10 . Unity, support, evidence.
- 11 . Coherence and sentence skills.
- 12 . Review.
- 13 . Types of essay development.
- 14 . Descriptive.
- 15 . Narrative.
- 16 . Examples.
- 17 . Process.
- 18 . Cause and effect.
- 19 . Comparison and contrast.
- 20 . Definition.
- 21 . Special skills. Taking essay exams.
- 22 . Writing a summary.
- 23 . Writing a report.
- 24 . Review.

科目名	エッセイ・ライティング 8
担当者	R . J . バロウズ

講義の目標

This course provides a structure, task - based approach to English essay writing, using the 'tools' - rhetoric, sentence structure, vocabulary and grammar - that students need to become successful writers. A variety of stimulating themes will be covered and grammar structures practiced are linked to those structures necessary for effective writing at the paragraph and essay level.

講義概要

Two Lessons will be devoted to each writing skill. In the first week, students will be introduced to the structures and grammar required to effectively write in that mode. After preparing an essay outline, students will be required to produce one written article using that skill on a topic of their own choosing, during the following lesson. Vocabulary and grammar exercises will supplement the extensive writing practice.

テキスト

'Tools for Writing' by Linda Robinson Fellag and Laura Tonassi Le Dréan (Heirle + Heirle).

参考文献

Students are encouraged to bring a good dictionary and Roget's Thesaurus to each class.

評価方法

Grades will be based on attendance, in - class writing and an exam given at the end of each semester.

受講者への要望

With a willingness to use new vocabulary and to plan carefully your writing; all students can make major improvements to their writing skills.

年間授業計画

- 1 . THE PARAGRAPH : Introductory Class.
- 2 . THE PARAGRAPH : written self - introduction.
- 3 . STORY : Past Tenses + Narration.
- 4 . STORY : Writing Practice.
- 5 . ADVICE : Modals and Opinions.
- 6 . ADVICE : Writing Practice.
- 7 . DESCRIPTION : Topic Sentence, There is + there are , adjectives + synonyms.

- 8 . DESCRIPTION : Writing Practice.
- 9 . ANALYSIS : Ordering and transitions.
- 10 . ANALYSIS : Writing Practice.
- 11 . THE THESIS STATEMENT
- 12 . END OF TERM EXAMINATION
- 13 . PROCESS : Commands and Modals.
- 14 . PROCESS : Writing Practice.
- 15 . CHANGE : Return Sentences + Present Perfect
- 16 . CHANGE : Writing Practice.
- 17 . COMPARISON + CONTRAST : Bases of comparison
- 18 . COMPARISON + CONTRAST : Comparative forms and recommendations
- 19 . COMPARISON + CONTRAST : Writing Practice.
- 20 . CLASSIFICATION : Categorization + Adjective Clauses.
- 21 . CLASSIFICATION : Writing Practice.
- 22 . SURVEY : Question forms and parallel structure
- 23 . SURVEY : Writing Practice.
- 24 . END OF TERM EXAMINATION.

科目名	エッセイ・ライティング 9
担当者	R . M . ホーマン

講義の目標

The purpose of this course is to introduce students to the skills and methods necessary to write an academic essay. Thus, the course will focus on critical thinking, argumentation, and research skills. By the end of the course, the students will be able to write a research based essay, using citations and works cited list in the MLA style.

講義概要

Students will be expected to attend class regularly, as well as fulfill weekly writing assignments and readings. Grades will be based on participation in class, attendance and assignment scores.

テキスト

The course textbook will be The Little, Brown Handbook by Little, Brown publishers.

評価方法

Students who have previously taken a writing course from me will have first choice in entering the class. All other students will take a written test.

年間授業計画

- 1 . Topic: Introductions, class organization, Why writing is important
- 2 . Topic: Writing critically
- 3 . Topic: The writing process
 1. Defining your purpose
 2. Audience
 3. Developing the topic
 4. The thesis
- 4 . Topic: Organising ideas
- 5 . Topic: Writing the first draft
- 6 . Topic: Revising and editing the first draft
- 7 . Topic: Proofreading and submitting the first draft
- 8 . Topic: Maintaining paragraph unity
- 9 . Topic: Paragraph coherence
- 10 . Topic: Writing special kinds of paragraphs
- 11 . Topic: Linking paragraphs in the essay
- 12 . Topic: Final essay due; Peer reading and discussion

Summer Break

- 13 . Topic: Planning a research project

- 14 . Topic: Conducting electronic searches
- 15 . Topic: Finding sources in the library
- 16 . Topic: Inserting sources into the paper; paraphrasing
- 17 . Topic: Inserting sources into the paper; quotations
- 18 . Topic: Citations
- 19 . Topic: The works cited list
- 20 . Topic: Unit 10 Part 2

Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
- 21 . Topic: Unit 11 Part 1

Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Soling, Cultural Listening Task
- 22 . Topic: Unit 11 Part 2

Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
- 23 . Topic: Unit 12 Part 1

Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Soling, Cultural Listening Task
- 24 . Topic: Unit 12 Part 2

Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up

科目名	翻訳 - 1
担当者	北澤 滋久

講義の目標

英米の多様な文学作品を日本語に転ずる実践作業を通じて、翻訳とはいかに労多くして報いの少ないものであるかを、身をもって体得することを目標とする。

講義概要

最初の2回ほどで翻訳技術の概論を講ずるが、その後は各自が開講時に述べる規定を厳守し、ワープロであらかじめ作成してきた翻訳原稿を、ビューアーに依りスクリーンに転写して、それを添削してゆくという、かなりハードな実習の連続となるであろう。欠席はもちろん、義務の不履行は許されない。

受講者は、英語力に加えて、むしろそれ以上の日本語の表現力が必須の条件である。またワープロの作業にも熟達していなければなるまい。

テキスト

現代英米の著名作家の短編を、テーマ・文体にバラエティを持たせて取り揃える。

参考文献

適宜教室で紹介する。

評価方法

休暇期間 2 回の課題翻訳提出のほかは、いわば毎回が「試験」であるから、特定日の試験は行わない。普段の出席状況を重視する。

受講者への要望

この科目は、受講者定員が 30 名と限定されていること、テキストは概ね前年度と同一であること、をあらかじめ承知おき願いたい。

科目名	翻訳 - 2
担当者	園 部 明 彦

講義の目標

読み易く、分かりやすい翻訳文の作成を試みる。先入観に惑わされないよう、わが国ではあまり知られていない作家の作品を教材として取り上げる。本年度は、スコットランド出身のアレグザンダー・スマスと現代イギリスではベスト・セラーのひとつになっている F. ラーガード・スマスのものをとりあげる。両者とも非常に洗練された文体を駆使しており、格好の教材と言えよう。但し、その分、やや難解になっていることは否めないが。なお、最初のうちは不慣れなためか、概して成績は良くない。それを補う意味で、課題を出すので毎回の授業の際に提出していただきたい。後からまとめて提出することは認めない。

テキスト

プリント及び「英語らしさ、日本語らしさ」(田島信悟、三省堂)

参考文献

参考文献はかなりの数になるため、授業の際にプリントにして配布する予定。

評価方法

毎回 10 点満点としての評価の合計を年間の成績として出す。従って、欠席は非常に不利になる。

受講者への要望

遅刻ほど周りに迷惑をかけるばかりでなく、授業に対する意欲を失わせるものはない。例年どおり、遅刻は絶対に認めない方針である。出席するからには自分の辞書だけは用意してほしい。次に授業のポイントを示すので、参考にされたい。

年間授業計画

1. before の用法
課題：P. 44
2. ダッシュを含む文の翻出
課題：P. 52
3. 省略文について
課題：P. 67
4. 比較について
課題：P. 68
5. 比較構文
課題：P. 85
6. 挿入句について
課題：P. 86

7. 完了形の訳出法
課題：P. 98
8. 代名詞について
課題：P. 113
9. with の特殊用法
課題：P. 124
10. ダッシュを多く含む文の訳出法
課題：P. 135
11. of について
12. career の訳出法
13. 名詞節の that について
14. should の用法について
15. 仮定法について
16. 比較構文について
17. do の用法について
18. 再帰代名詞について
19. 省略構文について
20. 目的語について
21. 仮定法について
22. 倒置について
23. 仮定法について
24. 代名詞について

科目名	翻訳 - 3
担当者	林 節 雄

講義の目標

英語原文を日本語に、日本語原文を英語に翻訳する仕事に興味を持つ学生を対象に、この仕事の性質について考え、同時に実習を行い、言葉の技術とセンスを磨くことを目的とする。

なおこの科目は受講上限人数30名と決められているので、第1回目授業の最初に抽選で受講者を決定する。

講義概要

参考文献が論じているトピックスのいくつかを紹介し、私の考えをあわせて述べる。実習は主に *Newsweek*, *Time*, 英語の新聞などの興味ある記事を使って日本語を練習する。日本文英訳については主として広告文を材料に使用する。

テキスト

特に使用せず。講義ノートによる。

参考文献

- ・加島祥蔵、志村正雄「翻訳再入門」(1992)南雲堂
- ・飛田茂雄「翻訳の技法」(1997)研究社
- ・中村保男「現代翻訳考」(1992)ジャパンタイムズ

評価方法

実習で提出する各自の翻訳文の添削結果を総合評価する。

受講者への要望

新聞、単行本など活字文化に親しもうとする姿勢を持つ学生が好ましい。

年間授業計画

1. 「翻訳という仕事をどう考えたらいいか」についての話と実習。
2. 「後戻りしない文章」について話と実習。
3. 同上
4. 「直喩の訳し方」について。
5. 同上
6. 同上
7. 「意味のストレス」について話と実習。
8. 同上
9. 同上
10. 「辞書と翻訳」について。
11. 同上
12. 同上
13. 「リズム、ひびき、そして辞書」について話と実

習。

14. 同上
15. 同上
16. 「超訳は翻訳か」について。
17. 同上
18. 同上
19. 「誤訳だらけの本」について。
20. 同上
21. 同上
22. 「原文修正は許されるか」について話と実習。
23. 同上
24. 同上

科目名	翻訳
担当者	藤田永祐

講義の目標

こなれた良い訳は英文の正確で十分な理解と日本語の上手な駆使、両方が不可欠です。単語も語句もそれぞれの言語のもつシステムの中で機能するから逐語訳は優れた訳になるどころか、時に意味をなさぬことすらあります。本格的な翻訳の能力を養成するには多くの語彙に習熟することが必須の条件であると思います。そして英語と日本語のセンスを磨くことも大切です。

講義概要

受講希望者が多い場合、一回目の授業で適宜に選考します。授業は実践的方式をとります。エッセイ、新聞、小説等を材料に使いますが、受講生が希望のものをもちよるのは歓迎します。

テキスト

プリント使用

参考文献

書名を挙げて、それだけでは余り意味がないでしょうから、授業中適宜に紹介します。文献の中の役に立つと思われる箇所はプリントで配布する予定。

評価方法

毎時間の実習および、前後期2回のレポート

受講者への要望

主体性と積極性

科目名	英 文 法 1
担当者	児 玉 仁 士

講義の目標

英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。

講義概要

テキストの内容は、Section 1 では、主に英語の基礎的な文法事項が網羅的に解説されており、また Section 2 では、前節の既習事項を踏まえて、文章表現上の誤りと文体上の技巧が具体的に述べられている。特に後者の文体的側面に比重が置かれているので、英語の表現力を更にブラッシュ・アップするのに有益であろう。テキストの問題の他に、色々の文例を補充しつつ授業を進めて行くつもりである。

テキスト

A. Waldhorn, A. Zeiger ; *A Practical English Grammar for College Students* 金星堂

参考文献

R. A. クローズ著 / 斉藤俊雄訳 『現代英語文法』
研究社

江川泰一郎著：『英文法解説』金子書房

評価方法

前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。

受講者への要望

当然なことながら、出席に際しては、予習を怠らないこと、また常に辞書を携帯すること。

年間授業計画

1. 英文法の予備知識としての概要を説明する。
2. 文の構成 (第 1 章) : 品詞およびその分類について (第 2 章)
3. 名詞の形態 (数・性・格) について (第 3 章)
4. 代名詞およびその用法について (第 4 章)
5. 動詞および文中におけるその機能について (第 5 章)
6. 時制・法・態について (第 5 章)
7. 形容詞とその機能について (第 6 章)
8. 副詞およびその位置について (第 7 章)
9. 接続詞 (等位接続詞・従位接続詞) について (第 8 章)
10. 前置詞およびその機能について (第 9 章)
11. 準動詞 (動名詞・分詞・不定詞) について (第 10 章)

12. 句 (名詞句・形容詞句・副詞句) と (名詞節・形容詞節・副詞節) について
13. 一致 (agreement) (Section - 第 1 章) : 主語と動詞 (数) 代名詞と先行詞 (数・人称・性) について
14. 代名詞の格 (主格・目的格・所有格; 同格) について (第 2 章)
15. 代名詞の照応について (第 3 章)
16. 時制の一致について (第 4 章)
17. 助動詞の用法 (特に法助動詞) について (第 4 章)
18. 形容詞・副詞の機能上の相違について (第 5 章)
19. 副詞の配列について (第 5 章)
20. 修飾語・句の問題点 (1 ; 懸垂分詞・懸垂不定詞) について (第 6 章)
21. 修飾語・句の問題点 (2 ; 懸垂動名詞) について (第 6 章)
22. 語・句・節の配列の一貫性について (第 7 章)
23. 並列に関する問題点について (第 8 章)
24. 文における省略 (特に文体上) の問題について (第 9 章)

科目名	英 文 法 2
担当者	須賀川 誠 三

講義の目標

本講義では、伝統文法を基調とし、新しい言語理論を取り入れた「新文法」を学ぶことを主眼とする。同時に、従来の学校文法では、盲点となっていた事項を実践的に会得することもねらいとしたい。

講義概要

授業では、用例と解説、および練習問題を中心に英文法の各項目について習熟するようにする。文法の枠組は、伝統文法のそれを用いているので、基本的問題が主となるが、かなり高度な内容も含まれる。また、この講義では、統語論が中心であり、形態論は原則として扱わない。

なお、毎時間の初め 10 分位、小テストによるワンポイント・レッスンをを行い、盲点となっている事項について理解の徹底を図る。

テキスト

『大学英文法入門』英宝者 / 副教材 : 『ワンポイント英語表現文法』NCI

参考文献

教科書のはしがきを参照のこと。それ以外のもは必要に応じて授業で紹介する。

評価方法

前期レポート、後期筆記試験の合計点による。出席も評価に関係する。

受講者への要望

受講希望者は第 1 回目の授業に出席し、必ず受講の承認を得ること。定員を超えた場合は抽選により受講許可省を決定する。

年間授業計画

1. 年間の講義概要について説明。また、授業の進め方、学習法などについてのガイダンスをする。
2. 1. 文 (Sentence) 1.1 文の種類(1) Exercise 1.2 文の種類(2) 1.3 文の形態と表現内容
3. 1.4 文の構成要素と品詞 Exercises
4. 2. 動詞と時制 (Verbs & Tenses) 2.2 時と時制 2.3 単純現在形 2.4 単純過去形
5. 2.5 完了時制 (現在完了形・過去完了形・その他の用法)
6. 2.6 進行形 2.7 動詞の種類と進行形 Exercises
7. 3. 法助動詞 (Modal Auxiliaries) 3.1 法助動詞の法性 3.2 許可を表す
8. 3.4 可能性を表す can, could 3.5 能力を表す can,

be able to 3.6 may, might, can, could のその他の用法

9. 3.7 義務や必要性を表す must, have(got)to, need, be bound to

10. 3.8 論理的な必然性を表す must, have (got) to, need, be bound to 3.9 must と have to のその他の用法 3.10 should と ought to

11. 3.11 その他の助動詞 Exercise(1) ~ (3)

前期課題の発表

12. 前期授業のまとめ。

13. 4. 未来表現 4.1 単純現在形 4.2 現在進行形 4.3 Be going to ~ 4.4 will/shall + 原形不定詞

(1) 1 人称主語と共に (2) 2, 3 人称主語と共に

14. 4.4 will/shall + 原形不定詞 (2) 2, 3 人称主語と共に使用 4.5 will/shall be ~ing 4.5 be+to 不定詞 4.7 未来を表す他の表現 4.8 過去時における未来 Exercise(1) ~ (2)

15. 6. 受動態 (Passive Voice) 6.1 受動文型 6.2 目的が 1 つの能動文の受動態 6.3 二重目的語をとる 動詞の受動態

16. 6.4 過去分詞の形容詞的性質 6.5 能動形で受動の意味を表す場合 Exercise(1) ~ (2) 6.6 Get の受動形 6.7 経験受動態

17. 7. 条件文と仮定法 (The Subjunctive) 7.1 直説法の条件文 7.2 If 条件節と仮定法

18. 7.3 仮定法の用法上の注意点 7.4 前提節がかくされている場合 7.5 As if, as though 節

19. 7.6 主語 + wish (+ that) + 仮定法 7.7 祈願文 7.8 Should の仮定法的用法 Exercise(1) ~ (3) 7.9 その他注意すべき語

20. 9. 関係詞 (Relatives) 9.1 関係代名詞 9.2 関係形容詞

21. 9.3 関係副詞 9.4 不定関係詞 9.5 強調構文 Exercise(1) ~ (3)

22. 10. 比較 (Comparison) 10.1 比較の種類 10.2 原級による比較 10.3 比較級による比較

23. 10.4 最上級による比較 10.5 絶対比較 10.6 特殊な比較 Exercise(1) ~ (2)

24. 年間の授業の総まとめ。試験の注意点など。

科目名	英 文 法 3
担当者	府 川 謹 也

講義の目標

専修学校ではなく大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくないきっちりとした英文法の知識を身につけることが当然の狙いであるが、そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないの？」と素朴な疑問を抱くことが肝要で、そこから出発して英語という言葉の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにして表面に現れない言語の規則性を探っていくための思考方法をつかんでもらいたい。

講義概要

英文に関する生徒の問題は意外性に満ちている。それに即座に答えるには、教師に相当の知識と力量が必要である。テキストは、生徒が作った誤文を材料に、どこを直せば正しい英文になるのかを解説する。

テキストの目次は、接続詞と補文（時の従属節と動詞の意味素性、極表現と作用域、時以外の従属節他）／助動詞（進行形と名詞・動詞の意味素性、進行形と時の副詞、完了形、法助動詞 他）／特殊動詞（相動詞、状态的・非状态的動詞、使役的動詞 他）／受動構文（受動構文の一般的特徴、状態受動、間接目的語の受動構文とイデオム、疑似受動構文 他）／関係代名詞化と修飾語句移動（積み重ね関係節、縮約関係節、関係詞と遂行動詞 他）／代用表現（逆行代名詞化、統御と束縛、不在先行詞、干渉制約）／文修飾副詞と修飾対象（法副詞、評価副詞、遂行副詞）である。

テキスト

小野経男『意外性の英文法 - 学生の質問の意外性に備える』大修館書店（¥1,900円）

参考文献

安藤貞雄『英語教師の文法研究』大修館書店（¥2,060）

安藤貞雄『続・英語教師の文法研究』大修館書店（¥2,060）

安井稔編『例解 英文法事典』大修館書店（¥2,060）

*参考書はいずれも図書館所蔵

評価方法

前後期の定期試験を主とするが、課題提出や下調べなどの平常点を加減する場合もある。

欠席が7回を超えた者については、成績は「不可(F)」とする。（遅刻2回を欠席1回分に換算する。）詳細については、大学ホームページ授業の欄を参照のこと。

受講者への要望

一人前の大人として振舞う（例えば、授業中にメールでチャットしたり、教員にたいして非礼な態度を取ったりしない）こと。Fを取ったら、51パーセントは自分に責任があることを自覚できること。

年間授業計画

1回目2回目はテキストが手に入っていないかもしれないのでこちらで用意したプリントをもとに講義し、3回目からは、上記「講義概要」で記したテキストの目次タイトル33節を20回かけて進める。

科目名	英 文 法 4
担当者	三 好 健

講義の目標

テキストは、平易な英文で書かれた英文法の教科書で、ややクセはあるが、小冊子ながら、現代英語の文法が全般にわたって簡潔にまとめられている。これを読みながら、理論に走りすぎることのない実用文法を研究し、英語を読んだり書いたり話したりする場合の、実地への応用や、教職のための実力養成を目指したい。

なお、万一履修希望者数が定員(45名)を超えたときは、出席の諸君と相談の上善処する予定である。

講義概要

受講者の実力養成を目標としているため、毎回の授業は英語・英文法の充実した訓練の場となる。毎回受講生全員に発言を求めるので、下調べが必須であることは言うまでもない。意欲のない者には適さないかも知れないが、マジメにやれば力がつくことは請け合いです。

テキスト

M. M. Bryant & C. Momozawa : *Modern English Syntax* (成美堂)

参考文献

江川泰一郎：「英文法解説」(金子書房)

山崎貞・毛利可信：「新自修英文典」(研究社)

評価方法

平常の成績と年2回の試験による。

受講者への要望

遅刻・欠席が好きで下調べの嫌いな学生は来ないで頂きたい。

受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。

年間授業計画

1. イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方の説明。
2. 品詞について。(テキスト第1章)
3. 文の構造について。(テキスト第2章)
4. 文の機能について。(テキスト第3章)
5. 節について。(その1. 名詞節)(テキスト第4章)
6. 節について。(その2. 形容詞節)(テキスト第5章)
7. 節について。(その3. 副節節)(テキスト第6章)
8. 主語について。(テキスト第8章)
9. 代名詞の照合について。(テキスト第9章)

10. 動詞について。(テキスト第11章)
11. 目的語について。(テキスト第12章)
12. 補語について。(テキスト第13章)
13. 動詞句について。(テキスト第14章)
14. 助動詞について。(その1. shall と will)(テキスト第15章)
15. 助動詞について。(その2. shall, will 以外と疑似助動詞)(テキスト第16章)
16. 形容詞的修飾語句。(テキスト第17章)
17. 副詞的修飾語句。(テキスト第18章)
18. 否定について。(テキスト第19章)
19. 比較について。(テキスト第20章)
20. 態について。(テキスト第21章)
21. 仮定法について。(テキスト第24章)
22. 不定詞について。(テキスト第25章)
23. 分詞について。(テキスト第26章)
24. 話法について。(テキスト第27章)

科目名	Conversation - 2
担当者	D . ブラドリー

講義の目標

This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English.

講義概要

We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be that of general EFL textbooks at the intermediate level. The listening exercises consist of short interviews, telephone exchanges, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences, and participate in role plays and discussions. In the weekly topics listed below there is a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final.

There will be a homework listening assignment.

There is an upper limit of 35 on the number of students who may take this class. Where the number hoping to take this class exceeds 35 we will decide the class members by lottery during the first class meeting.

テキスト

There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.

評価方法

Grades will be based on attendance, class participation and the homework assignment. In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.

受講者への要望

Students will work together in pairs during the speaking activities and it is important that you make an effort to speak in English and maintain English throughout the lesson. This effort will be reflected in the grading.

年間授業計画

- 1 . Introduction to the course
- 2 . Consolidation activities
- 3 . "

4 . Personal information - talking about yourself

- 5 . Work - talking about jobs and careers
- 6 . Past lives - talking about people's histories, biographies
- 7 . Homes - Location inside the house
- 8 . Directions - giving directions and using maps
- 9 . Travel - making travel arrangements
- 10 . Travel - modes of transport
- 11 . Giving instructions
- 12 . Review
- 13 . Consolidation
- 14 . Comparisons
- 15 . Communication - reported speech and giving messages
- 16 . Health
- 17 . Giving advice
- 18 . Hypothetical situations - conditional sentences - talking about the future
- 19 . Hypothetical situations - conditional sentences - talking about the past
- 20 . Currents events - listening to the news
- 21 . Discussions - giving opinions
- 22 . "
- 23 . Review
- 24 . "

科目名	Conversation -3
担当者	G . スウィニー

講義の目標

The aim of this course is to provide students with the opportunity to speak English in a friendly and supportive atmosphere. By using English during class time, students should be able to improve their communicative abilities. The basic philosophy of the course is that language is best learned when used for meaningful communication.

講義概要

The course will focus on weekly topics which students will have a chance to discuss in pairs or in groups. The units of the textbook cover the four skills of listening, speaking, reading, and writing. Particular emphasis is placed on listening and speaking.

テキスト

New Interchange 2 (blue cover) Jack C. Richards
Cambridge University Press

参考文献

Students should have a dictionary on hand.

評価方法

Students will be evaluated by class participation, attendance, assignments and test scores.

年間授業計画

- 1 . Introduction to the course.
- 2 . A Time to remember : what you used to do as a child.
- 3 . Caught in the rush : discussion of cities and modern life.
- 4 . Time for a change : the places that we live in.
- 5 . I've never heard of that : a look at foods from around the world.
- 6 . Review of units 1 - 11.
- 7 . Going places : a discussion of vacations and travel.
- 8 . Sure, no problem : family complaints.
- 9 . What's this for : a look at modern technology.
- 10 . Let's celebrate : holidays and festivals.
- 11 . Review of units 5 - 8.
- 12 . Back to the future : how society changes.
- 13 . I don't like working : discussion about jobs.
- 14 . It's worth seeing : a look at art and music.

- 15 . It's been a long time : people that are admired.
- 16 . Review of units 9 - 12
- 17 . Books and movies : what makes them good.
- 18 . What it means : proverbs.
- 19 . What would you do : imaginary situations.
- 20 . What's your excuse : giving excuses and apologizing.
- 21 . Review of units 13 - 16.
- 22 . Honesty : a look at this topic.
- 23 . Dreams : what do they mean?
- 24 . Wishes and hopes : a discussion.

科目名	Conversation - 4,5
担当者	J . ウォールドマン

講義の目標

This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.

講義概要

Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and improve their English.

テキスト

No text will be used, but students will be expected to prepare and generate topics for class discussions.

評価方法

Students will be graded on attendance, classroom participation, homework, and examinations. There will be a limit of 35 students who will be selected by random lottery.

受講者への要望

The teacher will expect all students to maintain a high level of enthusiasm as well as adhere to all grade requirements listed above.

年間授業計画

- 1 . Introductions with an explanation of the grading system and student requirements.
- 2 . In this session students will generate topics for discussion that will be used throughout the semester.
- 3 . The main topic of discussion will focus on dating and marriage customs in Japan and the United States.
- 4 . The differences in life styles between the students and their parents will be the topic of conversation in this class.
- 5 . This session will revolve around reading patterns and students' favorite books.
- 6 . The Confucian and Socratic methods of education will be discussed in this class.
- 7 . This session will focus on travel experiences to

broaden students' cultural understanding.

- 8 . Health topics affecting university students will be the topic of this class.
- 9 . High school memories and a comparison between high school life and college life will be the discussion topic in this class.
- 10 . Storytelling techniques will be used to generate conversation among students.
- 11 . The main topic of discussion in this class will revolve around summer travel plans.
- 12 . Midterm examination.
- 13 . This class will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life.
- 14 . The changing roles of men and women in the United States and Japan will be the topic of discussion in this class.
- 15 . In this class students will learn to read and understand English newspapers.
- 16 . Students will continue to work with English newspapers to further proficiency.
- 17 . This will be the last class using English newspapers with a review for upcoming test.
- 18 . Test on previous three lessons using English newspapers.
- 19 . Students will give presentations explaining Japanese culture.
- 20 . Problems of non-Japanese people living in Japan will be the focus of discussion in the class.
- 21 . Storytelling techniques will be used to generate discussion in this class.
- 22 . The topic of this class will be environmental problems.
- 23 . Communication activity using music will be the focus of this class.
- 24 . Final examination.

科目名	Conversation - 8,9
担当者	R . J . バロウズ

講義の目標

This is a content - based course for students who are interested in leaning about and discussing the cultural history of the USA and UK from the 1950s to the present. Movie and documentary footage will be used as both listening practice and a spring board for discussion. In addition to expanding students communicative skills, class members will also have the opportunity to share opinions and widen their vocabulary.

講義概要

In the Spring tem, the recent film 'Forest Gump' will be used to look at post - war American culture and history. In the fall tem, excerpts from the recent documentary 'The Beatles' Anthology' will be studied, fowsing on British cultural change during the 1960s. Students will have the opportunity to lean new vocabulary necessary for post - viewing discussion, analyse either a section of dialogue or a song and practice summarising and reviewing what they have seen.

テキスト

Photocopies will be handed out at the beginning of tem. Students should provide an A4 ring birder to keep these. There is no foot book.

参考文献

Students are advised to bring a good pocket dictionary to each class.

評価方法

Grades will be based on attendance, class participation and an exam given at the end of each semester.

受講者への要望

For those students interested in the popular culture of this era, this class will enable you to lean more about this period while furthering your language skills.

年間授業計画

- 1 . INTRODUCTORY CLASS
- 2 . FORREST GUMP (PART 1)
Forest's Childhood
- 3 . FORREST GUMP (PART 2)

- Forest's Education
- 4 . FORREST GUMP (PART 3)
Forest Graduates
- 5 . FORREST GUMP (PART 4)
Forest in Vietnam
- 6 . FORREST GUMP (PART 5)
Forest in Washington
- 7 . FORREST GUMP (PART 6)
Forest Business
- 8 . FORREST GUMP (PART 7)
Forest on the Road
- 9 . FORREST GUMP (PART 8)
Forest and Jerry
- 10 . FORREST GUMP REVIEW 1
Information Gap Crossword
- 11 . FORREST GUMP REVIEW 2
Writing a Film Review
- 12 . END OF TERM EXAMINATION
- 13 . THE BEATLES (PART 1)
Background + Form of the bard
- 14 . THE BEATLES (PART 2)
Hamburg + the early years
- 15 . THE BEATLES (PART 3)
- 16 . THE BEATLES (PART 4)
Beatlemania
- 17 . THE BEATLES (PART 5)
The Beatles on Tour
- 18 . THE BEATLES (PART 6)
The Beatles on Film
- 19 . THE BEATLES (PART 7)
The Beatles in the studio
- 20 . THE BEATLES (PART 8)
The Psychedelic Beatles
- 21 . THE BEATLES (PART 9)
The Beatles in India
- 22 . THE BEATLES (PART 10)
The Beatles Break Apat
- 23 . THE BEATLES (REVIEW)
- 24 . END OF TERM EXAMINATION.

科目名	Conversation - 10
担当者	R . M . ペイン

講義の目標

This course is meant to help intermediate level students improve their speaking and listening abilities.

講義概要

Class time will be divided between whole class activities and group presentations. (Students will be divided into groups and each group will prepare a presentation or activity for each class.)

テキスト

No specific text will be used. Students will generate and prepare topics for weekly presentations.

評価方法

Grades will be based on attendance and participation in whole class activities and group presentations as well as improvement as measured by a pre-test, a mid-term test, and a final test.

年間授業計画

- 1 . Introduction and explanation of class methods, goals, and rules.
- 2 . Pre-test and determination by students of group presentation topics for the first term.
- 3 11 .Pronunciation and fluency exercises followed by student presentations.
- 12 . mid-term test
- 13 .determination by students of group presentation topics for the second term.
- 14 15 . pronunciation and fluency exercises followed by student presentations.
- 16 . final test

科目名	Conversation -11
担当者	R . ジョーンズ

講義の目標

The main purpose of this course is to improve students speaking, listening and vocabulary skills in a content based syllabus. Topics of social and world interest will be examined in the lessons. At the end of the course, the students who have studied diligently will have increased their English speaking, listening and vocabulary skills significantly. Furthermore, they will be able to participate in discussion on a wide range of issues facing humanity. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that students will be to understand more fully the differences between Western and Japanese thinking on the issues covered. ***Please note: the content for Conversation I and and the Discussion class is basically the same. Conversation I is for students of intermediate speaking ability , whereas conversation II is for students of high-intermediate to advanced speaking ability.*** Previous students to the course are most welcome as all new material will be used.

講義概要

In the lessons great emphasize will be placed on getting discussions going on what students already know about a given topic. Student vocabulary will then be built up and ideas focused so that they can participate more fully in the discussions that ensue. Students will be expected to work hard to develop their opinions and to build up their vocabulary. Much of the class time will be devoted to pair and group work in order to maximize the amount of speaking time available to each student. Students are expected to work hard both in and out of class.

テキスト

No text is required as handouts will be given each lesson. Each handout will contain vocabulary work, conversation activities and listening exercises.

評価方法

There will be a mid-term and a final speaking exam. In these exams, students have to demonstrate how well they can speak on the topics covered. They will be assessed in groups of 3 to 4

students. A typed report is required in each semester on any topic covered that the student finds interesting. In the regular lessons, there will be frequent vocabulary tests and the students will have to deliver speeches on given topics. In class there will also be exercises that will be awarded points which count towards the final grade. Please be sure to keep good attendance. **Final message:**

Never give up !

年間授業計画

Topics to be covered over the 24 lessons include the following:

Environmental problems : what are they ? How can we all help make the world a cleaner place ?

Why do we exist ? : What is the meaning of life ? What part does religion play ;is it a good or bad thing ? What other things do people believe in concerning life and death?

Violence in Society : Why is there so much violence in the world ? How about juvenile delinquency ? Child abuse and spousal abuse. What can be done to make the world a more peaceful place ?

Women's Issues and marriage : Sexual and other forms of harassment. Working mothers and other issues of women at work. Living together or marriage ? Births out of wedlock - do children need a father ?

Genetic Engineering : What are the issues concerning cloning? Is it a good or bad thing ? How about genetically modified crops ?

Foreigners in Japan : How are they treated ? What do Japanese people think of foreigners in Japan ? Why don't foreigners living and working in Japan have equal rights to Japanese people ? Should they have those rights ?

Developing Countries and the World's poor . What problems do they face ? How can the rich countries in the world help.

Please note: not all the above will be covered and they may not be covered in the order shown. Also, other topics may be introduced.

科目名	Conversation -12
担当者	S . マッケイブ

講義の目標

In this course students will practise speaking on a wide variety of topics, and will develop discussion skills and conversational skills.

Discussion topics will be decided by the students and the teacher in the first classes. Students will be expected to take an active part in class discussions, and to be prepared by doing research outside of class.

テキスト

None.

評価方法

Grades will be based on attendance, class performance, and a final interview. Details will be given in the first class.

科目名	Conversation - 13
担当者	T . J . フォトス

講義の目標

The main objectives and aims of this English course are to review and increase the vocabulary and understanding of general English terms that will assist students in their future careers. All four skills of reading, writing, speaking, and hearing of English will be covered. If more than 35 students wish to be in the class, there will be a simple selection test the first class meeting.

講義概要

Several general interest newspaper and magazine articles will be studied. American movies will be viewed.

Newspaper and magazine articles, as well as movie reviews will be handed out to students. Although there probably won't be any assigned course textbook, students should be prepared to use not only the usual Japanese-English, English-Japanese dictionaries, but also a simple, cheap, up-to-date English-English pocketbook dictionary would be good to have. Please note that extra copies of the videos for the course will be available for the student's individual practice in the Dokkyo University Language Laboratory located in Building No.5,3d Flr.

参考文献

There will be handouts (copies) of various newspaper and magazine articles which will be read, studied and discussed in class to increase student's vocabulary, especially of business and economics terms. American movies, with short written movie reviews or explanations will watched from time to time. These movies will be "closed caption". That is, the words that one hears will appear in English typed on the screen. Trying one's best and making an effort to improve and make progress in most important.

評価方法

(% of course grade) Class attendance, discussion and participation (70%); first semester oral interview (15%); and final oral interview (15%).

受講者への要望

Active class participation and regular attendance are important in determining the final course grade, therefore not only must the university rule of two-thirds of the classes be attended, but closer to 80% attendance would better assure that the students get something useful out of the lessons.

年間授業計画

- 1 . Introductions ; possible selection test to determine who gets into the course (if necessary).
- 2 . In-class self-introduction essays; small group discussions; review of key writing points.
- 3 . Re-writing of essays with additional conversations with new classmates. Short article hand-out.
- 4 . Video-start; 20 minutes, brief discussion and explanation. Student discussion of last week's hand out.
- 5 . Review video: question and answer of video topic; discussion of video in small groups. Next short article hand-out.
- 6 . Student small-group discussion of previous week's hand-out, after short lecture. Next video topic introduced.
- 7 . Key phrases and words from video explained and practiced; video watched again; small group discussion.
- 8 . Video reviewed and short in-class essay of individual student's own opinions and ideas, followed by small group discussion.
- 9 . Next video and reading topic introduced. Items explained and questions answered.
- 10 . Review of video and hand-out. Small group discussion. Review of previous topics begins.
- 11 . Questions and answers with small-group discussions. Review continues.
- 12 . Short oral interview "test" and possibly a written test as well.
- 13 . Summer essay writing with stress on the past tense; in-class peer corrections; discussions.
- 14 . Introduction to next video and article hand-out. small group discussion.
- 15 . Continuation of previous week's topics, with additional explanations and discussions.
- 16 . Additional hand-out with explanation and small-group discussion. Short essay of hand-out topic.

- 17 . Essays discussed and critiqued in small-group.
Video introduced with explanations; hand-out.
- 18 . Video from previous week continued with hand-out and video small-group discussion.
- 19 . Continuation of video and review and main word and concepts of topic; small-group discussion
- 20 . Last video and video and movie review introduced. Explanation of key words and concepts.
- 21 . Video, movie explained and small-group discussion of main points of video.
- 22 . Review lesson of the second semester main points.
- 23 . Review and finishing up of any loose ends regarding material covered during the year's course.
- 24 . Oral and written final examination.

科目名	Conversation - 2
担当者	C . B . 池口

講義の目標

The overall aim of this course is to provide a maximum opportunity for students to develop speech communication. Specifically, every student in class will be given enough and fair chance to organize and express their ideas logically in the target language. At the end of the course, students should be able to communicate these ideas in clear, fluent and coherent fashion.

講義概要

Issues of international appeal, particularly to EFL students, will be presented to encourage use of the target language and generate active discussions. Classes in the first term will focus on group presentations of movie analysis. Classes in the second term will focus on individual presentations and more organized forms of public speaking.

テキスト

To be announce on the first day of class

参考文献

To be announced.

評価方法

Student evaluation will be based on class performance and oral term-tests. Class performance includes participation in class discussion, as well as group and individual oral presentations. Attendance is obligatory.

受講者への要望

To be able to make the most out of this class, students are required maximum participation.

年間授業計画

- 1 . Course Introduction and Orientation
- 2 . Principles of Movie Analysis (1)
- 3 . Principles of Movie Analysis (2)
- 4 . Presentation: Teams 1 and 2
- 5 . Feedback and Evaluation
- 6 . Presentation: Teams 3 and 4
- 7 . Feedback and presentation
- 8 . Principles of Public Speaking: An Introduction
- 9 . World's Great Speakers'
- 10 . Individual Speech: Practice 1
- 11 . Individual Speech: Practice 2

- 12 . Summary and Term Test
- 13 . Course Reviw & Introduction to the 2nd Term
- 14 . Informative Speech: Principles and Guidelines
Preparing for Informative Speaking: Outlining
- 15 . Informative Speech Presentation (1) Graded
Topic: Free
- 16 . Informative Speech Presentation (2) Graded
Topic: Free
- 17 . Feedback and Evaluation
- 18 . Persuasive Speech: Principles and Guidelines
Preparing for Persuasive Speaking: Outlining
- 19 . Persuasive Speech Presentaion (1) Graded Topic:
"Where is the Gentleman in Japan"
- 20 . Persuasive Speech Presentaion (2) Graded Topic:
"Where is the Gentleman in Japan"
- 21 . Principles of Debating: Guidelines, Format and
Procedures Sample videos
- 22 . Practice Debate: "English is Necessary in
Elementary Schools in Japan"
- 23 . Feedback and evaluation
- 24 . Formal Debate: Graded

科目名	Conversation - 3
担当者	F . ファーン

講義の目標

This course aims to develop the communicative competence of course participants, providing students with the opportunity to use English in a variety of situations and to express their views on a variety of issues.

講義概要

This course focuses primarily on developing the listening and speaking skills of course participants. The programme is student centred with an emphasis on active participation. Working in pairs and small groups, students are provided with a wide range of opportunities to make use of English and to improve their ability to express themselves more accurately, appropriately and fluently.

A core video programme is used together with additional film, audio and textual materials. These provide the learner with an opportunity to hear natural English spoken in a native-speaker environment whilst also giving an insight into modern Britain, its culture and lifestyle.

テキスト

Headway Video Intermediate: Activity Book
Richard Cooper OUP. The teacher will supply additional materials.

参考文献

Students are recommended to purchase an advanced learner's English-English dictionary. The following are suitable:

- a) Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. OUP.
- b) Longman's Dictionary of Contemporary English
Longman
- c) Cambridge International Dictionary of English
Cambridge

評価方法

Assessment is based upon attendance, active participation, quizzes and assignments.

科目名	Conversat ion - 4
担当者	G . スウィニー

講義の目標

The goal of this class is for learners who have already achieved a basic level of English proficiency to further develop their communicative abilities in a natural way. Class time will be used in a manner that will allow students to discuss various topics in a friendly and supportive atmosphere.

講義概要

The course will focus on speaking and listening skills as well as vocabulary development. Students will discuss a wide-range of topics and events in the news.

The units of the textbook are balanced in a way that the four skills of reading, listening, speaking, and writing are covered in a style that encourages meaningful communication.

テキスト

New Interchange 3 (green cover) Jack C. Richards Cambridge University Press

参考文献

Students will need a dictionary.

評価方法

Students will be evaluated by class participation, attendance, assignments and test results.

年間授業計画

- 1 . Introduction to the course.
- 2 .Friends : how we choose them and their qualities.
- 3 . Career moves : what you may do it the future.
- 4 . Do me a favor : asking and receiving favors.
- 5 . What a story : giving excuses.
- 6 . Review of units 1-4
- 7 . Crossing cultures : a look at cultural variances.
- 8 . What's wrong : complaints and remedies.
- 9 .Our world : factors that affect the places in which we live.
- 10 . Learning to learn : education
- 11 . Review of units 5-8
- 12 . Self-improvement : the ways we strive to become better.
- 13 . The past and future : events from the twentieth century.
- 14 . Life's lessons : milestones in one's life.

- 15 . The right stuff : reasons for likes and dislikes.
- 16 . Review of units 9-12
- 17 . That's a possibility : predicaments.
- 18 . Behind the scenes : types of occupations.
- 19 . A law : looking at the rules a society makes.
- 20 . Accomplishments : successes and failures.
- 21 . Review of units 13-16
- 22 . Giving advice : helpful hints to solve problems.
- 23 . Recent events : a discussion of things in the news this past year.
- 24 . Going to do : a look ahead to the new year.

科目名	Conversation - 5,6
担当者	J . エルウッド

講義の目標

Our purpose in Conversation is to improve students' existing English skills. Our focus will be on speaking, but we will also have listening, reading, and writing activities because the four are intrinsically related. Your instructor speaks and teaches in English, and he expects you to do the same - I don't ask for perfection, only that students do their best!

講義概要

Students should expect to speak English during every class. Students will work extensively as members of a group that will do many activities both inside and outside the classroom. We will be doing traditional person-person speaking, but we will also explore other areas such as non-verbal and "non-human" communication. Students will be both leading and participating in classroom activities

テキスト

David Peaty, You, Me, and the World (Kinseido).

参考文献

E-J and J-E dictionaries (optional)

評価方法

Grades will be computed approximately as follows:

Exams and quizzes = 35%

Presentations = 10%

Outside projects = 17.5%

Performance (puppets & mime) = 17.5%

Attitude & participation = 20%

受講者への要望

Above all else, I expect students to attend class and do their best. I allow occasional absences, but I seldom miss class and I demand the same of students. My classes are active, busy, and perhaps unusual - and I invite you to come and have fun improving your English.

年間授業計画

During this school year our class will include the following:

- 1 . Presentation and discussion of current topics
- 2 . Intermediate polite language in English

3 . Word roots and idioms

4 . Impromptu speaking skills

5 . Basics of puppetry

6 . Non-verbal communication skills

7 .Several projects outside of class (i.e., interviewing a foreigner)

科目名	Conversation - 7
担当者	J . ス ト ー ム

講義の目標

The aim of this course is to improve student fluency through reaction to and discussion of various contemporary issues related to multicultural studies. It is intended that students gain confidence in sharing their ideas in English while reacting to challenging topics that include: race; prejudice; nationality; ethnic studies; immigration; diversity; religion; and human relations. Stress will also be placed on maximizing present communication skills by introducing speaking strategies and improving proficiency related to negotiating, persuasion, and presentations. ... If you are interested in multicultural studies, this class is for you!

講義概要

Students will work in pairs and small groups to share opinions/ reactions about the topic of the lesson. In some cases, these ideas will be shared with others in the class. Students will also participate in case simulations, short, student-led discussions, and make two group, workshop presentations. There will be occasional quizzes based on homework readings (related to upcoming topics) and vocabulary.

テキスト

Materials will be provided by the teacher. An English/English dictionary is required.

評価方法

Participation (including attendance): 60%

Assignments and quizzes: 40%

A HIGH attendance rate is required to PASS this course

年間授業計画

1. Introductions
2. Discussion skills: Interruption and checking meaning
3. Discussion skills: Checking meaning and disagreeing
4. Discussion topic
5. Discussion topic
6. Discussion topic
7. Discussion topic

8. Discussion skills: Body language
9. Discussion topic
10. Discussion topic
11. Workshop presentations
12. Workshop presentations
13. Discussion skills: Negotiation skills
14. Discussion skills: Persuasion
15. Discussion topic
16. Discussion topic
17. Discussion topic
18. Discussion topic
19. Discussion topic (student led)
20. Discussion topic (student led)
21. Workshop presentations
22. Workshop presentations
23. Special topic: On success
24. " "

科目名	Conversation - 10
担当者	R . M . ペイン

講義の目標

- 1 . to give students practice in building conversational and communicative skills.
- 2 . to improve students' listening skills
- 3 . to expose students to the culture of the language

講義概要

We will cover approximately one unit of the text every two classes. Active, enthusiastic participation by each student is essential to success in the course.

There will be a test following every third unit.

テキスト

on line, 2

(Heinemann)

評価方法

Grades in this class will be based on the following:

1. attendance/participation: 60%

This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent three or more times in one term, the student will receive a failing grade for the class. Two tardies will be counted as one absence.

2. tests, quizzes, or projects: 40%

年間授業計画

- 1 . Introduction and explanation of the course.

Introduction to Unit 1.

- 2 . Unit 1: Moving In
- 3 . Unit 1: Moving In
- 4 . Unit 2: Technology Rules?
- 5 . Unit 2 (cont'd)
- 6 . Unit 3: Places we know
- 7 . Unit 3: Places we know
- 8 . Test
- 9 . Unit 4: That's life
- 10 . Unit 4: That's life
- 11 . Unit 5: Facts for fun
- 12 . Unit 5: Facts for fun
- 13 . Unit 6: Wishful thinking
- 14 . Unit 6: Wishful thinking
- 15 . Review Unit
- 16 . Test

17 . Unit 7: The travel world

18 . Unit 7: The travel world

19 . Unit 8: Career success

20 . Unit 8: Career success

21 . Unit 9: Life's twists and turns

22 . Unit 9: Life's twists and turns

23 . Review

24 . Test

科目名	Conversation - 13
担当者	R . ダラム

講義の目標

This course will try to introduce students to a variety of situations, conversations, vocabulary, Modern English grammar, English expressions, and International aspects. Students will be asked to ACTIVELY *participate* in understanding, learning, and using APPROPRIATE English at appropriate times *not* "Wasei Eigo" Conversations, song and video - listening exercises, newspaper articles may be used, to improve English abilities.

講義概要

Student participation is CRUCIAL (very IMPIORTANT) in learning and practicing new, Modern English. Therefore, a lot of practice approptunities responses will be provided. Culturally-appropriate will be emphasized. Listening and discussion practice will be provided by song and video exercises. Understanding of International cultures will be stressed, as well.

テキスト

A textbook (and the need of a text) will be assessed after meeting with students and determining student needs.

評価方法

Attendance: approx. 20% (2 later = 1 absence; more than 20 minutes late = 'absent'); Participation: approx. 20%; Assignments & Quizzes: approx. 20%; and Examination(s): approx. 40%

受講者への要望

Please DON'T be late or absent: you will FAIL! ACTIVE participation is needed, in this class. Please try learning DIFFERENT styles of English communication, and try learning about different cultures.

年間授業計画

1 . Introductions in English: avocation; work or study place; and location. Video/ song - listening exercise. THIS SYLLABUS MAY BE CHANGED TO BETTER SUIT STUDENT NEEDS.
 2 . Review. "How are you?" + many answers, with pair practice. Introductions part 2, with fictional names, avocations, and so on.

3 . "Where are you from?"; "Where do you come from?"; "Where were you born?"; "Where did you grow up?"; and "Where do you live?" Pair practice. Song / video- listening.
 4 . Review, using fictional names, birth places, places of residence, and so on. Pair practice. Talking about Golden Week activities. Song / video exercise.
 5 . Mother's Day: plans, perhaps with song exercise. Pair practice. Hobbies, with pair practice.
 6 . Review of hobbies. Video, newspaper, or song exercise. Brief quiz. "What kind of do you like?", with pair explanations there of.
 7 . Review, "What kind of do you like", with pair practice. Song- listening exercise. Use of Future tense, with variations.
 8 . Review & practice: Future tense; with pair practice. Video / song exercise. Father's Day questions.
 9 . "What do you think of ?": expressing opinions actively. Pair practice. Song- listening exercise. Brief quiz.
 10 . "What do you think about ?", part 2; with further pair practice. Video / Newspaper / Song exercise(s).
 11 . Review for Summer Examination; with plenty of practice.
 12 . Summer Examination: oral testing.
 13 . "How was your Summer Break?", with pair practice. Song- listening exercise.
 14 . Review, "How was your ?", with pair practice. "Have you ever ?", with pair practice.
 15 . Review, "Have you ever ?"; pair practice. Video / Newspaper / Song exercise(s).
 16 . Hallowe'en: origins; history; video; discussion of costume plans. "When did you first / last ?", with pair practice.
 17 . Hallowe'en, continued. Review: "When did you last / first ?"; with pair practice. Video exercise. Brief quiz.
 18 . "What's like?"; with pair practice. Song / News / Video exercise.
 19 . Review: "What's like?" Research: Christmas in various countries. Song exercise.
 20 . Christmas information - gathering; and

presentations thereon. Invitations, with pair practice. Christmas song exercise.

21 . Invitations: reviewed and pair - practiced.

Christmas presentations; Christmas song exercise.

22 . Christmas and New Year's plans: pair practice.

Presentations. Christmas song exercise.

23 . Review for January exam.

24 . Oral Examinations.

科目名	Conversation - 14
担当者	W . J . ベンフィールド

講義の目標

To develop listening and speaking skills and to consolidate and build vocabulary using material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English.

講義概要

The topic will be introduced through either a written text or video. Students will then participate in a variety of activities such as group discussion or individual/group presentations. Short pieces of written work may also be required depending on the subject. If there are too many students for the class, selection will be random.

テキスト

Print and video

参考文献

None

評価方法

Final grades will be given on the basis of examination results at the end of each semester, attendance, and active participation in classroom activities.

年間授業計画

- 1 . Course explanation/ student selection.
- 2 . Topic 1: The modern world
- 3 . Topic 1 continued
- 4 . Topic 2: Sport and leisure
- 5 . Topic 2 continued
- 6 . Topic 3: Writing, painting and music
- 7 . Topic 3 continued
- 8 . Topic 4: Cultural comparison
- 9 . Topic 4 continued
- 10 . Topic 5: Holidays
- 11 . Topic 5 continued
- 12 . Mid-year examination
- 13 . Topic 6: Food and drink
- 14 . Topic 6 continued
- 15 . Topic 7: Work
- 16 . Topic 7 continued
- 17 . Topic 8: Money
- 18 . Topic 8 continued
- 19 . Topic 9: Families and relationships

- 20 . Topic 9 continued
- 21 . Topic 10: Habits
- 22 . Topic 10 continued
- 23 . Topic 11: Birth, marriage and death
- 24 . Final examination

科目名	Discussion 1
担当者	N . H . ジョスト

講義の目標

This is aim of this class is to help students clarify their thoughts and ideas through active discussions, and to help students further develop their language skills.

講義概要

This course will address and define some of issues that face us today. It is clear that the world is becoming a smaller place, and the need for communication skills in English is becoming ever so great. Thus the primary aim will be on the expression of ideas in a clear concise manner, and on the ability to listen to the thoughts and opinions of others.

Students will work in small groups and present their conclusions and ideas to the larger group. The first semester will focus on domestic issues while the second will look at international problems.

テキスト

No textbook is required for this class. An English/English dictionary is required.

参考文献

Television news clips, newspaper, and journal articles. All materials will be provided.

評価方法

Grades will be based on classroom participation, and on midterm and final presentations.

受講者への要望

This course is for students at the advanced level of English proficiency.

The numbers of students allowed in class is set at 25. Students will be selected on the first day by an oral interview

年間授業計画

- 1 . Introduction
- 2 . What should be done about bullying in high school?
- 3 . Why is the divorce rate on the rise in Japan?
- 4 . How can English education in Japan be improved?
- 5 . Should non-Japanese residents have the right to vote in national elections?

- 6 . Should the election process be changed in Japan?
- 7 . Should the government actively promote no smoking?
- 8 . Should Japan be allowed to have a military?
- 9 . What can be done to make the work place better?
- 10 . What do you see for your future here in Japan?
- 11 . First round of presentations.
- 12 . Second round of presentations.
- 13 . What is a multiracial society and is it good?
- 14 . What can be done to help solve the problems be Israel and Palestine?
- 15 .What we can do to promote our own culture when we travel abroad?
- 16 Is American becoming too much of a world power? A would police?
- 17 . What can be done help protect the environment?
- 18 . Why divorce rates becoming so high in Westernized cultures?
- 19 . What can/should Japan do to promote world peace?
- 20 . What can be done to protect world heritage sights?
- 21 . How Japan perceived in the world?
- 22 . What is the role of women in the world?
- 23 . First round of presentations.
- 24 . Second round of presentations.

科目名	Discussion 2
担当者	R . ジョーンズ

講義の目標

The main purpose of this course is to improve students speaking, listening and vocabulary skills in a content based discussion syllabus. Topics of social and world interest will be examined in the lessons. At the end of the course, the students who have studied diligently will have increased their English speaking, listening and vocabulary skills significantly. Furthermore, they will be able to participate in discussions on a wide range of issues facing humanity. In addition, the lessons will contain cultural comparisons that will allow the students to more fully appreciate Japanese and Western thinking on the issues covered. This course is for students whose English level is high-intermediate to advanced (e.g. Eiken 2, a TOEFL of 480+ or returnee students). If more than 35 students select this course then students will be chosen in part by;

- i) English qualifications that they have, e.g., TOEFL, TOIEC and EIKEN.
- ii) A short written composition.

講義概要

In the lessons great emphasis will be placed on getting discussions going on what students already know about a given topic. Student vocabulary will then be built up and ideas focused so that they can participate more fully in the discussions that ensue. Students will be expected to work hard to develop their opinions and to build up their vocabulary. Much of the class time will be devoted to pair and group discussion in order to maximize the amount of speaking time available to each student. Students are expected to work hard both in and out of class.

テキスト

No text is required as handouts will be given each lesson. In addition to discussion exercises, each handout will contain vocabulary work, conversation activities and listening exercises.

評価方法

There will be a mid-term and a final discussion

exam. In these exams, students have to demonstrate how well they can discuss the topics covered. They will be assessed in groups of 3 to 4 students.

In the regular lessons, there will be frequent vocabulary tests and the students will have to deliver speeches on given topics. In class there will also be exercises that will be awarded points which count towards the final grade. Please be sure to keep good attendance; missing lessons will mean that you miss grade points.

One report for each term is required. The report is to be based on any of the topics covered in the lessons. It should be about 500 words long and typed.

受講者への要望

Students are expected to come to the lesson on time and to keep excellent attendance - that applies to seniors as well ! Do not forget to do homework, and if you are absent check with a friend on the work you have missed. If you try hard at something you can succeed! Remember; never give up!

年間授業計画

Topics to be covered over the 24 lessons include the following:

Environmental problems: what are they? How can we all help make the world a cleaner place?

Why do we exist?: What is the meaning of life? What part does religion play; is it a good or bad thing? What other things do people believe in concerning life and death?

Violence in Society: Why is there so much violence in the world? How about juvenile delinquency?

Child abuse and spousal abuse. What can be done to make the world a more peaceful place?

Women's Issues and marriage: Sexual and other forms of harassment . Working mothers and other issues of women at work. Living together or marriage? Births out of wedlock - do children need a father?

Genetic Engineering: What are the issues concerning cloning? Is it a good or bad thing? How about genetically modified crops?

Foreigners in Japan: How are they treated? What do Japanese people think of foreigners in Japan?

Why don't foreigners living and working in Japan

have equal rights to Japanese people? Should they have those rights?

科目名	Discussion 3
担当者	W . J . ベンフィールド

講義の目標

This course will be an introduction to and a discussion of British and American poetry.

講義概要

Poetry is normally considered a hard subject and this is often true . The use of specialized syntax, 'poetic' language and unexpected combinations of words are common . But this is not always the case. Many 20th century poets from Britain and the USA made a point of trying to write poetry in plain English . In this course we will examine this type of poem, with examples drawn mainly from the 20th century but with a few from the 19th century also . Among the poets represented will be W. H. Auden, T. S. Eliot, Robert Frost, Emily Dickinson, Ted Hughes, and D. H. Lawrence. Apart from individual poems, we will also look at the mechanics of poetry verse structure, rhythm and choice of language

to better understand how poets achieve their effects . The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a greater sensitivity to the way English can be used .

テキスト

There will be no set text. Copies of the poems will be provided .

評価方法

Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities . Students will write a report at the end of each semester .

年間授業計画

- 1 . Course outline and student selection . Since there is a limitation on the number of students in this class, students will be selected on the basis of a short essay written in class .
- 2 . What is a poem ? A look at some of the elements of poetry
- 3 . Week 2 topic contd .
- 4 . Poem and discussion
- 5 . Poem and discussion
- 6 . Poem and discussion
- 7 . Poem and discussion

- 8 . Poem and discussion
- 9 . Poem and discussion
- 10 . Poem and discussion
- 11 . Poem and discussion
- 12 . Review of term's work
- 13 . Poem and discussion
- 14 . Poem and discussion
- 15 . Poem and discussion
- 16 . Poem and discussion
- 17 . Poem and discussion
- 18 . Poem and discussion
- 19 . Poem and discussion
- 20 . Poem and discussion
- 21 . Poem and discussion
- 22 . Poem and discussion
- 23 . Poem and discussion
- 24 . Review of second term's work

科目名	スピーチ 1
担当者	板 場 良 久

2 . Impromptu Speech

3 . Persuasive Speech

(詳しい授業計画は最初の講義で配布します。)

講義の目標

スピーチとは、どのような長さのものであれ、ある人間関係を存続させる対話の流れの中に投げられる1つの発言です。ですから、相手や状況、発言の動機と目的が常に問われます。さらに、話者を演じる自分とは誰なのかという問いも不可欠となります。このクラスでは英語スピーチの理論と実践を通じて、以上のような問いに答えていく習慣を身につけていただくことを目指します。したがって、話し方教室で学ぶスピーチの修辞技術や理想的構造(文体や音声)の学習は主目的ではありません。その人なり(芸)すなわち個性を追求します。

講義概要

理論的解説(ハウツー・ルールなど)はミニレクチャー形式で行ないませんが、こうした講義よりも実際に受講生にスピーチをしていただく時間の方が多くなります。また、他のクラスメートのスピーチに対して質問したり、意見を述べたり、あるいは評価することも多くなり、聞き手として積極的に参加することが要求されます。授業はすべて英語で行ないませんが、現在の英語力よりも発言意欲の方が問われます。

テキスト

プリント配布予定。(主にミネソタ大学弁論部マニュアルより抜粋します。)

参考文献

必要に応じてその都度紹介します。

評価方法

出席状況 20% , スピーチ発表 80%

受講者への要望

担当講師から学ぼうとするよりも、学生自身のスピーチによって担当講師に学んでもらおうという姿勢でクラスに臨んでください。なお、スピーチ考案の準備に授業時間外での時間が必要となることは言うまでもありません。

年間授業計画

・ 前期

- 1 . Basics of Speech Communication
- 2 . Oral Interpretation
- 3 . Informative Speech

・ 後期

- 1 . Mystery Speech

科目名	スピーチ 2
担当者	A . R . ファルボ

講義の目標

To develop, polish and refine the ability of the more advanced students who want to express their opinions through the use of reading materials, internet & video materials on a variety of current topics in the world today.

students selected by interview

講義概要

Using Edward De Bono's series on thinking and analysis techniques we will make speeches using the above mentioned various techniques to generate 3 minute speeches every week.

テキスト

Prints distributed on a weekly basis

評価方法

Weekly presentations of 3 minute speeches, attendance and class participation.

受講者への要望

Attendance & outside preparation are crucial to succeed in the class.

年間授業計画

- 1 . Class presentation
- 2 . Plus / minus / interesting
- 3 . Speeches using week 2 technique consider all factors
- 4 . Speeches using week 3 technique aims, goals, objectives
- 5 . Speeches using week 4 technique planning
- 6 . Speeches using week 5 technique first important priorities
- 7 . Speeches using week 6 technique directions
- 8 . Speeches using week 7 technique reflections
- 9 . Speeches using week 8 technique appraisals
- 10 . Speeches using week 9 technique review for final exams
- 11 . Final exam speech presentations part one
- 12 . Final exams speech presentations part two
- 13 . Review of first term analytic techniques
- 14 . Critiquing
- 15 . Speeches using week 14 technique evaluation
- 16 . Speeches using week 15 technique closure
- 17 . Speeches using week 16 technique sensitivity

18 . Speeches using week 17 technique control

19 . Speeches using week 18 technique predetermination

20 . Speeches using week 19 technique dissemination

21 . Speeches using week 20 technique understatement

22 . Speeches using week 21 technique review for term exam speeches

23 . Speeches using 2nd term techniques for final exam part one

24 . Final exam part two

科目名	スピーチ 3
担当者	J . J . ダゲン

講義の目標

This is a course that introduces the student step-by-step to speech communication in an informal yet practical way, while at the same time helping the student to develop self-confidence.

講義概要

In this course, students will not only learn the mechanics of speech communication, but also be given ample chances to put these mechanics into use. The styles of speech communication covered will include impromptu, informative and persuasive.

テキスト

P.Dale & J.C.Wolf. Speech Communication Made Simple : A Multicultural Perspective.

評価方法

Grades will be based on in-class participation (especially speech presentations) and therefore attendance is important (If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail), a paper midyear exam, and an oral presentation final exams, time permitting.

年間授業計画

- 1 . Course description and explanation (p.vii~x).
- 2 . Speaking to develop self-confidence (p.1~5).
Presentation of Confidence Building Speech #1 (Self-Introduction).
- 3 . Speaking to develop self-confidence (p.6~11).
Presentation of Confidence Building Speech #2 (A Personal Experience).
- 4 . Speaking to develop self-confidence (p.12~14).
Presentation of Confidence Building Speech #3 (A Meaningful Object).
- 5 . Speaking to develop self-confidence (p.15~16).
Presentation of Confidence Building Speech #4 (A Specific Fear).
- 6 . Delivering Your Message (p.18~24).
- 7 . Delivering Your Message (p.25~30).
- 8 . Thinking on Your Feet (p.149~155).
- 9 . Impromptu Speech Presentations.
- 10 . Impromptu Speech Presentations.
- 11 . Listening (p.50~56).

- 12 . First term consolidation and review.
- 13 . Putting Your Speech Together (p.32~42).
- 14 . Putting Your Speech Together (p.42~47).
- 15 . Speaking to Inform (p.64~75).
- 16 . Speaking to Inform (p.75~86).
- 17 . Informative Speech Presentations.
- 18 . Informative Speech Presentations.
- 19 . Informative Speech Presentations.
- 20 . Speaking to Persuade (p.89~99).
- 21 . Speaking to Persuade (p.99~109).
- 22 . Persuasive Speech Presentations.
- 23 . Persuasive Speech Presentations.
- 24 . Persuasive Speech Presentations.

科目名	ディベート1
担当者	阿部 一

講義の目標

本講座は、基本的な英語力がある人を対象にディベートの基礎から実践までを取り扱うものである。ディベートの予備知識は特に必要としないが、英語の運用能力(4技能)は、ある程度必要とされる。今年度はより実践的で効果的なディベートのクラスとするため、特に negotiation と persuasion のテクニックを大幅に取り入れた授業を行なうので留意されたい。なお、授業は原則として英語で行なわれる。

講義概要

前期は主としてディベートの基礎的な知識や用語などを学習するとともに、英語による発表能力と議論能力の向上に努めるため色々なテーマに基づいての発声や表現の練習を行なう。さらに、論の進め方や肯定・否定のうまいやり方、そしてまとめ方などをモジュラー式に研究・実践してみる。

後期は特に「正式ディベート」を中心に研究・実践してみる。その際、教室内の模擬ディベートとスタジオ撮影ディベートのふたつが行なわれる。その上で撮影ビデオの徹底分析と解説が行なわれる。なお、一度は何らかの形で実際に本格的な「正式ディベート」を行なう予定である。また、前・後期を通してインターネットなどをフルに使った効果的なリサーチのやり方を学んでもらう。

テキスト

未定(最初の授業で指示する)

参考文献

未定(最初の授業で指示する)

評価方法

授業課題としては 授業内のグループ及び個人による実践発表 学期末に規定のテーマに基づいたレポート提出及び口頭発表 発表重視型の授業につき特に出席を重視するであり、その比率は が50%、 が40%、 が10%となっている。

受講者への要望

キチンと出席できそうもない人は絶対に受講登録しないで欲しい。また、最初の授業で英語の発表能力及びリスニング力のテストを行なうので受講希望者は必ず受けること。

年間授業計画

1. 米英語の発表能力+リスニング力のテスト

オリエンテーション：日本人の伝統的なコミュニ

ケーション・スタイルと欧米型ディベートとの違いとそれらの特徴

2. ディベートの基礎と基本用語解説(その1)/基礎発声・表現練習(1)
3. ディベートの基礎と基本用語解説(その2)/基礎発声・表現練習(2)
4. ディベートの基礎と基本用語解説(その3)/基礎発声・表現練習(3)
5. ディベートに役立つ表現やテクニック/表現練習(4)
6. ディベートに役立つ表現やテクニック/表現練習(5)
7. 問題設定/リサーチのやり方(1)
8. 問題設定/リサーチのやり方(2)
9. 身近な話題を材料にディベートを実践してみる。(その1)/立論の進め方の研究
10. 身近な話題を材料にディベートを実践してみる。(その2)/肯定・否定の論の進め方の研究
11. 身近な話題を材料にディベートを実践してみる。(その3)/結論の進め方の研究
12. 実際のディベートを見学してみる/評価や判定についての研究
13. 正式ディベートの研究(その1)
14. 正式ディベートの研究(その2)
15. 正式ディベートの研究(その3)
16. 正式ディベートの研究(その4)
17. より詳しいリサーチのやり方と工夫(1)/交渉・説得術(1)
18. より詳しいリサーチのやり方と工夫(2)/交渉・説得術(2)
19. より詳しいリサーチのやり方と工夫(3)/交渉・説得術(3)
20. 正式ディベートの実践(その1)
21. 正式ディベートの実践(その2)
22. 正式ディベートの実践(その3)
23. 正式ディベートの実践(その4)
24. エピローグ：さらなる発展のために

科目名	ディベート 2
担当者	T . ヒ ル

講義の目標

To help advanced level students develop the skills they need to participate in debate in a modern democratic society.

講義概要

1. Students will study the definitions of basic debate terms and concepts and come to an understanding of how debate works.

2. Students will do research for, and take part in, class debate on topics of national and international significance.

The number of students in this class is limited to 25. Selection will be made at the first class by lottery.

テキスト

D. W. Klopf / T. Kawashima, *The Bases of Debate*, Sanshusha, 1996

評価方法

The course will be assessed on attendance, participation, the writing of a number of papers, and semester tests.

The course is for students who are eager to improve their critical thinking and constructive argumentative skills.

年間授業計画

1 . What debate can do for you; critical thinking skills, open-mindedness, thinking on your feet

2 . What exactly is debate: the basics, the players, the propositions

3 . Actual debate: Part 1

4 . Actual debate: Part 2

5 . Actual debate: Part 3

6 . Speaker strategies: affirmative and negative constructive, negative and affirmative rebuttal

7 . Propositions: what is a proposition? Types of propositions.

8 . Actual debate: Part 1

9 . Actual debate: Part 2

10 . Actual debate: Part 3

11 . Developing research skills

12 . First semester

13 . Research sources, writing briefs, taking notes in

debate

14 . Actual debate: Part 1

15 . Actual debate: Part 2

16 . Actual debate: Part 3

17 . Actual debate: Part 4

18 . The Affirmative position: burden of proof, presumption, the prima facie case

19 . The Negative position: The negative strategy, refutation of stock issues, denying the problem

20 . Actual debate: Part 1

21 . Actual debate: Part 2

22 . Actual debate: Part 3

23 . Course review

24 . Second semester test

科目名	通訳 - 1, 2
担当者	原 口 友 子

講義の目標

英検準 1 級程度以上の学生に、L.L.教室にて逐次通訳・同時通訳のトレーニングを行う。目標は、通訳の基礎的テクニックの養成。

講義概要

この授業は、家とL.L.教室の二段階方式とする。24回の授業だけで、通訳ができるようになるはずがないので、授業中の学習以外に、毎週カセットテープにその教材を録音し、毎日家で練習して仕上げてくること。翌週その教材をきちんと通訳できているか、自分のパフォーマンスを録音し、チェックします。

テキスト

実践ゼミ ウィスパリング同時通訳（南雲堂）

評価方法

通訳のパフォーマンス、定期試験、出席率の総合評価

受講者への要望

一見華やかな通訳も、机の前での地道な勉強（特に語彙力）があつてこそである。努力を惜しまないこと。

年間授業計画

1. オリエンテーション

英語力テスト（筆記とリスニング）で受講者を決定する。

2～4. shadowing の訓練

5～7. 同時通訳に不可欠な頭ごなし訳のテクニック

8～11. リセプション通訳のトレーニング

12. 前期定期試験

13～15. ビジネス・プレゼンテーション通訳のトレーニング

16～17. サイト・トランスレーションの訓練

18～23. ウィスパリング同時通訳

24. 後期定期試験

科目名	ビジネス英語 - 1
担当者	海老沢 達 郎

講義の目標

大学を卒業しても簡単な英文レターも書けないのが現状であるので、本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、国際ビジネスに必要な基本的なビジネスレターの書き方を指導する。この科目は受講上限人数が決められていますので、人数オーバーの場合には、第1回目の授業で教室にて抽選（55名）で選考を行います。

講義概要

貿易立国日本にとっては異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立、履行、求償、解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。又、Business English を、国際語である英語を使用して、ビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方のポイントを例を上げて説明・指導する。

テキスト

Tatsuo Ebisawa : *An Introduction to Business Writing*

参考文献

William C. Himstreet :

"Business Communications "

Richard C. Huseman :

"Business Communication "

神田善弘「実践貿易実務」

日本貿易実務検定協会「貿易実務ハンドブック」

評価方法

評価は前後期の試験と授業への貢献度によって決定する。

受講者への要望

授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。

積極的な学生諸君の受講を希望する。

年間授業計画

1. 第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行う。
2. 第2回目の授業では「Business English」を学ぶ

にあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する。

3. 第3回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。
4. 第4回目の授業では練習問題1を第1回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。
5. 第5回目の授業では練習問題1の解答をし、「取引の申し込み」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
6. 第6回目の授業では「取引の申し込み（後半）と取引の申し込みに対する応答」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
7. 第7回目の授業では「取引の申し込みに対する応答（後半）」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
8. 第8回目の授業では「引合い」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
9. 第9回目の授業では「引合い（後半）」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
10. 第10回目の授業では練習問題（2）を第2回レポートとし、「引合いに対する応答」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
11. 第11回目の授業では「オファー」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
12. 第12回目の授業では前期授業のまとめを行う。
13. 第13回目の授業では前期試験問題の返却・解答と練習問題2の解答と諸注意などを行う。
14. 第14回目の授業では「オファー（後半）とオファーに対する応答」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
15. 第15回目の授業では「とオファーに対する応答（後半）と海上保険証券」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
16. 第16回目の授業では「信用状」について講義し、練習問題3を第3回レポートとする。「効果的なビジネスレターの書き方」
17. 第17回目の授業では「信用状（後半）」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
18. 第18回目の授業では練習問題3の解答と諸注意などを行う。更に「積出しに関する通信」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
19. 第19回目の授業では「積出しに関する通信（後半）」について講義する。「効果的なビジネスレター

の書き方」

20. 第20回目の授業では「クレームと問題の解決」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
21. 第21回目の授業では「クレームと問題の解決(後半)」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
22. 第22回目の授業では「英語を使用する際の商談」について、ビデオを使用し講義する。
23. 第23回目の授業では「英文契約書」について講義する。
24. 第24回目の授業では後期授業のまとめを行う。

科目名	ビジネス英語 - 2
担当者	海老沢 達 郎

講義の目標

Business English とは何も貿易通信文のみを指すものではない。売買契約書、保険証券、船荷証券等の関連文書の書類や貿易実務に現れる英語、さらには法律や経済等も含まれてくる。従って、Business English を、国際語である英語を使用してビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、本講義では国際ビジネスに必要な基本的な事柄である「経済英語」と「やさしい国際経済学」を講義し、指導する。

講義概要

通信技術が発達し、経済がボーダレス化している今日において、英字新聞のビジネス欄を読み、国際経済情勢を理解するという能力も Business English にとって大変重要なものとなってきている。従って、本講義では「英字新聞のビジネス欄の読み方」をテーマにして一年間授業を進めていきたい。英文経済記事の読み方を指導すると同時に、「経済用語の解説」と「国際経済学」を講義する。なお、積極的な学生諸君の受講を希望するが、経済についての予備知識は必要としない。また、ビジネス英語 - 1をあわせて履修すれば、ビジネス・コミュニケーションを体系的に学習することになる。

テキスト

海老沢達郎『英字新聞の読み方ハンドブック』他。

参考文献

教室で指示する。

評価方法

評価は前後期の試験と授業への参加度によって決定する。

受講者への要望

授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。積極的な学生諸君の受講を希望する。

年間授業計画

1. 第 1 回目の授業では 1 年間の講義概要の説明を行う。
2. 第 2 回目の授業では「景気の上昇と景気の後退」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
3. 第 3 回目の授業では「物価と経済指標」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。

4. 第 4 回目の授業では「消費と市場」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
5. 第 5 回目の授業では「株」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
6. 第 6 回目の授業では「貿易と関税」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
7. 第 7 回目の授業では「取引・交渉と貿易・禁止」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
8. 第 8 回目の授業では「貿易・報復と貿易摩擦」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
9. 第 9 回目の授業では「銀行と通貨」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
10. 第 10 回目の授業では「金利」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
11. 第 11 回目の授業では「外国為替」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
12. 第 12 回目の授業では前期授業のまとめを行う。
13. 第 13 回目の授業では前期試験問題の返却・解答と諸注意などを行う。
14. 第 14 回目の授業では「投資と海外資金援助」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
15. 第 15 回目の授業では「EU 通貨統合」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
16. 第 16 回目の授業では「累積債務」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
17. 第 17 回目の授業では「インサイダー取引」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
18. 第 18 回目の授業では「雇用と人事」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
19. 第 19 回目の授業では「M & A」1 について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
20. 第 20 回目の授業では「M & A」2 について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
21. 第 21 回目の授業では英文ビジネスレターの作成をレポート提出とし、これについて詳しく説明する。
22. 第 22 回目の授業ではビデオ使用（内容については第 1 回の授業で説明）。
23. 第 23 回目の授業では「ビデオ使用（内容については第 1 回の授業で説明）。
24. 第 24 回目の授業では後期授業のまとめを行う。

科目名	ビジネス英語 - 3
担当者	杉山晴信

講義の目標

時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を習得することがねらいです。日本商工会議所主催の商業英語検定試験 B クラスに合格できるレベルの実力（読解力・作文力・語彙力・実務知識）を養成することを具体的な目標とします。なお、私の担当する「ビジネス英語 - 4」とは内容がまったく異なりますので、注意して下さい。

受講上限人数（55名）を超えた場合、第1回目の授業で適宜選考を行います。

講義概要

下記テキストの単元ごとに、当該単元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順および通信文の"Skeleton Plan"について平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名し、各単元のモデルレターを商用文としてふさわしい日本語に翻訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、1年を通じて、毎月の初回授業時に、下記テキストを出題範囲とする Vocabulary Check（語彙力診断テスト）を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。

テキスト

小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」(北星堂、1988)

小池直己・杉山晴信「商業英語検定試験にでる英単語」(南雲堂、1987)

参考文献

藤田仁太郎編、羽田三郎改訂「英和貿易産業辞典」(研究社、1987)

日本商工会議所「商業英語検定試験問題集 A・B編」(日本商工出版、各年)

長野・秋山・岡本「商業英語検定試験」(南雲堂、1984)

石田貞夫「貿易の実務」(日経文庫、1965)

石田貞夫監修「ビジネス英語で学ぶ貿易取引」(学文社、1997)

など

評価方法

出席状況、授業貢献度、Vocabulary Check の累計得点といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。

受講者への要望

コンスタントに出席すること、十分な予習と復習をすること、つねに語彙力増強に努めることを履修の条件とします。

年間授業計画

1. 1年間の授業計画を説明し、ビジネス英語の意義と概念について講義します。

(テキスト：第1部 p.p.2~3、配布プリント)

2. ビジネス通信文の構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面について講義します。

(テキスト：第1部 p.p.4~15)

3. ビジネス通信文の文体の特徴について講義します。

(テキスト：第1部 p.p.16~18)

4. 第1回 Vocabulary Check を実施するとともに、「取引先の発見」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit1、p.p.20~22)

5. 「取引の申込み」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit2、p.p.23~25)

6. 「取引の申込み」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit3、p.p.26~28)

7. 「信用照会」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit4、p.p.29~31)

8. 第2回 Vocabulary Check を実施するとともに、「引合い」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit5、p.p.32~34)

9. 「引合い」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit6、p.p.35~37)

10. 「引合いに対する返事」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit7、p.p.38~40)

11. 「引合いに対する返事」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit8、p.p.41~43)

12. 第3回 Vocabulary Check を実施するとともに、「オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit9、p.p.44~46)

13. 「カウンター・オファー」をテーマとする通信文

の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit10、 p.p.47～49)

14 第4回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「注文」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit11、 p.p.50～52)

15 「注文の受諾」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit12、 p.p.53～55)

16 「注文のことわり」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit13、 p.p.56～58)

17 「成約」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit14、 p.p.59～61)

18 第5回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「信用状督促」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit15、 p.p.62～64)

19 「船積通知」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit16、 p.p.65～67)

20 「船積遅延と信用状訂正」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit17、 p.p.68～70)

21 「クレーム」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit18、 p.p.71～73)

22 第6回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「クレーム」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit19、 p.p.74～76)

23 「クレーム調整」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。

(テキスト：第2部 Unit20、 p.p.77～79)

24 テキストで直接取り上げていない Courtesy Letters の代表例として、「人物照会状」と「人物推薦状」の読解と作成の訓練を行います。(配布プリント)

科目名	ビジネス英語 - 4
担当者	杉山晴信

講義の目標

ビジネス通信文 (Business Correspondence) を中心に営まれるビジネス・コミュニケーションの果たす役割は、伝達の機能 (function to inform) と説得の機能 (function to persuade) に大別できます。この授業では、2つの機能においてビジネス通信文を最大限に効果あらしめるための文章戦略 (writing strategies) について、英語学・言語学・心理学・統計学等の関連領域から学際的な調査・研究を行います。なお、受講上限人数 (55名) を超えた場合は、第1回目の授業で適宜選考を行います。

講義概要

当方の用意するプリント教材に基づいて講義を行った後、履修者をいくつかの班に分け、グループワークによって共通の課題を解決していくという形をとります。原則として、1つのテーマ (セッション) につき、講義2回とグループワーク1回の計3時間で完結するものとします。全員参加の原理によって授業が行われますので、履修者は積極的に自分の意見を開示するとともに他人の発言を傾聴することが求められます。初回の授業でより詳しく説明しますので、履修希望者は必ず出席して下さい。

テキスト

配布プリント

参考文献

- 則定隆男「ビジネス英語を学ぶ・考える」(英宝社、1990)
- 中村巳喜人「ビジネス・コミュニケーション論」(同文館、1978)
- 安本美典「文章心理学入門」(誠信書房、1965)
- 安本美典「説得の文章技術」(講談社、1983)
- 北尾S.キャスリーン・北尾謙治「ライティング・ストラテジー」(郁文堂、1996)

評価方法

出席状況、授業およびグループワークへの貢献度、課題提出状況といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験 (またはレポート) の結果を加味して決定します。

受講者への要望

直接的な参加が最もウェイトの大きな評価対象となりますので、コンスタントな出席と積極的な意見の開示を強く要望します。

年間授業計画

- 1年間の授業計画を説明し、ビジネス・コミュニケーションの概念について講義します。
- ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、意味論的な"ambiguity"と"vagueness"の危険性を摘示し、それらに対する対処法を検討します。
- 同上
- 上記のテーマについてグループワークを行います。
- ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、意味論的な"hyponym"と"overlapping"について実例を用いて学習します。
- 同上
- 上記のテーマについてグループワークを行います。
- ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、類義語 (synonyms) の使用に伴う危険性を法制度、商習慣、文化的事情などと関連づけて考察します。
- 同上
- 上記のテーマについてグループワークを行います。
- 前期の授業を総括し、ビジネス通信文を伝達の機能の面からレベルアップし、正確な情報伝達を実現するための文章戦略を導出します。
- 後期の授業の頭出しとして、ビジネス通信文を説得の機能の面からレベルアップし、所期の目的を達成するための文章戦略を概観します。
- ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、"Readability"の測定法と適切な読者設定 (audience identification) のあり方について詳しく講義します。
- 同上
- 上記のテーマについてグループワークを行います。
- ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、"You-Attitude"の基本原則を実現するための種々のライティング技法について検討します。
- 同上
- 上記のテーマについてグループワークを行います。
- ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、各種のメッセージ構成法 (organizational patterns) を紹介するとともに、適用事例について検討します。
- 同上
- 上記のテーマについてグループワークを行います。
- ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、メッセージの配列 (sequence) と印象形成 (impression formation) の効果の関係について検討します。
- 同上
- 上記のテーマについてグループワークを行います。

科目名	ビジネス英語 - 5, 6
担当者	信 達 郎

講義の目標

ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力をのばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取りあげる科目である。ビジネスと言っても、いろいろな業種があり、また、オフィス環境も経理から営業、それに秘書業務まで様々であるが、とにかくビジネス環境に即した実際的な授業にしていきたい。この科目は受講上限人数が 55 名と決められているため、第 1 回目の授業で簡単なテストで選考を行うことがある。

講義概要

基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 部構成で、参加型の授業である。また、発表や黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級、日本商工会議所主催の商業英語検定の B クラス受験可能程度を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。尚、後期には発表形式の演習も予定している。

テキスト

『マルチトピックのビジネス英語』信、井著、南雲堂フェニックス

『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』信達郎編著、南雲堂フェニックス

参考文献

授業を通じ、適宜指示する。

評価方法

受講姿勢 50%、ペーパーテスト 50%

受講者への要望

成績にこだわるのではなく、実力を少しでも上げることに興味を持つ学生に参加してもらいたい。受講態度が悪い者は、退場を命ずる。当然のことながら、

私語厳禁。

年間授業計画

以下の内容はあくまでも、めやすであり授業の進行により異なる。

1. ビジネス英語の特徴
2. プリント（英文ビジネスコラム）
3. 取引概略
4. プリント
5. 取引概略
6. プリント
7. 引合（inquiry）
8. プリント
9. オファー（offer）
10. プリント
11. オファー
12. プリント
13. 契約（contract）
14. プリント
15. 契約
16. プリント
17. クレーム（claim）
18. プリント
19. クレーム
20. プリント
21. コンピューター英語
22. プリント
23. コンピューター英語
24. プリント

科目名	ビジネス英語 - 7
担当者	山本孝夫

講義の目標

ボーダーレスの現代ではビジネスの標準語は英語です。国際的な舞台や現代のビジネスの世界で活躍することをめざす人々は「国際ビジネスの標準語」と「ビジネス・契約知識」をマスターするのがその資格と考えてみてはどうでしょうか。クラスでは、具体的なケースをとりあげて、自由な意見交換を通じて、国際ビジネスに不可欠なビジネス英語、契約英語、取引契約の実際を学びます。国際売買契約、ライセンス、エンターテインメント、映画制作輸入、ミュージカル制作・上演契約、外資との雇用、Resume（英文履歴書）...ビジネスの基礎・契約・英語を修得します。毎回、新しく楽しいゲームに挑戦する気持できて下さい。レベルは『国際実用』レベルです。2001年1月刊の「英文ビジネス契約書大辞典」を使って講義を行います。

講義概要

「セリーヌ・ディオ、マライヤ・キャリーをキャンパスに呼ぶとしたら、どんな契約を作りますか？」「浜崎あゆみなら？」具体的に身近なビジネス・ケース、仮想ケース、判例をとりあげて学びます。CIF, FOB など「国際貿易条件」、「国際取引の特色とリスク」、「合併事業（Joint Venture）」「音楽・ミュージカル・映画の制作・配給・放送・ビデオグラム化」、「マクドナルドなどフランチャイズ契約」、「Virgin, Body Shop などベンチャー」をミシガン大学 Law School、ロンドン、サンフランシスコ、東京（三井物産）で国際取引、プロジェクト、訴訟、ライセンス取引に携わってきた経験をもとに、ケースメソッドと国際契約解説のために最近執筆したテキストで学んでいきます。

テキスト

1. 「英文ビジネス契約書大辞典」(山本孝夫、日本経済新聞社、2001.1)
2. 「英文契約書の書き方」(山本孝夫、日経文庫、日本経済新聞社、3. 「知的財産・著作権のライセンス契約入門」(山本孝夫、三省堂)

参考文献

1. 「国際取引法」(松枝、三省堂)
2. 「International Business Transactions」(West Publishing, コースブック版)
3. 「国際取引・知的財産法の学び方～梁山泊としてのゼミナール」(山本孝夫「国際商事法務」94.1 から 98.8 まで 56 回連載)
4. 「貿易取引」(新堀聡、日本経済新聞社)
5. 「英文ビジネスレター文

例大辞典(田久保、橋本、日本経済新聞社) 6. 「ベンチャーマネジメントの変革」(山本孝夫共編著、日本経済新聞社) 7. 「ビジネス英文手紙の書き方」(大田原、日経文庫) 「国際取引法」(松枝、三省堂)

評価方法

前後期 2 回のレポートとクラスへの参加・貢献・プレゼンテーションを重視します。これ迄 8 年間は、竹田ゼミ、梶山ゼミ、独語学科、仏語学科はじめ受講生が意欲的だったので、レポートとしてきました。新年度も、前期のレポートを自由テーマとし、9 月末が期限です。レポートは 3 千字以上とします。

受講者への要望

私は授業は受講生と教師の 1 対 1 の意見交換により、共同で作りあげて行くものだと考えています。毎回授業に積極的に参加し、真剣に国際契約を学ぼうとする方のみ、受講(登録)をみとめます。

年間授業計画

1. 開講にあたり 1 年間の目標とすすめ方、基本参考書、サブリーディング、レポートとこれ迄の例、英文契約、ビジネスの基本、国際取引の実際...を紹介します。
2. マライヤ・キャリー、セリーヌ・ディオをキャンパスに呼ぶとしたら、どんな契約書を作りますか？浜崎あゆみならいかがですか。具体的なケースで、国際取引の特色とリスクを取り上げます。
3. 具体的に身近なケースをもとに「国際取引の種類」を学びます。94 年は名古屋空港エアバス事故、95 年はロック・ミュージカル公演、96 年は「VIRGIN」(R・ブランソン)、97 年は「マックスマラ、ベルサーチ」、98 年は「タイタニック」を取り上げました。
4. ギリシャの Alpha 社がニューヨークの Santa Claus に Toy を注文します。Alpha 社の Enquiry、発注書(Purchase Order)を読み、価格の決め方、船荷証券(Bill of Lading)を学びます。
5. Santa Claus (第 2 回) 国際売買のしくみ、FOB、CIF 条件、インコタームズ、信用状、代金決済を学びます。[「英文契約書の書き方」pp.1 - 112 ; 「コースブック」pp.35 - 59 ; 「英文ビジネス契約書大辞典」]
6. カロラインは誰のもの？(第 1 回)...伊ジェノバのヨット見本市で出展されていた美しいヨットを日本のパスポート・ショッピング社が 230 万ドルで購入します。無事引渡と日本での所有権登録も完了します。
7. カロラインは誰のもの？(第 2 回)...そこに、先買ったというペンシルバニアの米企業が現れ、ヨ

- ット（カロライン号）の引渡を請求。松山で訴訟を提起します。日本企業に売る前に英国に売却済みでした。アメリカの U.C.C も取り上げます。Warranties とは？
8. カロライン号二重売買事件は、「梁山泊 36 回、96.12」参照。イタリアのパジリボ社は、英パルシファル社に販売し、更にユニバール社に転売されていました。修理のために、預かっていたのです。カロライン号は誰のもの？スエズ運河封鎖（1956）のユージニア号事件も学びます。
9. 国際的取引には不誠実な人々も登場します。サッカーのワールドカップのチケット事件はどうすれば防ぐことができましたか？相手の権限をどう確認しますか？
10. これまでの授業をふり返り、いただいた質問に答え、意見交換します。
- 10 / 11 回には、「英文履歴書」「国際(外資)雇用」「前期レポートのテーマとヒント」「アメリカの UCC と訴訟」を取り上げます。
13. 「後期の重点テーマと指針」を紹介します。あなたの夏休みの成果・感想をきき、私のすごし方をお話します。レポートの提出を受けます。前期の質問にもお答えします。
14. ビジネスに関わる基本的な用語、契約英語を紹介します。英文契約の基本条件、基本的な表現方法(will、shall、may、時制、期間、数字)を紹介します。(「英文ビジネス契約書大辞典」)
15. 「国際技術移転・知的財産ライセンス」の基本を紹介します。著作権、特許権、トレードシークレット、ブランド等を取り上げます。(「知的財産・著作権ライセンス入門」)
16. 「映画・ミュージカル・音楽」...国際的なエンターテインメント・ビジネスの実際を 3 回にわたり、とりあげます。ビジネス知識と契約条件、判例を学びます。
17. Feelings 事件、裏窓事件、シャーロック・ホームズ事件、Bee Gees、...映画、音楽は知的財産紛争訴訟に満ちています。Piracy とは？
18. 映画の輸入・配給とミュージカルの契約を学びます。アーティスト達を呼ぶときどんな条件まで決めますか。AFMA 映画輸出約款を知っていますか？
19. マクドナルドのフランチャイズ契約を見たことがありますか？キャラクター・マーチャンダイジング契約を学びます。
20. 海外への進出と合併事業（1）...販売代理店と支店、現地法人・合併会社はどうちがいますか？ジョイント・ベンチャーではどのような取り決めをしますか？（「英文ビジネス契約書大辞典」）
21. 海外への進出と合併事業（2）...合併事業、合併契約のポイントは何か？合併と合併、ジョイント・ベンチャーとベンチャーはどう異なりますか？（「英文ビジネス契約書大辞典」）
22. 「国際取引紛争と解決」...訴訟と仲裁はそれぞれどんな長所がありますか？最近のロシアなど経済混乱に対し、どう対応すべきだと思いますか？
23. P / L、Anti-trust、Tax、環境問題を取り上げます。開発と環境問題の対立について、あなたがリーダーなら、どうしますか？
24. 自由な質疑応答の日とします。

科目名	ビジネス英語
担当者	杉山晴信

講義の目標

日本商工会議所主催の商業英語検定試験 A・B クラスの実務部門に合格できるレベルに目標を設定して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易取引の全体にわたって万遍なく講義するつもりですので、貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、通関士国家試験を目指す人などに極めて有益な情報を提供できるものと自負しています。なお、受講上限人数（55名）を超えた場合には、第 1 回目の授業で適宜選考を行います。

講義概要

前期は貿易取引の流れを、主に輸出者の視点から、時系列的に 6 つのステージに区分してマクロ的に鳥瞰します。後期はミクロ的に、貿易形態、信用調査、オファー、一般取引条件、インボイス、船荷証券、信用状、海上保険といった専門事項（technicalities）について講義します。本講義で使用する下記のテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、講義はテキストの内容を補助プリントを用いて敷衍する形で進めます。また、教師側からの一方的な情報伝達に偏することのないよう配慮し、履修者にも頻繁に発言や説明を求めるつもりですので、積極的な授業参加を強く要望いたします。

テキスト

伊藤克己・太田正孝・稲津一芳・W.O' Connor
『現代商業英語読本』（英潮社、1988）

配布プリント

参考文献

浜谷源蔵『最新貿易実務（増補二版）』（同文館、1995）
田中・中川・中谷『国際売買契約ハンドブック』（有斐閣、1986）
粕谷慶治・山田晃久『国際貿易論』（学文社、1990）
桐谷芳和『貿易取引と信用状』（経済法例研究会、1987）
杉若雄次『貿易取引と貿易金融』（経済法例研究会、1986）

など

評価方法

出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。

受講者への要望

コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる 4 年生は注意して下さい。

年間授業計画

1. 1 年間の講義計画を説明するとともに、貿易という営みが国際社会に果たす役割について考えます。（テキスト：p.p.2~3）
2. 貿易実務の遂行手順を輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分し、その各々について概説します。（テキスト：p.p.14-22）
3. 貿易マーケティングの段階について、市場調査（Market Research）を中心に講義します。（テキスト：配布プリント）
4. 取引関係創設の段階のうち、取引先の選定、取引の申込み、引合いまでを取り上げて講義します。（テキスト：p.p.42~53、配布プリント）
5. 取引関係創設の段階のうち、信用照会（Credit Inquiry）について詳細に講義します。（テキスト：p.p.54~60、配布プリント）
6. 貿易取引の成約段階のうち、一般取引条件（General Terms & Conditions）で取り決めるべき諸条項を詳細に検討します。（テキスト：p.p.77~80、配布プリント）
7. 貿易取引の成約段階のうち、オファーから受注にいたるまでの過程を講義します。（テキスト：p.p.61~76、配布プリント）
8. 貿易取引の履行段階のうち、約定品の調達から船積（Shipment）の手配までの過程を講義します。（テキスト：p.p.81~88、配布プリント）
9. 貿易取引の履行段階のうち、為替予約（Forward Exchange Contract）、海上保険（Marine Insurance）の付保、輸出通関までを取り上げて講義します。（テキスト：p.p.94~97、配布プリント）
10. 貿易決済の段階のうち、船積書類（Shipping Documents）の整備から荷為替手形（Documentary Bill）の取組までの過程を講義します。（テキスト：p.p.89~93、配布プリント）
11. 貿易決済の段階における各種の決済方法の特色を考察し、さらに為替リスクの回避を検討します。（テキスト：配布プリント）
12. 貿易クレームおよびクレーム調整の段階につき、特に国際商事紛争の解決手段としての仲裁

(Arbitration) をテーマに講義します。

(テキスト : p.p.98~105、配布プリント)

13. 貿易の主体、取引の損益性、契約の自主性などの観点から種々の貿易形態について講義し、各々の特色や長所・短所を比較検討します。

(テキスト : p.p.4~6、配布プリント)

14. 信用調査の目的・方法、調査項目などについて講義し、調査依頼状の書き方や調査報告書の読み方を実例を用いて学びます。(テキスト : 配布プリント)

15. 各種オファーの特色を講義し、オファーと承諾をめぐる法的な諸問題について学習します。

(テキスト : 配布プリント)

16. いわゆるインコタームズ (Incoterms) に規定された定型貿易条件について講義し、実例に基づき輸出価格の積算訓練を行います。

(テキスト : 配布プリント)

17. 輸出通関および船積の手続一般について、在来船の場合とコンテナ船の場合とに区分して、各々詳細に講義します。(テキスト : 配布プリント)

18. インボイス (Invoice) について講義し、各種インボイスの内容と目的、記載事項などを学習します。

(テキスト : 巻末付録、配布プリント)

19. 船荷証券 (Bill of Lading) について講義し、各種船荷証券の定義、法的性質、記載事項などを学習します。(テキスト : 巻末付録、配布プリント)

20. インボイスと船荷証券以外の船積み書類 (Shipping Documents) について講義し、各々の内容と目的を学習します。(テキスト : 巻末付録、配布プリント)

21. 海上保険について講義し、各保険条件の填補範囲と免責事項を学習するとともに、実例に基づいて保険料の算出訓練を行います。

(テキスト : 巻末付録、配布プリント)

22. 荷為替信用状 (Documentary L/C) について講義し、信用状の意義、種類、当事者、信用状決済の長所・短所などを学習します。

(テキスト : 巻末付録、配布プリント)

23. 貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して前期の授業を総復習します。

(テキスト : p.p.19~22)

24. 後期の授業を総復習するとともに、疑問点や不明な点につき質疑応答を行う予定です。

科目名	時事英語 - 1,2
担当者	新井 受門

講義の目標

この科目は受講上限人数が決まっていますので、第1回目の授業において抽選により選考を行いません。クラスの数日前に録音した放送英語（CNN，BBC，NBC，CBS，ABC）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。

講義概要

学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその部分を把握していくことにポイントを置く。

テキスト

テキストは使用せず、受講生は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。

参考文献

例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書が良い。（必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。）

評価方法

定期試験、出席状況を含む平常点

受講者への要望

予習により聞きづらい部分を確認しておくこと。

年間授業計画

1. 授業形式についての説明
2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション
3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
6. 聞き取りにくい語のまとめ
7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
12. 聞き取りにくい語のまとめ
13. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション
14. 学生によるディクテーション発表とそのチェック

15. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
16. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
17. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
18. 問題となる語句のまとめ
19. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
20. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
21. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
22. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
23. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
24. 問題点のまとめ

科目名	時事英語 - 3
担当者	金子節也

講義の目標

日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家への英語インタビューを読み、かつ聞きながら、日本の今後の進路、他国との協調を考える。英字新聞などの最新記事は言うに及ばず、CNN などをはじめ、テレビ放送の VTR、インターネットをおおいに活用したい。

講義概要

主テキストのインタビュー集（音声あり）を中心に、日本をとりまく諸情勢を聞きかつ読みながら理解し考察する。必須語い・表現に関しては、自ら運用できるよう努力する。

その後の情勢の展開については、最新の新聞記事、雑誌、TV、インターネットなどにより補足してゆく。

テキスト

金子節也著；I Too, Am a Bit of a Workaholic, but ...こびあん書房、1988 ほか（ほかに TV 放送などからサブ教材使用予定）

参考文献

金子節也著『ニッポン・ウォッチング』朝日出版社、1991、他）

評価方法

出席状況、ふだんの授業へのコミットメント、テスト成績の3つを主な評価基準とする。

受講者への要望

この科目は受講制限人数が 55 名です。これを上回る希望者の場合は、第一回目の授業において抽選を行います。

年間授業計画

1. キーワードによるオリエンテーション。政治、経済、文化...幅広くキーワードを使って、いまの日本と世界の関係を浮きぼりにする。
2. 日米関係 その1、テキストの2, "The Media Plays Up American Pressure"の最初の3分の1。テキスト pp.11-14
3. 日米関係 その2、テキスト pp.15-18 その他最新英字紙等による補足。アメリカ口語表現の特徴などにもふれる。
4. 日米関係 その3、"A Caution to the U.S.-Japan Relationship" (pp.19-22) その他英字紙。
5. 日米関係 その4、テキスト pp.23-27 アメリカ人の日本観を最新資料にて補足。

6. 日本関係 その5、テキストの4 "How to Influence Big Business and Go Win-Win" (pp.29-33)

7. 日米関係 その6、テキスト pp.34-36 アメリカン・ドリームについて、成功者の信念について学ぶ。

最新ビジネス用語にもふれる

8. 日英関係 その1、テキスト"I Too, Am a Bit of a Workaholic, but..." (pp.37-41) 現代イギリス事情にもふれる。

9. 日英関係 その2、テキスト pp.38-46 日本がまだ多くのことを英国から学ぶべきこと、等を認識する。英米語のちがいにふれる。

10. ハイテク技術と雇用 その1、テキスト pp.55-59 産業ロボットの導入と労使関係。

11. ハイテク技術と雇用その2、テキスト pp.60-64

12. イギリス事情 その1、テキスト"The Unions Were Just Too Greedy" (pp.47-51) 日英生産性比較。

13. イギリス事情 その2、テキスト pp. 52-55

14. ジャーナリズム研究その1、テキスト"I Must Have a Little Japanese Blood" (pp.1-5) アメリカのジャーナリズムについて。

15. ジャーナリズム研究 その2、テキスト pp. 6-8 検閲制度について。言論・出版の自由について。

16. ジャーナリズム研究 その3、テキスト pp. 8-18 編集者の心がけについて。話者の英語の特色にふれる。

17. アジア その1、テキスト"Japan as a Big Brother"の"Help US Stand on Our Own Two Feet (pp.65-67)

18. アジア その2、テキスト"The Japanese Rather Look West" (pp.68-70)

19. アジア その3、テキスト"Do More for Our Spiritual Enrichment" (pp.71-73)

20. ジャパン・バッシング その1、テキスト Japan Unveiled."Japan, Not Russia, Main Threat"(pp.2-4)

21. ジャパン・バッシング その2、テキスト"Bashing Japan Isn't the Answer"(pp.6-8)

22. キャリア・ウーマン その1、テキスト"OL - She's Indispensable"(pp.33-34)

23. キャリア・ウーマン その2、テキスト"Japan's New Breed of Office Ladies"(pp.36-41)

24. 高齢化社会の到来。テキスト"Japan's Aging Population - A Guinea Pig"(pp.72-76)

備考 テキスト Japan Unveiled は購入の必要はない。ほとんど毎時間、新聞等からの補足教材プリント配布・使用。

科目名	時事英語 - 4,5
担当者	工藤政司

講義の目標

世界の情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。時事英語 - 4、及び - 5では英語を通じて海外事情、海外から見た国内事情に通暁し、国際人としての教育を身につけることを目指す。受講者は外国の新聞、雑誌に取り上げられた記事を通して視野が広がったことを実感するだろう。

講義概要

英文を正しく理解することに重点を置いた授業を行なう。

テキスト

プリント使用。

参考文献

Time, Newsweek, New York Times Weekly Review, その他内外の英字新聞雑誌。

評価方法

前後期の試験各1回の成績、及び出席を含む平常点をもって評価する。

受講者への要望

時事英語は時々刻々と変化する内外事情を扱うので講義予定の順序及び内容に変更が生じることがある。予習が必要である。

年間授業計画

1. 授業の進め方についてのオリエンテーション
2. 海外から見た日本の政治
3. 同上
4. アメリカの政治
5. 同上
6. アメリカの社会問題
7. 同上
8. イギリスの政治と経済
9. 同上
10. 科学の現況
11. 同上
12. 中国問題、その発展と問題点
13. 同上
14. 環太平洋地域の問題
15. 工業の発展と世界の環境問題
16. 同上
17. イギリスの政治と経済
18. EU問題

19. EU問題
20. ドイツとフランス
21. ロシアの現況
22. New York Times Op. Ed
23. 同上継続講義
24. Time の Cover Story を読む

科目名	時事英語 - 6
担当者	佐藤 真千子

講義の目標

本講義では、英語を介して現代の国際問題に関する意識を高め、理解力を養うことを目的とします。そのためまず、ニュース記事で頻用される英語の基礎的語句や政治・経済の専門用語を習得し、外交や政治問題について書かれた英文に慣れ親しむこと。また、ニュースの背景や関連事項を学ぶことで記事内容についての理解を深め、内容を正しく把握できるようにすることを目指します。

講義概要

本講義では、国内外の英字新聞、雑誌、インターネットの記事や論説を教材として使用します。特に、現代国際社会の外交問題を重点的にとりあげ、その現状と動向に注目していきます。流動的なニュースを、歴史的資料や関連問題とあわせてとらえながら、進めていきます。

授業形態は、学生の皆さんの発表を中心とします。

テキスト

プリント配布

参考文献

適宜、紹介します。

評価方法

レポート、試験、授業参加度を総合的に評価します。

受講者への要望

授業には必ず予習をしておき、日頃から国際問題に関心を持つよう心掛けて下さい。受講上限人数を超える場合は、初回授業で選考を行いません。

年間授業計画

1. ガイダンス、テスト
2. ~24. 適宜、時事問題を取り上げます。

科目名	時事英語 - 7
担当者	W . J . ベンフィールド

講義の目標

To develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs .

講義概要

We will look at eight major topics over the course of the year, devoting three classes to each one. Initially we will analyze each topic through the medium of articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, analyze the language of news reporting and there will be regular quizzes on current events. .

テキスト

Print and video .

評価方法

Assessment will be on the basis of attendance performance and participation in class activities . There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups .

年間授業計画

- 1 . Course outline; student selection .
- 2 . Review of main news stories of recent months
- 3 . Topic 1
- 4 . Topic 1 (contd .)
- 5 . Topic 1 (contd .)
- 6 . Topic 2
- 7 . Topic 2 (contd .)
- 8 . Topic 2 (contd .)
- 9 . Topic 3
- 10 . Topic 3 (contd .)
- 11 . Topic 3 (contd .)
- 12 . Review of term's work
- 13 . Topic 4
- 14 . Topic 4 (contd .)
- 15 . Topic 4 (contd .)
- 16 . Topic 5
- 17 . Topic 5 (contd .)
- 18 . Topic 5 (contd .)

- 19 . Topic 6
- 20 . Topic 6 (contd .)
- 21 . Topic 6 (contd .)
- 22 . Topic 7
- 23 . Topic 7 (contd .)
- 24 . Review of term's work

科目名	時事英語 - 1
担当者	新井 受門

講義の目標

この科目は受講上限人数が決まっていますので、第1回目の授業において抽選により選考を行いません。クラスの数日前に録音した放送英語（CNN，BBC，NBC，CBS，ABC）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。

講義概要

学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその部分を把握していくことにポイントを置く。

テキスト

テキストは使用せず、受講生は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。

参考文献

例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書が良い。（必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。）

評価方法

定期試験、出席状況を含む平常点

受講者への要望

予習により聞きづらい部分を確認しておくこと。

年間授業計画

1. 授業形式についての説明
2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション
3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
6. 聞き取りにくい語のまとめ
7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
12. 聞き取りにくい語のまとめ
13. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション
14. 学生によるディクテーション発表とそのチェック

15. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
16. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
17. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
18. 問題となる語句のまとめ
19. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
20. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
21. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
22. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
教材の録音
23. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
24. 問題点のまとめ

科目名	時事英語 - 2
担当者	佐藤真千子

講義の目標

本講義では、英語を介してアメリカの政治・外交に関する基礎知識および専門用語を習得し、その関心と理解を深めることを主な狙いとし、その中で英語の語彙と読解力の向上を目指します。

講義概要

近年、アメリカで議論されてきた政治や外交をめぐる具体的な問題を取り上げ、それぞれの歴史的背景と論争内容を整理する作業を通して、問題の動向を概観します。その上で、政策として考えうるいくつかの選択肢について比較検討します。

必要に応じて、使用テキストに紹介されている参考資料や問題記事を配布します。授業形態は、学生の皆さんによる発表を中心とし、登録人数に応じてグループ発表を取り入れたいと思います。

テキスト

Alan Shank and Edward Drachman, *You Decide! Controversial Cases in American Politics*, Lanham: Rowman & Littlefield, 1999.

参考文献

適宜、紹介します。

評価方法

レポート、試験、授業参加度を総合的に評価します。

受講者への要望

授業には必ず予習をしておいてください。

年間授業計画

1. ガイダンス、テスト。
2. Federalism, Do the States Have the Rights to Restrict Illegal Immigration?
3. 同上。その他適宜、教材を配布。
4. 同上。その他適宜、教材を配布。
5. Political Socialization, Is Bilingual Education an Appropriate Way to Provide Equality of Educational Opportunity?
6. 同上。その他適宜、教材を配布。
7. 同上。その他適宜、教材を配布。
8. Political Interest Groups: The Crusade against Joe Camel :What Is the Role of Government in Curbing Teen Smoking?
9. 同上。その他適宜、教材を配布。
10. 同上。その他適宜、教材を配布。

11. Elecitons, Should Third-Party Candidates Be Included in Televised Presidential Debates?
12. 同上。その他適宜、教材を配布。
13. 同上。その他適宜、教材を配布。
14. Congress, Should Congress Have Term Limits?
15. 同上。その他適宜、教材を配布。
16. 同上。その他適宜、教材を配布。
17. Foreign Policy: Process, Does the War Powers Act Effectively Check the President's Military Powers?
18. 同上。その他適宜、教材を配布。
19. 同上。その他適宜、教材を配布。
20. Foreign Policy: Decision Making, Should President Bush Have Ended the Gulf War at 100 Hours?
21. 同上。その他適宜、教材を配布。
22. 同上。その他適宜、教材を配布。
23. 同上。その他適宜、教材を配布。
24. 同上。その他適宜、教材を配布。

科目名	ドイツ語
担当者	糸 井 透

講義の目標

ドイツ語の総合的な向上をめざす。

ドイツ語学習の基本的知識を確認する。

講義概要

読解力を向上させるためのテキスト、聴解力をつけるためのビデオテープを使った授業になるであろう。

テキスト

未定。

評価方法

平常点 + 定期試験

受講者への要望

欠席をせず、授業に積極的に参加すること。

科目名	ドイツ語会話 - 1
担当者	M . アユガイ

講義の目標

Das Hauptziel von diesem Kurs ist die Kommunikation.

Dabei steht das Üben der sprachlichen Ausdrucksmöglichkeiten im Mittelpunkt, mit der natürlich die Wortschatzerweiterung einhergeht.

講義概要

Zunächst in einfachen Satzmustern, dann in entsprechend erweiterten Satzgefügen, damit die Natürlichkeit der Sprache erhalten bleibt, werden verschiedene Themen aus dem deutschen Alltagsleben behandelt und möglicherweise mit dem japanischen verglichen.

テキスト

Ach so! II

Von A. Braun, A.Seidel, M.Izumi
im Dogakusha Verlag

参考文献

Ausser dem vorgestellten Material können wir, je nach Stand und speziellem Interesse der Studenten, weitere Artikel, Video usw. benutzen. Auf jeden Fall steht die Kommunikation im Mittelpunkt.

評価方法

Kommunikationssprache ist Deutsch.

Grundkenntnisse werden vorausgesetzt.

Erwartet wird aktive Unterrichtsbeteiligung

受講者への要望

Nach jeder Lektion folgt ein kurzer Test.

年間授業計画

- 1 . Einführung in Arbeitsweise und Vorgehen, Vorstellung
- 2 . Freizeitaktivitäten, Berufe, Studienfächer
- 3 . Strukturen und Fertigkeiten: Trennbare, unregelmäßige Verben, Präpositionen, Satzverbindungen
- 4 . Themen: Reisen : Vorbereitung. Im Hotel
- 5 . Strukturen und Fertigkeiten: Modalverben, Possessivpronomen, Perfekt
- 6 . Themen: Einbruch, Täterbeschreibung, Steckbrief
- 7 . Strukturen und Fertigkeiten: attributive Adjektive, Imperativ

8 . Themen: Körperteile, Beim Arzt, Krankheit

9 . Strukturen und Fertigkeiten: Subjunktionen: weil, wenn, obwohl. Satzverbindungen

10 . Themen: Familie, Kontaktanzeigen

11 . Themen: Studienalltag

12 . Themen: Studentenleben

13 . Themen: Märchen und Fabeln

14 . Strukturen und Fertigkeiten: Präteritum, Passiv

15 . Themen: Landeskunde: Feste und Bräuche

16 . Strukturen und Fertigkeiten: Konjunktiv II: Wunsch, Hypothese

17 . Themen: Wo treffen wir uns?

18 . Themen: Deutsche Städte: Wo ist das Zentrum?

19 . Themen: Japan ist ganz anders. Deutschland ist ganz anders

20 . Themen: Berlin

21 . Themen: Ausländer

22 . Themen: Umweltschmutz und Umweltschutz

23 . DIALOGE

24 . Zusammenfassung

科目名	ドイツ語会話 - 2
担当者	M . ルーデ

講義の目標

Am Ende dieses kurses können die Studenten einfache Dialoge sprechen. Die Gesprächssituationen dieser Dialoge sind typisch für den deutschen Alltag und für das Reisen in Deutschland.

講義概要

In diesem Kurs wird sehr viel gesprochen: gemeinsame Sprechübungen, freies Sprechen in Kleingruppen und Lieder. Intonation und Sprachrhythmus werden offengelegt durch "Prosodische Schrift". Am Ende jeder Unterrichtseinheit werden die Dialoge auf Kassette aufgenommen.

テキスト

Kopien werden im Unterricht verteilt. Jeder Student benötigt einen einfachen Rekorder (z.B. Walkmen mit Aufnahme – Möglichkeit).

評価方法

Die Note setzt sich zusammen aus mehreren Tests, Anwesenheit und Mitarbeit.

受講者への要望

Aktive Mitarbeit am Unterricht - insbesondere bei der Kleingruppenarbeit - ist wünschenswert.

年間授業計画

- 1 . Sie geben sich als Ausländer zu erkennen.
- 2 . Sie fragen nach verschiedenen Begriffen.
- 3 . Sie sprechen über Ihre Deutschkenntnisse.
- 4 . Sie stellen sich vor.
- 5 . Gespräch über das Wetter
- 6 . Annahme und Ablehnung einer Einladung
- 7 . Beendigung eines Gesprächs
- 8 . Sie verlangen jemanden am Telefon.
- 9 . Sie suchen ein Restaurant.
- 10 . Sie bedanken sich.
- 11 . Bestellung in einem Restaurant
- 12 . Sie fragen nach Preisen.
- 13 . Sie schreiben eine Postkarte.
- 14 . Sie kaufen Kleidung.
- 15 . Sie kaufen eine Fahrkarte auf dem Bahnhof.
- 16 . Informationsgespräch am Bahnhof
- 17 . Hotel - Reservierung

- 18 . Telefongespräch
- 19 . Sie verabreden sich mit jemandem.
- 20 . Sie fragen nach dem Weg.
- 21 . Sie drücken Vorlieben und Abneigungen aus.
- 22 . Sie duzen sich mit jemandem.
- 23 . Sie suchen einen verlorenen Gegenstand.
- 24 . Beim Arzt

科目名	スペイン語会話（総合）1
担当者	野々山 ミチコ

24 . "

講義の目標

スペイン語圏に旅行したい学生に役立つ会話能力を育てる

講義概要

地方都市クエンカを舞台に道のきき方、買い物の方、レストランでの注文、ホテルの宿泊などの会話を実践し Dictation によって hearing 能力もきたえる

テキスト

Digame. コピーを配付

参考文献

とくになし

評価方法

出席とテスト

受講者への要望

参加に意味があるので休まず出席すること

進度はクラスのレベルによってシラバスとは異なる場合がある

年間授業計画

- 1 . Digame 1
- 2 . "
- 3 . Digame 2
- 4 . "
- 5 . Digame 3
- 6 . "
- 7 . Digame 4
- 8 . "
- 9 . Digame 5
- 10 . "
- 11 . Digame 6
- 12 . "
- 13 . Digame 7
- 14 . "
- 15 . Digame 8
- 16 . "
- 17 . Digame 9
- 18 . "
- 19 . Digame 10
- 20 . "
- 21 . Digame 11
- 22 . "
- 23 . Digame 12

科目名	スペイン語会話 (総合)2
担当者	J . L . ベラスコ

講義の目標

The objective of this course is to enable the students to communicate in Spanish by acquiring a deeper knowledge of the Spanish language and its culture.

講義概要

Completion of the unfinished grammar, so that the students could understand with a dictionary any regular Spanish written text.

Oral practices of the Spanish conversation through short dialogues about the daily life and conversational themes.

Wider knowledge of the Spanish Culture and Spanish speaking world.

テキスト

Prints

参考文献

Audiovisuals materials(tapes, videos, etc.)

評価方法

Oral and written quizzes, exams.

受講者への要望

Attendance Participation Effort

年間授業計画

- 1 . Las Personas (Presentación)
La familia de Maritza (Video)
- 2 . Horóscopo (Futuro)
Mi familia (Video)
- 3 . Restaurante español
Pequeño teatro
- 4 . Comida española La paella (Video)
- 5 . El vendedor de pájaros
- 6 . El clima en el Mundo Hispano (Video)
- 7 . Andrés y Carmen tienen una cita
- 8 . Estudiantes en Miami (Video) Mi semana universitaria
- 9 . Cuento : Tenía dos guaguas Cine: Carmen ()
- 10 . Diálogo : En la clínica (Pequeño Teatro) Cine: Carmen ()
- 11 . El campo o la ciudad
Puerto Rico - Mar Caribe (Video)
- 12 . Cuento : El campesino Tobías
- 13 . Diálogo : Aeropuerto (Las aduanas)

- 14 . Cuento : La avaricia rompe el saco
- 15 . Los deportes (Video) San Antonio (Texas)
(Video)
- 16 . El castellano o el español En el Club Hispano(Video)
- 17 . Las plumas del Quetzal (La Ruta)
- 18 . El dinero en el mundo Hispano
- 19 . Vamos de compras Cine : Belle Epoque()
- 20 . El hombre de la selva – cine : Belle Epoque()
- 21 . La música() (Video)
- 22 . La música()
- 23 . Don Quijote de la Mancha (Video)
- 24 . Una carta Noticias(Telediario)

科目名	スペイン語会話（LL）
担当者	J．フェレーラス

講義の目標

正確なスペイン語の発音、イントネーションをマスターすること。スペインやラテン・アメリカの文化についての理解を深めながら、つまらない相互誤解を避けるために、日常のマナーとジェスチャーを身につけること。

講義概要

日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人にくりかえさせて、スペイン語らしい発音やイントネーションを学習させる。

ビデオや写真を通して：聞き取り能力の養成。

歴史や建築、美術、音楽、料理、ファッション、等の文化を紹介。外国語での会話に必要な想像力、連想力の訓練を行う。スペイン語圏の様々な文化と日本文化との比較。

テキスト

プリント

参考文献

¡Hola, amigos!. 西和辞典

評価方法

授業への積極的参加およびテスト。

受講者への要望

授業中に集中すること。失敗をおそれずに会話演習に参加する。

年間授業計画

学生のスペイン語のレベルとこの授業に対する希望を聞いた上で年間計画を立てる。学生の率直な発言を期待する。

科目名	言語情報処理 a・b 1, 2
担当者	長崎 等 高柳 敏子

講義の目的

本講義は英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータリテラシ（タッチタイプ、コンピュータ・コミュニケーション、ワードプロセッサ）を一通り習得していることを前提として、表計算ソフトの基礎から学び、そのデータベース機能を利用した英文データベースの構築と英文解析の技法を学習しながら、コンピュータの英文解析への応用を理解する。

講義概要

前期は、まずワープロソフト（MS - Word）による日本語および英文の扱い、表や図・絵を含めた総合的な文書編集の基本を復習する。続いて、Internetを利用して図書館の検索等各種情報検索を紹介し、情報収集の手段としてのInternetの有効な使い方を学習する。さらに、後期に行う英文データベースの構築と英文解析の基礎となる表計算ソフト（MS - Excel）の基本を学ぶ。

後期では、前半に表計算ソフトの応用としてデータベース処理を学習する。後半はそれまでに学んできた表計算の基礎及びデータベース処理を活用し、英文解析の基礎を学ぶ、解析に利用する英文の取得にはInternetを活用する。また英文解析関連サイトも合わせ紹介する。

テキスト

未定

参考文献

随時紹介する。

評価方法

評価は、定期試験に替わるものとして前期最終授業の実習試験、後期の最終レポート、その他前・後期各2回程度のレポートおよび出席を加味して行う。

受講者への要望

実習が中心の授業なので欠席しないこと。第1回目の授業で受講者（1クラス55人）を決定するので必ず出席すること。

年間授業計画

年間授業計画（a）

1. 受講者の決定と講義のガイダンス
2. ワープロの復習（1）: 日本語の入力
ページ設定、ヘッダ・フッタ、印刷プレビュー、印刷等

3. ワープロの復習（2）: 英文の入力
スペルチェック、ハイフネーション、ドロップキャップ等
 4. ワープロの復習（3）: 総合練習
表組、段組、図・絵の貼り付け等
 5. Internetと情報検索（1）: 文献検索
論理積、論理和、トランケーション等
 6. Internetと情報検索（2）: サーチエンジンの利用
登録系エンジンとロボット系エンジン、英文解析関連サイトの紹介
 7. 表計算の基礎（1）: 表計算一巡り
データの入力、計算、グラフ、ページ設定、印刷等
 8. 表計算の基礎（2）: グラフの編集
グラフ及びタイトル、軸及びラベル等の編集
 9. 表計算の基礎（3）: 計算
計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等
 10. 表計算の基礎（4）: いろいろな関数
関数およびそのヘルプの利用
 11. 表計算の基礎（5）: ヒストグラム
分析のツール利用
 12. 表計算の基礎（6）: 総合練習
実習試験を含む
- #### 年間授業計画（a）
13. 表計算の応用（1）: データベース処理（1）
並べ替えと集計
 14. 表計算の応用（2）: データベース処理（2）
レコードの抽出および条件検索
 15. 表計算の応用（3）: データベース処理（3）
クロス集計とピボットテーブル
 16. 表計算の応用（4）: データベース処理（4）
総合練習とレポートの作成
 17. 英文解析（1）: 英文解析の準備と英文のMS-Excelへの入力
Internet等を利用した英文の選択、取得、編集およびワークシートへの入力とワークシート上の英文の編集・整理
 18. 英文解析（2）: 出現単語の頻度の集計
ピボットテーブルを利用した列毎の単語の頻度集計
 19. 英文解析（3）: テキスト全体の出現単語の頻度
列毎の単語の使用頻度のまとめとテキスト全体の集計
 20. 英文解析（4）: 出現単語の頻度分布および出現単語の文字の長さの分布

LEN 関数の利用および各分布とそのグラフ化

21. 英文解析 (5): 出現文字の頻度
データベース関数 DSUM を利用した文字毎の
使用頻度
22. 英文解析 (6): 1 文内の単語数の分布
列毎の文末記号 (. ! ? 等) の頻度集計と、一
文内の単語数の分布およびそのグラフ化
23. 英文解析 (7): KWIC インデックスの作成
24. 英文解析 (8): 英文解析のまとめ
英文解析結果の整理とレポートの作成

科目名	言語情報処理 a・b
担当者	吉成 雄一郎

講義の目標

本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース（以下コーパス）の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。

講義概要

年間の講義の前半（ほぼ前期）は、Microsoft Excel（以下 Excel）の基本的機能および操作方法を学ぶ。

後半は既存の各種コーパスをネットワーク経由で体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excel を応用して、データベース構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスを Excel を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。

全体を通じてコーパスの構築、分析処理には、汎用表計算ソフトの一つである Excel を利用する。Excel には表計算ソフトであるが、データベース機能、統計処理に優れ、本講義では言語処理に応用する。

テキスト

授業中に指示する。

参考文献

授業中に紹介する。また本講義用ホームページ（<http://www.yuchan.com/gengojoho/>）を参照すること。

評価方法

評価は、前期は定期試験、後期は最終レポートを基に判定されるが、その他前・後期各 2 回程度のレポートおよび出席状況が加味される。

受講者への要望

実習が中心の授業なので欠席しないこと。

第 1 回目の授業で受講者（1 クラス 55 人）を決定するので必ず出席すること。

年間授業計画

1. 受講者の決定と講義のガイダンス
2. Windows および Microsoft Word の使い方：
英文の入力、スペルチェック、表組、段組その他

3. Internet と情報検索（1）：文献検索
論理積、論理和、トランケーション等
4. 表計算の基礎（1）：表計算一巡り
データの入力、計算、グラフ、ページ設定、印刷等
5. 表計算の基礎（2）：計算
計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等
6. 表計算の基礎（3）：関数の利用（1）
関数およびテキスト処理への応用
7. 表計算の基礎（4）：関数の利用（2）
関数およびテキスト処理への応用
8. 表計算の基礎（5）：関数の利用（3）
関数およびテキスト処理への応用
9. 表計算の基礎（6）：データベース処理
並べ替えと簡単な集計、およびテキスト処理への応用
10. 表計算の基礎（7）：グラフの作成、編集
テキストの処理の結果をグラフ化する
11. 表計算の基礎（8）：総合練習
総合問題によるレポート作成
12. 表計算およびワープロを統合した総合問題
実習テスト
13. コーパスとは何か
インターネット上に公開されているコーパス、および授業専用のコーパスにアクセスし、コーパスを体験する
14. 文章解析（1）：出現単語の頻度の集計
ピボットテーブルレポートを利用した単語の頻度集計、総語と異なり語数
15. 文章解析（2）：Lexical density（語彙密度）の計算
Lexical density の意味と計算方法、Lemmatization 処理
16. 文章解析（3）：特定グループに属する語彙の出現頻度の調査
あるテキストで、たとえば基本動詞はどのように使われているか、など特定グループの語彙の出現状況を計算する
17. 文章解析（4）：KWIC Concordance の作成
KWIC インデックスの作成と、フィルターの活用方法
18. 文章解析（5）：KWIC Concordance の活用（1）
キーワードが含まれる例文を収集する
19. 文章解析（6）：KWIC Concordance の活用（2）
コロケーションとは何か、コロケーションの単

純集計

20. 文章解析 (7): KWIC Concordance の活用 (3)
MI-Score を使ったコロケーション集計
21. 文章解析 (8): 品詞情報のタグ付け
各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる
22. 文章解析 (9): タグ付けされたテキストの分析
品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する
23. 言語情報処理の現状
今日のコーパス言語学の状況、コンピュータによる言語処理の最新技術を紹介する
24. 文章解析 (10): 文章解析のまとめ
文章解析の結果の整理とレポートの作成

科目名	統 語 論 a・b
担当者	安 井 美代子

講義の目標

ことばを話す能力は、最も重要な人間の知的能力の1つである。この授業は、言語の構造に関して私たちが無意識に「知っている」ことを明確にかつできるだけ一般的に述べる努力をしていく。扱うデータはほとんどが英語であるが、授業の目的は英語の構造の理解にとどまらない。英語に限らず日本語や他の様々な言語の使用を可能にしている母国語話者の知的能力についてまで考察を広げていく。

講義概要

生成文法統語論の基礎を学ぶ。毎回の授業の前半は講義形式で行い、後半は講義内容に関する英語のデータを受講者に分析してもらう。分析は毎回提出してもらい、次回の授業時に返却し解説を加える。ホームページ上でも分析の解説を公開する。また、自然言語とコンピューター言語の類似点、子どもの言語習得過程、言語以外の人間の知的能力についてなど、関連領域についても数回とりあげる。

テキスト

プリント

参考文献

“Syntax: A Minimalist Introduction” (A. Radford, Cambridge University Press)

“Transformational Syntax”

(A. Radford, Cambridge University Press)

“Introduction to Government and Binding Theory” (L. Haegeman, Blackwell)

「生成文法」岩波講座：言語の科学（田窪行則他、岩波書店）

「生成日本語学入門」（長谷川信子、大修館書店）

「生成文法の基礎」（中村捷、金子義明、菊池朗、研究社）

評価方法

前後期定期試験による。毎授業提出のデータ分析は評価の対象ではないが、その内容に沿った設問が定期試験で出される。

受講者への要望

統語論は具体的な分析をして初めて理解したことになるので、授業の後半に行うデータ分析は非常に重要である。分析で使う規則、前提などは段階的に講義で導入していくので、欠席が重なると、理解が困難になるので注意してほしい。

年間授業計画

1. 認知科学としての言語学：関連領域トピック1
2. 句構造
3. X-bar Syntax (1)
4. X-bar Syntax (2)
5. X-bar Syntax (3)
6. 節の内部構造
7. 主語と助動詞の倒置
8. 本動詞・助動詞と時制辞の分布
9. 省略現象
10. 機能範疇と語彙範疇
11. 関連領域トピック2
12. 質問
13. 前期定期試験の解説
14. persuade と expect の統語的差異(1)
15. persuade と expect の統語的差異(2)
16. seem と try の統語的差異
17. 名詞句の分布と格理論
18. 格理論と名詞句移動
19. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係：束縛理論(A)
20. 名詞句移動の局所性と束縛理論(A)
21. he などの代名詞と先行詞との構造的関係：束縛理論(B)
22. John などの一般的名詞句：束縛理論(C)
23. 関連領域トピック3
24. 質問

科目名	意味論 a・b
担当者	阿部 一

講義の目標

本講座は現在、活発かつ緻密な研究が続けられている意味論 (semantics) を、特に最新の意味論研究の成果を大幅に取り入れた形で分かりやすく解説するものである。その際、極力、具体的な身近にある問題 (カタカナ語使用の問題からネーミングの不思議そして英文法の問題まで) を取り挙げながら「問題解決型」の授業を行なうことにする。

講義概要

まず意味論の世界に入っていくために必要とされる基礎知識及び基本となる概念を理解してもらう。特に意味の表示の方法については具体的ないくつかの問題を取り挙げて解説する。その上で、最近の「言語と認知」という視点からの具体的な意味分析の例とその問題などを取り挙げていく。さらに意味論 b では今後の意味論の可能性と意味論の応用可能分野 (特にコーパス分析) にも触れる。

テキスト

未定 (最初の授業で指示する)

参考文献

未定 (最初の授業で指示する)

評価方法

各学期 2 回 (うち 1 度は学期途中) のテストもしくはレポート: 75% 各学期数回 (講義の区切りごと) 行なわれる授業内小テスト: 15% 出席・授業参加度: 10%

受講者への要望

キチンと出席できないような人は受講を見合わせる。できれば積極的な「問題意識」を持って授業に参加して欲しい。

年間授業計画

1. 意味論 a のオリエンテーション: 意味論って何? 何の役に立つの? 意味の分析ってどうやってするのか?
2. 意味論の基礎知識 特 に語彙意味論 (その 1)
3. 意味論の基礎知識 特 に語彙意味論 (その 2)
4. 意味論の基礎知識 特 に語彙意味論 (その 3)
5. 意味の分析・研究 (その 1) 基本動詞 (その 1)
6. 意味の分析・研究 (その 2) 基本動詞 (その 2)
7. 意味の分析・研究 (その 3) 前置詞・副詞 (空

間概念) (その 1)

8. 意味の分析・研究 (その 4) 前置詞・副詞 (空間概念) (その 2)
9. 意味の分析・研究 (その 5) 名詞 (その 1)
10. 意味の分析・研究 (その 6) 名詞 (その 2) * 冠詞の問題
11. 意味の分析・研究 (その 7) 名詞 (その 3) * 冠詞の問題 + 形容詞の問題
12. 意味論 a のエピローグ: a のまとめと課題と展望
13. 意味論 b のオリエンテーション: 「もの名えって何だろう? 新しいネーミングを考えてみよう?」
14. 意味論の基礎知識 特 に文の意味論 (その 1)
15. 意味論の基礎知識 特 に文の意味論 (その 2)
16. 意味の分析・研究 (その 1) 文の論理関係 (その 1)
17. 意味の分析・研究 (その 2) 文の論理関係 (その 2)
18. 意味の分析・研究 (その 3) 文の情報構造
19. 意味の分析・研究 (その 4) 特 に副詞節 (句) の問題
20. 意味の分析・研究 (その 5) 特 に連結・接続の問題
21. 意味の分析・研究 (その 6) 特 に場面 (状況) と文の関連性 (その 1)
22. 意味の分析とコーパスの利用 (その 1)
23. 意味の分析とコーパスの利用 (その 2)
24. 意味論 b のエピローグ: a のまとめと課題と展望

科目名	音声・音韻論 a・b
担当者	大竹孝司

講義の目標

21世紀に入り、音声言語を様々な側面から探る研究が世界中で繰り広げられている。これは高度な情報化、国際化社会の出現により内外を問わずコミュニケーションの重要性が広く認識されるようになったからである。本講義では、人間のコミュニケーションの核となる音声言語が持つ様々な機能や構造に関する基本的な知識と考え方を学ぶ。これにより音声言語の分析の手法を身につける。日本人の英語学習者が直面する発音とリスニングの改善に対処できる具体的な知識も得られるであろう。言語やコミュニケーション、そして英語教育に関心のある学生には薦めたい。

講義概要

音声言語が持つ様々な機能を身近な例（ビデオ）で取り上げ、音声言語とは何かということ把握してから、前半では人間が発話する音声の特徴を音声学の観点から学ぶ。人は音声をどのように生成（発音）し、知覚（リスニング）するのか、音声を「目」で見たり、様々な音声に関する実験をまじえながら考えてゆく。そして、後半では音声の基本的な知識を学んだ後、音声が作り出す音の構造と機能を音韻論の観点から学ぶ。この後半の講義では、音韻論の基礎的な知識と考え方を身につけると共に言語の具体的な音韻分析ができることを目指す。音韻論の知識が英語の発音やリスニングといかに密接な関係があるかが理解できるであろう。

テキスト

“Language Files”

参考文献

P. Ladefoged "A Course in Phonetics" Harcourt Brace & Company

P. Ladefoged & I. Maddison "The Sounds of the World's Languages" Blackwell

柴谷・影山・田守「言語の構造 - 理解と分析」
音声・音韻篇 ころしお出版

窪園晴夫「音声学・音韻論」ころしお出版

評価方法

評価は、試験、課題、実験、出席などにより決める。

受講者への要望

新しい概念を多く学びます。知的刺激に十分耐え

られるよう考えるクセをつけて下さい。

年間授業計画

（前期）

1. 講義の概要の説明。音声言語とは？
2. 音声言語とコミュニケーション - 人間に音声言語がなかったら（ビデオ）
3. 音声言語の社会的機能 - 社会の階層と音声（ビデオ）
4. 音声言語の獲得 - 音声言語の獲得と外国語学習
5. 音声学の基礎 - 音声学の3つの分野（調音音声学、音響音声学、聴覚音声学）
6. 音声学の基礎 - 音声言語と文字言語。音声と発音記号。
7. 音声学の基礎 - 調音音声学（発音器官と調音）
8. 音声学の基礎 - 調音音声学（子音の分類と記述）
9. 音声学の基礎 - 調音音声学（母音の分類と記述）
10. 音声学の基礎 - 音響音声学（音声を目で見る）
11. 音声学の基礎 - 音響音声学（人間の音声と人工合成の音声）
12. 音声学の基礎 - 聴覚音声学（人間は音声をどのように聞くのか）

（後期）

1. 講義の概要の説明。音声学と音韻論は何が違うのか？
2. 音韻論の基礎知識 - 音の体系（音、音素、異音）
3. 音韻論の基礎知識 - 音の体系（相補分布、最小対立、自由変異）
4. 音韻論の基礎知識 - 音韻規則とは？
5. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の手順について
6. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
7. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
8. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
9. 音韻論の基礎知識 - 音節構造と音素配列
10. 音韻論の基礎知識 - 音節構造とモーラ
11. 音韻論の基礎知識 - 音節構造とアクセント
12. 音韻論と外国語学習

科目名	英語史 a・b
担当者	児玉仁士

講義の目標

言語の特性の一つである「言語は変化する」の側面に視点を置き、英語が古期から中期へ、さらに近代へと時の経過と共にどのように変化したか、を具体的な資料に基づきながら概説する。言語の変化は、その時々々の社会的・文化的要因と深く係わり合いながら促進されるものでもあるから、その面にも合わせて言及したい。

講義概要

まず、歴史言語学の視点から、(a)「言語の変化」とはどのようなことなのか、(b)その変化の要因は何なのか、(c)英語はインド・ヨーロッパ語族/ゲルマン語派の孰れに属するのか、(d)英語は紀元 700 年ごろから今日まで約 1300 年間にどのように変化（進歩/退歩）してきたのか、(e)英語のどのような側面（文字・発音・綴り・形態・統語・意味など）に変化が見られるのか、と言った話題が中心となるだろう。テキストに準拠しながら、随時プリントを配布する。具体的には、年間授業計画を参照せよ。

テキスト

松浪有編『英語史』（英語学コース 1）、大修館書店

参考文献

小野茂・恭子訳：『文化史的にみた英語史』開文社出版

郡司利男 岡田 尚 訳：『英語史概説』開文社出版

青山吉信編：『イギリス史』1、2 山川出版社

評価方法

評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に時折のレポートと出席を加味して、総合評価する。

受講者への要望

英語の通時的な側面に関心があり、辞書をこまめに引くことをいとわない人の受講を望む。

年間授業計画

1. 言語の変化
2. インド・ヨーロッパ語族/ゲルマン諸語での位置
3. アングロ・サクソン時代の歴史的背景
4. 古期英語の文字・発音・綴り
5. 古期英語の形態
6. 古期英語の統語

7. 古期英語の語彙
8. 古期英語のテキスト講読
9. 上記に同じ
10. 中世期の歴史的背景
11. 中期英語の文字・発音・綴り
12. 中期英語の形態
13. 中期英語の統語
14. 中期英語の語彙
15. 中期英語のテキスト（特にチョウサーの作品）講読
16. 中期英語のテキスト（その他の作品）講読
17. 近代の歴史的背景
18. 近代英語の発音・綴り
19. 近代英語の形態
20. 近代英語の統語
21. 近代英語の語彙
22. 近代英語のテキスト講読
23. 英語の辞書
24. アメリカ英語の特性

科目名	英語学特殊講義 a・b
担当者	四 宮 満

22. テキスト(大きい単位...物語全体)の構造分析

23. "

24. 全体のまとめ

講義の目標

さまざまなジャンルの英文に対して談話分析文体分析など言語学的な分析により、英語の表現とその構造についての理解を深めることを目標にする。

講義概要

英文 論説文、エッセイ、小説などフィクション、ノンフィクション を読み、会話分析、テキスト分析、レトリックなどの≡から実際に教室において英文を正確に読む訓練から始まることになる。

テキスト

Styale Fiction by G. N. Leech and ≡ ≡ ≡ it Short . (プリント)

参考文献

Exploring the Language of Poems Plays and ≡ ≡ Short .

評価方法

レポートとテストによる。

受講者への要望

出席をし、英文をしっかり読む努力を惜しまない学生の参加を求める。

年間授業計画

1. 英文における Cohesion (結果構造) (1)
2. (2)
3. (3)
4. (4)
5. フィクションなどにおける会話 speech acts
6. turn-taking
7. politeness
8. "
9. フィクションにおける Point of view (視点)
- 10.
- 11.
12. Speech and Thought presentation
- 13.
- 14.
- 15.
16. 英文における表現効果
17. "
18. "
19. 英文におけるレトリック
- 20.
- 21.

科目名	英語学文献研究 a・b
担当者	府川 謹也

講義の目標

英語学科の学生ならば誰も時々「どうしてこう言えて、ああは言えないの？」と疑問も持つことであろう。この授業では、そのような素朴な疑問の一端に答えることを狙って書かれた論文を輪読し、言語学の基本的姿勢と方法論の理解を深めることを目標とする。

講義概要

例えば次のような疑問について考えていくことのできるような視点を与えてくれる論文を読む。

- (1) for が有ると無いのではどうして容認性が異なるのか？
- a. I'd like you to {leave right away/? be able to leave when you' ready}.
- b. I'd like for you to {leave right away/ be able to leave when you' ready}.
- (2) 'write a letter to Mary' と'write Mary a letter' とは同じ意味だと習ったのに、どうして b は言えないんだ？
- a. John wrote a letter to Mary, but later he tore it up.
- b. * John wrote Mary a letter, but later he tore it up.
- (3) 次の文はアクセントが異なるとどうして意味も異なるのか？
- a. Helen left DIRECTIONS for George to follow.
- b. Helen left directions for George to FOLLOW.

テキスト

未定

参考文献

Givon, T(1993).*English Grammar: A Function-Based Introduction*.

* その他の参考文献は府川ゼミナールのホームページ(<http://www2.dokkyo.ac.jp/esemi008/>)「ゼミの内容」の「参考文献」を参照のこと。

評価方法

前後期の定期試験を主とするが、課題提出などの平常点を加味する場合もある。

ただし、欠席が4回を超えた者については、医師による診断書あるいは診療証明書のある場合、事故証明書のある場合、冠婚葬祭への出席、を除くどのような理由(例えば就職試験)であろうとも

成績は「不可(F)」とする。(遅刻2回を欠席1回分に換算する。証明書のない場合は、時間割上の授業開始時間を20分超えて入室した場合は欠席とみなす。)

受講者への要望

大学生の自覚をもって授業に臨むこと(たとえば、予習・復習を怠ったり、授業中に真面目に受講している学生に迷惑をかけたり先生にたいして非礼な態度を取ったりしない)。とにかく、何をしようが自分でやったことの責任は自分で取るようにすること(Take the consequences!)

年間授業計画

担当者についての情報

[1] 〒340-0042 草加市学園町 1-1 中央棟 537 [大学研究室]

Tel . (0489)41-6182 [自宅]

Tel.& fax(0489)43-2198 [研究室]

E-mail : fukawaky@al.mbn.or.jp

[2] 出講日

火曜日(1.2)・水曜日(1.2)・金曜日(2.3.4)

[3] 質問(相談)のための面談

原則として水曜日の午後1時半より2時45分までを面談用時間(office hours)とする。ただし、会議などの校務が入る可能性があるので面談希望者は必ず電話や電子メール等で事前に面談予約を取ること。

科目名	英米文学史 a・b (英) 1
担当者	佐藤 勉

講義の目標

1年を通して文学史の意義を考えながら、イギリス文学の流れを古期英語の時代から20世紀まで主たる作品を中心に読解する。それぞれの作品が作者の人生観や思想、その時代の社会をどのように反映しているかなどについて分かり易く講義する。

講義概要

指定されたテキストに従って作品を解題する。また主要な文学用語についても解説する。限られた時間での講義なので、幾つかの古典的な作品を集中的に取り上げてその文学的特質を述べることになるが、自ずと担当者の好みが入ることになるであろう。

テキスト

Ifor Evans: *A Short History of English Literature* (Penguin Bks. 1990). (ブックギャラー DUO に教科書として一括注文するのでそこで購入のこと)

参考文献

日本語による英文学史はどこにでもあるので参考文献は各自見つけること。

William J Long: *English Literature* (Ginn & Co. 1945).

Pat Rogers (ed): *An Outline of English Literature* (OUP., 1945).

Stephen Coote: *The Penguin Short History of English Literature* (Penguin Bks. 1993).

Andrew Sanders: *The Short History of English Literature* (OUP., 1994).

Robert Bernars: *A Short History of English Literature* (Blackwell, 1994)

評価方法

前期及び後期の定期試験(さらにレポートの提出もありうるが)によって評価する。

受講者への要望

文学に興味があり、予習をして授業に出席し、指定された課題をしっかりとこなせること。

年間授業計画

1. テキスト第1章 アングロ・サクソンから中世の時代までを扱う。中心となる作品は *Beowulf*, *The Canterbury Tales*, *Piers the Plowman*, *Sir Gawain and the Green Knight* など。
2. 前の授業の継続。
3. 前の授業の継続。

4. 第2章 Pre-Renaissance から Renaissance に至る詩人、Spenser, Wyatt と Surrey, Sidney, Shakespeare, Donne の New Way in English Poetry を扱う。

5. 前の授業の継続。

6. 前の授業の継続。

7. 前の授業の継続、第3章 17世紀からロマン派までの詩人、Milton, Marvel, Dryden, Pope, Blake, Burns などの代表的な作品を扱う。

8. 前の授業の継続。

9. 第4章 ロマン派の詩人、Wordsworth, Coleridge, Byron, Keats, Shelley, などの主要な作品を扱う。

10. 前の授業の継続。

11. 前の授業の継続、および第5章 19世紀および20世紀の代表的な Hardy, Arnold, Eliot, Yeats などの詩を読み、自然主義の思想や世紀末の不安や信仰の問題や文明の退廃などについて論じる。

12. 第6章 English Drama to Shakespeare を通読し、ギリシャにおける演劇の形態やエリザベス朝時代の演劇の特質などについて概略的な解説をする。本格的な演劇の始まりを開いた University Wits についての解説。

13. 前の授業の継続、第7章 Shakespeare に入る。伝記や作品群(特に四大悲劇)を取り上げて講義することになる。さらに彼の同時代の劇作家について触れる。

14. 前の授業の継続。

15. 前の授業の継続。

16. 前の授業の継続。

17. 第8章 Shakespeare to Sheridan 及び第9章 English Drama from Sheridan の通読と概説、そして現代演劇の概要について触れる。

18. 前の授業の継続。

19. 第10章及び第11章 近代小説の勃興の解説。Defoe, Swift, Richardson, Sterne, Austen, Scott など、リアリズム、書簡体、階級内サークル、ロマンズ小説の特色。

20. Fielding, Dickens, Brontë Sisters, Hardy など、社会と家庭、個人、男女のあり方に言及し、イギリス小説の主要な作品について理解を深める。

21. 前の授業の継続。

22. 現代小説についての概説。Conrad, Woolf, Joyce, James などの、主として短編小説から時代的、思想的特色や小説の技巧、特に視点や意識の流れについて把握する。

23. 前の授業の継続。

24 . 前の授業の継続と英文学史のまとめを行う。

科目名	英米文学史 a・b(米)2
担当者	秋山 武夫

講義の目標

植民地時代から現代にいたるまでの主要作家の代表作を概説し、その問題点を時代背景をふまえて講義し、アメリカ文学への展望を得てもらう。

講義概要

アメリカ文学がヨーロッパ、イギリスの文学から独立して、アメリカ独自の文学を形成していく過程を作品に即して論じていく。西へ西へと進んだ開拓時代、フロンティアの消滅、資本主義の形成、奴隷制、南北戦争、現実主義、自然主義、「失われた世代」などを背景として登場する作家について講義する。

テキスト

ジャック・カポー、寺門他訳『失われた大草原』(太陽社)

参考文献

『アメリカ文学を読む 30回』(太陽社)

評価方法

テスト、レポート

受講者への要望

講義した作品を数多く読んでほしい。

年間授業計画

(前期)

1. イントロダクションとしてアメリカ文学の特質を語る。作家は孤独で、社会の Outsider であった。
2. アメリカ文学の中に厳然として存在している Puritanism (清教主義) を歴史的に語り、現代文学、文化との関係を概説する。D.H. Lawrence はアメリカ文学には「狂気」の血が流れていると言っている。
3. Puritanism を体現している Anne Bradstreet と Edward Taylor の文学、及び Jonathan Edwards を語る。敬虔で素朴で、いかめしいアメリカの源泉を探りたい。現在のアメリカでは「神への回帰」が叫ばれている。
4. 典型的なアメリカ人の原型といわれる Benjamin Franklin の Autobiography の特徴を考える。
5. 心やさしいクエーカー教徒ジョン・ウールマンの日記と「アメリカ文学の父」と言われる Charles Brockden Brown について述べる。
6. James Fenimore Cooper の「革脚絆物語」を概説し、アメリカ文化の原点となっている問題点を指摘する。

7. Unitarianism の開祖となった W. E. Channing とその延長として生まれた Transcendentalism (超絶主義) の作家たち (R.W. Emerson, H.D. Thoreau) について講義する。

8. アメリカ作家としてヨーロッパで高い評価を受け、アメリカ文学の問題点を提出していた Washington Irving の短編小説について語る。リップ・ヴァン・ウインクルってどんな人でしょう？

9. 不幸な生涯を送ったにもかかわらず、不滅の天才と受容されている E. A. Poe の短編小説、詩論、詩について述べる。平均的なアメリカ人がどうして Poe を「病的な人」というのか考える。

10. 大作家 Nathaniel Hawthorne の代表作『緋文字』と短編小説について述べて、彼の特質を語る。彼の言う「罪」とは？

11. アメリカ最大の作家といわれる Herman Melville と「世界 10 大小説」の一つとされる『白鯨』について考える。

12. リズムと活気に溢れた詩人 Walt Whitman の *Leaves of Grass* (『草の葉』) の特異性をさぐる。

(後期)

1. マーク・トゥエーンはアメリカを代表する国民作家であり、ユーモア作家といわれているが、そのユーモアとはいかなるものであったか。『ハックル・ベリイフィンの冒険』、『不思議な少年』等を中心に論じる。

2. ヘンリー・ジェイムズは「師」と呼ばれ、小説技法を練りに練った巨匠であるが、その技法、テーマを語りたい。『ある婦の肖像』を中心に、中短編をいくつかとりあげたい。

3. エミリー・ディキンソンは生涯独身、後半生 25 年は家から出ず、自然と瞑想の生活を送り、1775 の詩を残していた。「私の人生は二度閉じた、その終わりが来る前に」などと歌う詩人です。

4. 「大いなる貴婦人」と呼ばれたエディス・ウォートンを語ります。『無垢の時代』など最近ではよく論じられている。哀切をきわめる『イーサン・フロム』、『歓楽の家』のリリー・パートの可憐な姿を伝えたい。

5. 現実主義文学を提唱したハウエルズの『サイラス・ラバムの向上』を紹介し、彼の弟子でありながら反発したクレインとノリスの文学を比較する。若い作家が主張した自然主義とはどんな文学だったのかを考える。

6. 1945 年に死去した時、あまりに大きな穴が空いたと追悼されたドライサーの自然主義を述べる。世

間知らずの少女が大女優となる『シスター・キャリイ』、深刻な問題作『アメリカの悲劇』をとりあげる。

7. 手工業から大工業へ移り変わる時期にとり残されていく人々を意識の流れと性を通して描いたアンダーソンの『ワインズバーグ・オハオ』とネブラスカの雄々しい開拓民や華麗な人々の変容を描くキャザーの小説『マイ・アントニア』、『迷える夫人』などを論述。
8. 第一次大戦後の「ジャズ時代」を時代の化身のように生きたフィッツジェラルドの『偉大なるギャツピイ』を中心に、戦争で深い心の傷を受けた若者たちの幻滅を語る「失われた世代」の作家像を紹介する。
9. 「歴史の建築家」と自称したドス・パソスの実験小説『USA』を詳説し、彼が捕らえた 20 世紀前半のアメリカを調べてみたい。『三人の兵士』、『マンハッタン乗換駅』にもふれる。
10. 陽はまた昇る』、『武器よさらば』、『誰がために鐘は鳴る』、『老人と海』、『キリマンジャロの雪』など周知の作品を通してヘミングウェイの文学を味わってみたい。
11. 徹底して南部を描いたフォークナーを『響きと怒り』、『八月の光』等の長編小説、「黒衣の道化師」、『ウォッシ』、『くまつづらの香り』等にふれつつ、論じる。
12. 『怒りのぶどう』によってスタインベックの本質を探ったのち、1960 年のはじめに愛犬のプードル「チャーリー」と共にトラック「ロジナンテ」でアメリカ一周をした旅行記『チャーリーとの旅』の特異性を述べたい。

科目名	英米の小説 a・b
担当者	北澤 滋久

講義の目標

- ジョイスとロレンスの文学 -

21世紀の幕開けにあたり、つい昨年までの20世紀英文学の先駆者となった2大作家の文学の概要を、やや詳しく前後期に分けて論じたい。これにより、この世紀の特徴的な諸要素も併せて理解できるように工夫してみるつもりでいる。

講義概要

かなり詳しいハンドアウトを用意して(その代わり板書はあまりせずに) これをもとにもっぱら担当者が講義してゆくが、質問は歓迎する。

テキスト

担当者手製のハンドアウトがこれにあたるから、ほかには特に定めない。

参考文献

以下は担当者の著した文献のみである。その他はハンドアウトに列挙する。

『ジョイスからジョイスへ』(東京堂出版、共著)

「話法から意識の流れへ」(『獨協大学外国語教育研究 創刊号』)

『ジャコモ・ジョイス』(下井草書房、訳注書)

『D.H. ロレンス：その文学と人生』(墨水書房)

『D.H. ロレンス、生と死のファンタジィ：人と文明の再生をもとめて』(金星堂)

評価方法

6月末、1月初旬提出の小論文のみにおいて評価する。

受講者への要望

出席はとらない、いわば自由参加の講義であるから、聴く気もなくして私語をいたすばかりの学生の出席は無用である。

年間授業計画

James Joyce の文学 (前期)

1. ジョイス概説
2. DUBLINERS をめぐって
3. 意識の流れということ
4. A PORTRAIT OF THE ARTIST A YOUNG MAN をめぐって 1
5. A PORTRAIT OF THE ARTIST A YOUNG MAN をめぐって 2
6. GIACOMO JOYCE をめぐって
7. ULYSSES をめぐって 1

8. ULYSSES をめぐって 2
9. ULYSSES をめぐって 3
10. FINNEGANS WAKE をめぐって
11. ジョイスの歴史観と現代認識
12. 前期の統括、質疑応答

D. H. Lawrence の文学 (後期)

1. ロレンス概説
2. THE WHITE PEACOCK をめぐって
3. SONS AND LOVERS をめぐって
4. THE RAINBOW をめぐって
5. WOMEN IN LOVE をめぐって
6. THE AARONS ROD と KANGAROO をめぐって
7. THE PLUMED SERPENT をめぐって
8. THE LADYBIRD をめぐって
9. THE MAN WHO DIED をめぐって
10. LADY CHATTERLEY 'S LOVETR をめぐって
11. ロレンスの宇宙観と死生観
12. 後期の統括、質疑応答

科目名	英米の詩 a
担当者	(前期) 原 成 吉

講義の目標

まず第一に詩を楽しむこと。言葉の世界を通して、アメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡をとおして「いまのわたしたち」を考える。

講義概要

アメリカ先住民の口承詩、ロック・ミュージックのリリック、モダニストの作品、そして同時代の詩人たちの作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、" here and now "の視点から論じる。

テキスト

The American Poetry & Literacy Project ed , *101 Great American Poems* (New York: Dover Publications, Inc., 1998.) 250 円位。ポストモダンの詩人たちについてはプリントを配布。

参考文献

Jay Parini (ed.), *The Columbia History of American Poetry* (New York: Columbia University Press, 1993) 亀井俊介・川本 嗣 編 『アメリカ名詩選』(岩波文庫)
『アメリカ現代詩 101 人集』(思潮社)

評価方法

授業への参加度とレポート(ワープロで 4,000 字程度の作品論、または詩人論)で決める。

受講者への要望

その週に取り上げる作品と「対話」してから授業に参加してほしい。

年間授業計画

1. アメリカの大地の歌 Native American のうたをきく。
2. Rock Music の Lyrics を読む Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ
3. デモクラシーを歌う 『草の葉』の詩人 Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン
4. ミクロコスモスのなかのマクロコスモス 女性詩人 Emily Dickinson の世界
5. モダニズムの起源を探る (1) Ezra Pound がみた東洋
6. 詩に描かれた現代人の苦悩 T. S. Eliot の "The Love Song of J. Alfred Prufrok"
7. "Here & Now" の詩の世界 William Carlos Williams のみたアメリカの美学
8. 小文字の「わたし」がつくる "typograpghy" の詩

e. e. cummings の詩の「意味」

9. postmodern の詩(1) Allen Ginsberg の作品
10. postmodern の詩(2) Gary Snyder の作品
11. postmodern の詩(3) Sylvia Plath の作品
12. postmodern の詩(4) Robert Creeley の作品

科目名	英米の詩 b
担当者	(後期) 白鳥正孝

講義の目標

ワーズワス (W. Wordsworth 1770 - 1850) の「水仙」などのやさしい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身につけることを目的とする。扱う題材はすべてイギリス詩である。

講義概要

初めは、導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。ついで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェイクスピアの代表的な詩について管見する。なるべくカセットテープ、video などの視聴覚教材を利用する。

テキスト

『マザーグースと美しい英詩』 北星堂 1987

参考文献

新井明著『英詩鑑賞入門』研究社、その他は教室でそのつど指示する。

評価方法

テストを課す(詳細は教室にて指示する)。他に数回の video はリスニング・テストを兼ね、平常点として組入れる。(リスニングテストは 100%の理解は求めない、努力具合をみる)

受講者への要望

受身でなく、自ら参加する気持ちで臨んでほしい。

年間授業計画

1. <詩形について>英詩を学ぶ場合には、ある程度詩形について学んでおいた方が理解しやすい。但し(外国人には最も難しい分野であって)、それ自体脇役でもあり、深入りは禁物。
2. マザーグース . いわゆる伝承童謡について学ぶ。英米国の人々が幼児の頃から親しみ、肌に染み込み、聖書やギリシャ神話同様バックボーンの一つとなっていると言われる。
3. マザーグース . 続きを読んだ後、video 鑑賞、メロディーやジェスチャーがこれによって一目瞭然となり、且つ、ビデオ自体夢のある美しい映像である。
4. 現代英詩アラカルト S. Sassoon (1886-1967)、P. Larkin (1922-1985)、E. Jennings (1926-)、T. Hughes (1930-1998)、Scamus Heaney (1939-) 等の小品を各一篇づつ読む。

5. ロマン派の曙 W. Blake (1757-1827) の小品を読んだ後、小伝と朗読を video で学ぶ(字幕無し、以下同じ)。
6. ロマン派の詩 . ワーズワスの代表的な小品を幾つか読み、小伝と朗読を video で学ぶ
7. ロマン派の詩 . S. T. Coleridge (1772-1834) と G. G. Byron (1788-1824) の小品を読む。
8. ロマン派の詩 . P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) の小品を読む。
9. ロマン派の詩 統括 . 先立って簡潔な解説をした後、ロマン派の詩人群像を video で学ぶ。
10. 古典詩 . Thomas Gray (1716-1771) の代表的な詩、“Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を中心に講ずる。
11. 古典詩 . J. Milton (1608-1674) の『失楽園』(Paradise Lost 1667) のさわり、ソネット 23 番について講じた後、video 鑑賞
12. 古典詩 . W. Shakespeare (1564-1616) の詩を主に劇中に挿入された歌やソネットなどを中心に若干読んだ後、video 鑑賞

科目名	英米の演劇 a
担当者	(前期) 児 嶋 一 男

講義の目標

1. 現代を代表する主として英米の劇作家の作品を読みながら、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知る。なるべく実際の上演を観られる機会があるものを取りあげるが、その他に英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作家を取りあげる。2. 現代英米文化について、特に英米の現代の時代風潮がどういふうに現代演劇に示されているかについて考える。3. 本来は舞台は観るのが一番。教室で読むテキストはあくまでも抜粋でしかない。通した形のテキストは自分で読んでおくこと。

講義概要

1. 現代のロンドンとニューヨークの演劇事情を外観した後、現代英米の劇作品の抜粋を読んでいく。そのほかに、東京で上演される現代演劇について随時考える。2. 舞台の雰囲気鑑賞できるようにするために、本読みもしくは立ち稽古を受講生が順番に行う。ビデオを教室内で観ることはしないが、ビデオ化または映画化されたものは紹介する。

テキスト

英文テキストの抜粋プリントを配布。辞書を引いて、舞台上でしゃべって違和感のない日本語に訳したものを用意して出席すること。欠席者へのプリントは原則として配布しない。

参考文献

授業中に言及。

評価方法

定期試験は行わず、観劇レポート最低 3 編によって評価する。レポートの詳細は授業で説明する。出欠は毎回授業の開始時にとり、プラス点としてのみ考慮する。欠席回数で減点はしない。

受講者への要望

第一回目の授業のテキストは中央棟 5 階 504 室前に置いてあるので、準備したうえで出席すること。

年間授業計画

実際の上演日程に合わせる。

科目名	英米の演劇b
担当者	(後期)山田玲子

講義の目標

演劇が他のジャンルの文学と異なる点、即ちそれが複合的な芸術である面を強調した上で、戯曲を読むことから得られるよろこびを、理解出来るように努める。受講者が観劇をひとりひとりの生活の中で味う楽しみとすることが出来るように心掛けたい。

講義概要

演劇とは何かを考えることから始め、中世の戯曲の特色から多くを得たシェイクスピア、現代の私たちとは少し違った風土にいた作家であったことに注目した後、彼の戯曲の特色を主に言葉の面から考察する。戯曲の言葉としての詩と散文について述べ、なぜシェイクスピアがこれほどにもてはやされるのかという事を考える。

テキスト

特に使用しない。

参考文献

授業中に述べる。

評価方法

定期試験期間中のテストと、観劇レポートによる。

受講者への要望

2001年5月下旬より、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー(英国)の『テンペスト』上演が、予定されている。観劇をおすすめする。研究室(613)に指示する。

年間授業計画

1. 演劇とは何か。
2. 演劇のもつ特色について *Macbeth* から引用し、そのプリントをもとに話す。
3. 戯曲におけるストーリーの問題と登場人物の性格の問題を考える。
4. 戯曲の構成について
5. 戯曲の構成について
6. 戯曲における言葉について
7. 戯曲における言葉について
8. シェイクスピアの劇の分類
9. シェイクスピアの劇の分類
10. シェイクスピアの二つの戯曲の比較
11. *Antony and Cleopatra* の一場面の観察
12. *Antony and Cleopatra* の一場面の観察

科目名	英語圏文学特殊講義 a
担当者	(前期) 高橋 雄一郎

講義の目標

「演劇からパフォーマンスへ(表象芸術論)」

自分たちが生きていく上で、また社会が成り立っていく上で、演劇やパフォーマンス・アート、民族芸能や大衆芸能などが、どのような意味を持ち、どのような役割を果たしているのかを考えます。授業の後半部では特に、社会的にマイノリティにある立場の人たちが、パフォーマンスを使って、自分たちのアンデンティティを確認し、支配の構造を切り崩していく可能性について議論していきます。

講義概要

表象芸術の歴史を教科書的に迎えることはしません。さまざまな文化的視点からパフォーマンスを分析するとともに、学生諸君にもなるべく多くのパフォーマンスを観てもらい、発表やディスカッションを取り入れた授業にするつもりです。したがって、毎週授業に出席するだけでなく、各自が予めりサーチをおこなった上で、何らかの意見を持って教室に来ることが要求されます。週ごとの授業内容とテキスト、参考文献を記載したシラバスは、初回の授業で配布しますが、高橋研究室(中央棟 611)の外側にも貼っておきますので、事前に目を通しておきたい人は、是非足を運んで下さい。

テキスト

教室で指示します。

参考文献

教室で指示します。

評価方法

レポート(2本)が、60%。授業中の発表や意見が40%の予定ですが、履修者数によって若干変更があるかもしれません。

受講者への要望

授業では積極的に発言して下さい。また授業時間以外にも、観劇や祭りや芝居、博物館などの見学に行ってもらうので、時間と多少のお金がかかることを了解して下さい。

年間授業計画

未定

科目名	英語圏文学特殊講義 b
担当者	(後期) 高橋 雄一郎

講義の目標

「パフォーマンス研究への招待」

人間は日々さまざまな演技 = パフォーマンスをしながら生活しています。パフォーマンス研究は、日常生活で習慣的におこなわれる演技から、宗教儀礼、演劇、ダンス、サーカスや大道芸、メディア、博物館の展示、国家が催す式典などを広く視野に収め、パフォーマンスが個人の主体や文化の生成にどのように関わっているかを問題にしていきます。今回は特に、ツーリズム、テーマパーク、博覧会、美術展示といった領域に焦点を当てる予定です。

講義概要

教科書を使った一方的な講義ではなく、学生諸君にも多くのフィールドワークをこなしてもらい、発表やディスカッションを取り入れた授業にするつもりです。したがって、毎週授業に出席するだけでなく、各自が予めりサーチをおこなった上で、何らかの意見を持って教室に来ることが要求されます。週ごとの授業内容とテキスト、参考文献を記載したシラバスは、初回の授業で配布します。なお、英語圏文学特殊講義 a (前期) を履修している学生を歓迎します。

テキスト

教室で指示します。

参考文献

教室で指示します。

評価方法

レポート(2本)が、60%。授業中の発表や意見が40%の予定ですが、履修者数によって若干変更があるかもしれません。

受講者への要望

授業では積極的に発言して下さい。またフィールドワークは、授業時間以外に各自行ってもらうので、時間と多少のお金がかかることを了解して下さい。

年間授業計画

未定

科目名	英米文学文献研究 a・b
担当者	園 部 明 彦

講義の目標

昨年度の継続として本年度は象徴主義について考えてみたい。シモンズの「文学における象徴主義運動」、T.E. ヒュームの「ベルグソンの芸術論」、及びマラルメの象徴主義理論、K. パークの「象徴的行動としての言葉」を取り上げる。象徴主義の理論とその流れの理解と共に、さまざまな文献を正確に読みこなす英語力の養成を目標とする。

テキスト

プリント

参考文献

参考文献はかなりの数になるため、授業の際にプリントにして配布する予定。

評価方法

毎回 10 点満点としての評価の合計を年間の成績として出す。従って、欠席は非常に不利になる。

受講者への要望

遅刻ほど周りに迷惑をかけるばかりでなく、授業に対する意欲を失わせるものはない。例年どおり、遅刻は絶対に認めない方針である。

年間授業計画

1. 「文学における象徴主義運動」より
低級な道化
2. 即興詩人
3. パルナシアン
4. 秋の歎き
5. 局限される行動
6. 文学の進化
7. 自然のままの素材
8. 詩人の富
9. 魂の高揚
10. 「ベルグソンの芸術論」より
生の志向
11. 持合せの知覚
12. 行動と直観
13. 視覚にあらわれる幻
14. 隠喩
15. 直覚の型
16. ベルグソンの行動理論
17. 具体的なテーブル
18. 鋼鉄のバネ
19. バジルの鉢

20. 諸情緒の最小公分母
21. 実在との接触
22. 「象徴的行動としての言葉」より
その一
23. その二
24. まとめ

科目名	英米の社会と思想 a・b
担当者	荻 間 寅 男

講義の目標

ジェントルマンとアマチュア主義により、代表されるアングロ・サクソン文化の特質を、その起源から歴史的に把握すること。アングロ・サクソン文化は近代西欧を物質・精神世界の両面において先導し、宗教革命・科学革命・市民革命・産業革命・消費革命等を通して大きな社会・環境また文化のあり方の変革を成し遂げてきたのであるから、その社会・環境と思想・文化の両面における影響に留意して、その真のかたちを見極めること。

さらに、大西洋を挟んでアングロ・サクソン文化は成立するゆえ、ヨーロッパ大陸とその過去の環境・文化と切りはなさず、ヨーロッパ大陸とその背景地域の歴史、環境にも目を向ける。

テキスト

荻間寅男『イギリス精神史』

参考文献

- ・マッキンタイア『美徳なき時代』みすず書房
- ・ブルーム『アメリカン・マインドの終焉』みすず書房
- ・高橋浩一郎、朝倉正『気候変動は歴史を変える』丸善

丸善

- ・鈴木秀夫『森林の思考、砂漠の思考』NHK
- ・ポンティング『緑の世界史』朝日新聞
- ・星川清親『栽培植物の起源と伝播』二宮書店
- ・ゾイナー『家畜の歴史』法政大学出版社

評価方法

学期末の指定した文献についてのレポートを基本とするが、学期中に数点の小レポートを課し、読解・論理・構成力の増進をはかる。

自分の考えを論理的かつ説得的に示すレポート、すなわち、よくアーギュメントされたレポートを優とする。

受講者への要望

毎回英文資料を配布するゆえ、積極的に、問題意識をもって参加して欲しい。

年間授業計画

(前期)

1. 英米思想と西欧精神
2. 先住民とローマ人
3. アングロ・サクソン人の来島
4. キリスト教の渡来と普及

5. ノルマン人の王朝
6. ルネッサンスと宗教改革
7. イギリス宗教改革 中道の教会へ
8. エリザベス朝文化
9. フランシス・ベーコンと科学革命
10. トマス・ホブス
11. ジョン・ロックと社会契約説
12. まとめ

(後期)

1. ニュートンと王立協会
2. ヒュームとスミス
3. 産業革命と功利主義
4. 18-9世紀の宗教運動
5. 初期社会主義・進化論・パブリック・スクール
6. 消費社会と唯美主義
7. 世紀末 アイルランドと南アフリカ
8. 大衆社会と分析哲学
9. アメリカ植民地 トクヴィルとデモクラシーの逆説
10. プラグマティズムと工業文明の勃興
11. 膨張するアメリカと亡命知識人
12. まとめ

科目名	英米の政治と経済 a・b
担当者	宮川 淑

講義の目標

科目名は「英米の政治と経済」だが、本講では、近代化の始まる 16 世紀から現代までのイギリスの政治と経済が対象となる。

講義概要

1、近代化の始期（中央集権国家体制へ、市場経済の時代へ）2、市民革命の時代（国家主権をめぐる内乱、資本主義経済へ）3、市民社会（ホブズ・ロックの市民社会論、スミス経済学、アメリカ植民地の独立）4、産業革命当時の政治と経済（民衆の生活状態、政治改革）5、労働党政権の時代（産業国有化と福祉国家の展開、イギリス病へ）6、サッチャー政権、7、労働党ブレア政権の順で講義する。前期 a は 18 世紀前半まで、b はそれ以後。

テキスト

特定のテキストは使用せず、授業のつど資料を配付する。

参考文献

- 世界歴史体系『イギリス史』2、3、（山川出版社）
 中村英勝『イギリス議会史』（有斐閣）
 宮川淑『西洋経済史』（法学書院）
 宮川淑『地元利益定数は憲法違反』（アストラ）
 小笠原欣幸『衰退国家の政治経済学』（勁草書房）

評価方法

前・後期の 2 度の定期試験に平常の出席状況を加味して評価する。

受講者への要望

新聞の政治、経済欄を読むこと。

年間授業計画

- 第 1 章 近代化の始期、ジェントルマンの台頭、英国国教会の成立、チューダー朝までの議会など、中央集権国家体制の成立について。
- 第 1 週の後半部分を扱う。
- 重商主義について、16、17、18 世紀の貿易中心の重金主義、貿易差額主義、産業保護主義の 3 段階の説明。
- エンクロウジャーについて、その意義、進展状況、世論の反応等。次週へ継続する。
- 先週からの継続で、エンクロウジャーに対する農民の対応、政府のエンクロウジャー対策について。
- 近代化過程のうち工業部門の説明に入る。具体的にはイギリスの国民産業となる毛織物工業の成立過

程と政府の統制政策について説明する。

- マニュファクチャー（工場制手工業）の特徴と 16～17 世紀当時のイギリス経済全般について。
- 第 2 章 市民革命の時代。国家主権をめぐる内乱、前期スチュアート朝と議会。
- 政体論争 - 混合王制が議会主権かの論争、インディペンデントとレヴェラーズの選挙権論争について。
- 市民革命期の経済問題を扱う。私有財産制の成立、営業の自由の原則成立等。先週からの継続。
- 先週からの継続。
- 第 3 章 市民社会。トマス・ホブズ、ジョン・ロックの市民社会論について説明する。
- アダム・スミスの経済学の解説。
- イギリス領アメリカ植民地の独立が、本国イギリスにとっても政治的・経済的意味を考える。
- 第 4 章 産業革命当時の経済と政治。民衆の生活状態、労働者階級の対応等。
- 労働組合の成立、工場法による労働者保護等の説明。
- 政治改革としてのチャーティスト運動、女性参政権要求運動、小選挙区制と政治腐敗防止法の成立等。
- 先週からの継続。
- 第 5 章 労働党政権の時代。産業国有化と福祉国家政策の展開、イギリス病の分析。
- 第 6 章 サッチャー政権以後。第一期（1979～83）第二期。
- サッチャー政権第三期およびメイジャー政権。
- 労働党ブレア政権の成立。1997 年下院議院選挙。
- ブレア政権の地方分権政策。北アイルランド問題。
- ブレア政権による上院改革。

科目名	英米の歴史 a・b
担当者	佐藤 唯行

講義の目標

(前期) ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつつきたユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究(多数派英国人側に視点を置いた英国史研究)の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。

(後期) 植民地時代から現代にいたるアメリカ合衆国史を通史的に展望する。政治史・経済史のみならず、女性史・社会史の研究成果もとり入れて講義を行なう。

講義概要

前期のテーマは、「ユダヤ人問題の視点からイギリス史を見直す。」前期は下記二冊の「テキスト」にそって授業を行なう。後期のテーマは「アメリカ合衆国の通史。」毎回、完全に文章化されたレジメを配布予定。

テキスト

『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995年)講談社選書 1500円

『アメリカ・ユダヤ人の経済力』佐藤唯行(1999年)PHP新書 657円)

評価方法

評価は前後期各1回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持込み可。

年間授業計画

- 1.(ユダヤ人金融の潜在的機能) 中世英国ユダヤ人の最大の経済活動である金融業が英国封建王政の基盤を切り崩す機能を果たしてきた事を史料的に解明し、1290年に行われたユダヤ人追放の歴史的意義を探る。
- 2.(英国ユダヤ人史の中間時代) 1290年の全面的ユダヤ人追放から1656年に再入国が許されるまでの366年間、法的に入国を許されていなかったはずのユダヤ人の足跡を追い、「隠れユダヤ教徒」という特異な存在の姿を解明する。
- 3.(千年王国思想とユダヤ人再入国) ピューリタン内部のセクト、独立派、第五王国派の中心的思想であった千年王国思想がクロムウエル政権下の1656年に「ユダヤ人再入国」を実現する上で果たした役

割を検証する。

- 4.(17世紀英国のユダヤ人社会) 17世紀後半から始まる経済史上の所謂「商業革命」の展開過程の中で、ユダヤ人商業資本が英国の外国貿易全体の中で如何なる位置を占めたのか、また彼等の法的地位の国際比較も行なう。
 - 5.(18世紀英国のユダヤ人社会) 上層、中流上層のユダヤ人の中で18世紀後半に顕著に進展した英国人地主貴族社会への同化現象を検討し、当時のヨーロッパで比類の無い開放性を示した近代英国地主貴族社会の特質を解明。
 - 6.(19世紀英国のユダヤ人社会) ドイツ系ユダヤ人移民の大量流入によって18世紀末から19世紀初めにかけて首都ロンドンで深刻化した貧民問題の打開をめざした移民独自の主体的とりくみについて明らかにする。
 - 7.(世紀転換期のユダヤ人社会) 1880年代から始まる推定30万人もの貧しい東欧ユダヤ人移民の英国流入という未曾有の危機の中で発生した移民排斥論、反ユダヤ暴動のメカニズムを解明。
 - 8.(20世紀前半のユダヤ人社会) 両大戦間期の英国で反ユダヤ主義を標榜した黒シャツ団などの英国ファシスト勢力との緊張関係、ナチス政権下からの亡命ユダヤ人の受け入れ政策(特にキンダー・トランスポート)を解明。
 - 9.(現代英国のユダヤ人社会) ヨーロッパで三番目に大きなユダヤ人社会に成長した現代英国ユダヤ人社会が抱える今日の諸問題について検討する。
 - 10.(アメリカ経済史の中のユダヤ人) 投資銀行業界を二分する勢力のひとつであったドイツ系ユダヤ人と映画産業を築いた東欧系ユダヤ人が果たした役割をアメリカ経済史の中で検証する。
 - 11.(現代アメリカユダヤ人の経済力の実像) これまで学問的議論の対象として忌避されてきたユダヤ人の経済力、とりわけ、彼等の最大の蓄財源となった不動産開発・投資について検証する。
 - 12.(ウォール街のユダヤ人) 1980年代のウォール街で最大の収益源となったM&A アドヴァイザリー業務に如何にしてユダヤ人達が頭角をあらわしたのか、また90年代のヘッジ・ファンドにおける彼等の活躍を辿る。
- (後期)
13. アメリカ史の特質として、封建制の欠如、広大な自由地の存在、セクションの多様性、移民が果たした役割について概説する。
 14. イギリス領北米植民地の建設から、本国イギリス

に対する植民地勢力の反抗の背景、黒人奴隷制度の確立について考える。

15. アメリカ独立革命の経過、世界史的意義、奴隷制とのかかわりについて考える
16. ジェファソン政権の内政と外交、1812年戦争の歴史的意義、コモンマンの台頭と政治の民主化に象徴される「ジャクソニアン・デモクラシー」について考える。
17. 1840年代から始まる合衆国の領土的膨張と南部セクショナリズムの台頭について考える。工場制度の出現、労働者階級の成立、労働運動の始まりについても学ぶ。
18. 奴隷制廃止運動と南北戦争について学ぶ。
19. 南北戦争終了後から19世紀末にいたる、アメリカ社会史上「金ピカ時代」とよばれる物質主義と金権政治が横行した時代の特徴を学ぶ。
20. フロンティアの消滅、メガロポリスの形成、革新主義運動の特徴、第一次大戦へのアメリカ参戦について考える。
21. 1920年代の「繁栄」の中で展開した農村的アメリカと都会的アメリカのせめぎあいについて考える。大恐慌の到来とニューディール政策の成果と遺産について学ぶ。
22. 第二次大戦の勃発とアメリカの参戦、大戦下の国内状況、戦時外交の展開について考える。朝鮮戦争と国内の冷戦である「赤狩り」についても検討する。
23. 1950年代の経済成長の結果出現した「豊かな社会」とベビーブームについて考える。ベトナム戦争と公民権闘争についても学ぶ。
24. 石油危機とアメリカ製造業の衰退、ウォーターゲート事件による「帝王的大統領制」の終末、マイノリティー・グループの地位向上を求める動向について述べる。

科目名	英米事情 a
担当者	(前期) E . カーニィ

講義の目標

This series of lectures aims to offer as much background cultural material to the British and their way of life as is possible in the time available.

講義概要

History, religion, geographical and climatic factors, are some of the things that will introduce this course. Then we shall try to cover the legacies of "Empire and the Victorian Period". We will study the separate ten-year periods from the fifties to the present in light of how they have affected standard British tradition. We will go on to look at the character of the individual, humour, language, and daily life activities.

テキスト

Text will be in the form of prints selected for each lecture. Pieces from John Farman's 'Very Bloody History of Britain', is one example. There will also be at least one 'relevant' good quality cartoon to go with each lecture.

参考文献

Students should be willing to read up the relevant background material to the items introduced in each lectures. Students who can submit intelligent comments on the material will be awarded bonus points that can supplement and improve their grade.

評価方法

Grading will be in the form of quizzes and a final term test.

年間授業計画

- 1 . Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given.
- 2 . Geographical and climatic coverage and their effects on the life and habits of the people. Historical outline.
- 3 . Language and dialects around Britain. The canal system. Relevant cartoon.
- 4 . Humour and the British character. Humour and media. Relevant cartoon.
- 5 .The 1950s.Britain and the world. Rock and Roll is

born. The Queen. Everest conquered. Cartoon.

6 . The 60s.Boomingeconomy. The Beatles. Swinging London. Mini-skirts and mini-cars. Mods & Rockers. Cartoon.

7 .The 70s. Oil shock. Hippie revolution. Changes in social and traditional attitudes. Thatcherism. Cartoon.

8 . The 80s. War. The continuing "Troubles" of Northern Ireland. Punks and Skinheads. Cartoon.

9 . The 90s. The Yuppies. The New front. Naziism. The Tax Riots. Cartoon.

10 . Youth. Trends in music and drug culture. The homeless problem. Social changes. Cartoon.

11 . Education, class, Royalty(scandal)and pomp and circumstance. Cartoon.

12 . Daily life. Leisure and sport. Afternoon tea. The various festivals. Traditional legacies. Cartoon.

科目名	英米事情 b
担当者	(後期) N . H . ジョスト

講義の目標

This lecture series aims to offer an overview of American culture, history, and current events. It will look at some of the main ideas or notions that have helped create the American fabric, and show how certain historical events have shaped American thinking.

講義概要

All lectures will be conducted in English and will consider topics related to the United States. Its discovery, the development of the early settlements, the development of a constitution, the development of a central government, The Westward expansion, the presidency, current topics such as education, leisure, cooking, women's liberation--are the main topics of this course. The instructor will also give a short narrative (a short personal story) each week from his life experiences in the United States.

テキスト

No textbook is required for this class. Instructor will provide various handouts.

参考文献

Suggested reading will be introduced during the first lecture. Students are encouraged to study the topics in advance of the lectures.

評価方法

Evaluation will be based on a final examination and several quizzes.

受講者への要望

This course is for students who are interested in learning about the United States and improving the listening skills.

年間授業計画

- 1 . Course introduction. How to study for this class.
What outside materials to read.
- 2 . The early explorers to the Americas.
- 3 . The early settlers. Making a distinction between explorer and settler.
- 4 . The establishment of the early colonies, The Mayflower etc.
- 5 . The establishment of the first central government and The Westward Expansion

- 6 . An overview of the major recent historical events.
- 7 . An overview of some of the current cultural topics: food, travel, sports, hobbies.
- 8 . A look at music and television.
- 9 . A look at American values.
- 10 . A look at the Education system in the United States.
- 11 . A look at the American family.
- 12 . American holidays and Christmas.

科目名	英語圏文化特殊講義 a・b
担当者	福井嘉彦

講義の目標

キリスト教との出会いによって形成された欧米文化の基本を理解する。

講義概要

キリスト教化されることによって生じた欧米文化の様相を、時代に即して語る。

テキスト

殊になし

参考文献

講義の際取り上げる

評価方法

授業への積極的参加による出席。身体だけ教室に在る場合は評価しない。レポート等の提出物の内容評価。2回の筆記試験による評価等。

受講者への要望

第一回目の授業は必ず出席し、その際要求された課題を修めて履修許可を受けること。ただしその場合も二回目以後の授業を欠席した時は許可は取り消す。

年間授業計画

(前期) <a>

1. 概要説明。日本人にとっての宗教と一神教について。
2. パルテノン神殿とエルサレムの神殿
3. コンスタンチヌスとケルト
4. アルフレッドの時代
5. カロリング・ルネッサンス
6. ハインリッヒ四世とグレゴリウス七世
7. ウィリアム一世からヘンリー二世まで
8. ドナティスト論争とグレゴリウス改革
9. 異端者たちの群
10. 百年戦争と異端者ジャンヌ
11. レコンキスタとリチャード王
12. 聖地を求める巡礼達

(後期)

1. 教皇の栄光と下降
2. インターメッツォ
3. インターミッション
4. 人文主義者たち
5. ここに立つルター
6. ジュネーブの人
7. ヘンリー父子

8. チューダー王家の三君主
9. 国王の処刑
10. 国王の交替からオーガスタン時代へ
11. 友愛の森を求めて
12. エピローグ

科目名	英米文化文献研究 a・b
担当者	町田喜義

講義の目標

コミュニケーションと文化に係わる様々な要因の連鎖を学習する。

講義概要

コミュニケーションと文化、文化の影響、理論から実践へ、そして知識の学習から行動へ、などの内容を扱う。

テキスト

Samovar, L. A. and R. E. Porter, *Communication Between Cultures*, 3d. ed. (Wadsworth Pub. Comp. 1995)

参考文献

多数あるので、読み進めながらその都度明示する。

評価方法

前・後期それぞれ：出席（20％）、発表（40％）、レポート（40％）

受講者への要望

この科目は受講生数が35名と上限人数が決められているので、希望者が多数の時は（まずあり得ないと思うが）抽選によって受講を決定するので、第1回目の授業には必ず出席すること。

年間授業計画

（前期）

1. プロローグ
2. Intercultural Communication
3. Discussion
4. Communication
5. Discussion
6. Culture
7. Discussion
8. Cultural Diversity in Perception
9. Discussion
10. The Deep Structure of Culture
11. Discussion
12. 前期まとめ
13. Language and Culture
14. Discussion
15. Nonverbal Communication
16. Discussion
17. Cultural Influences on Context: Business
18. Discussion
19. Cultural Influences on Context: Education

20. Discussion

21. Accepting Differences and Appreciating Similarities

22. Discussion

23. 後期まとめ

24. エピローグ

科目名	国際政治論 a・b1
担当者	竹田 いさみ

講義の目標

本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にたとえれば、材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶことになります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法（分析枠組み）に相当します。

講義概要

本講義では指定資料集、参考文献、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うことになります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を身につけることになります。メディアで取り上げられる国際問題を適宜取り上げ、短い解説を行うこともあります。そのため、講義の順番は部分的に変更することがあります。

テキスト

講義用資料集

参考文献

- 有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻（東京大学出版会、1989）
- ヘドリー・ブル『国際社会論：アナキカル・ソサイエティ』（岩波書店、2000）
- 高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』（中央公論社、1966）
- Josephy Nye, Jr., Understanding International Conflict, Second Edition (New York : Longman, 1997)
- 田中明彦『新しい「中世」：21世紀の世界システム』（日本経済新聞社、1996）

評価方法

評価は定期試験の成績を基本としますが、レポートもしくは中間試験を実施して、最終的な評価をします。

受講者への要望

私語などで警告を受けるとイエロー・カードが1枚。3枚集めると退場となり、翌年に再挑戦となります。

年間授業計画

第1週

冷戦後の世界（資料集：1、4頁）/ 国際関係を見る眼：木・林・森
国際関係の世界：戦争と平和（伝統的問題）/ 繁栄と貧困（南北問題）/ 世界経済ネットワーク、開発・環境・生存

第2週

国際関係の理論・モデルとは何か：物理学・経済学・政治学・文学（ハレー彗星・ケインズ・キッシンジャー）
国際関係論：世界大戦の落とし子
（資料集：7頁）

第3週

利害の調整：有限の世界、無限の欲望
（資料集：21-27頁）
政治過程：権力 + 正統性 = 権威
（資料集：47-48頁）

第4週

人間・政治・権力：ホブズ、グロティウス、カント（資料集：52-54頁）

第5週

国際関係：3つのイメージ：現実主義・多元主義・グローバリズム
意味・単位・構造・過程（資料集：59頁）

第6週

リアリズム（現実主義）：トゥキユディデス～E.H.カー（資料集：67-71頁）
E.H.カー：ユートピアニズム vs リアリズム
（資料集：7-11頁）
勢力均衡論（資料集：91-94頁）

第7週

リアリズム（現実主義論）：ヨーロッパ古典外交の特色
ウィーン会議：「会議は踊る」、「会議はなぜ踊ったのか」メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー

第8週

リアリズム（現実主義）：ビデオ教材「会議は踊る」

る」

第9週

多元主義・相互依存論

(資料集：58、118-142頁)

トランスナショナリズム：EUの出現・パワー論
の補完

第10週

グローバリズム・従属論

(資料集：59、143-171頁)

反欧米思想・南の主張・世界システム

第11週

国際政治と利害調整メカニズム

第12週

まとめ

科目名	国際政治論 a・b2
担当者	金子 芳 樹

講義の目標

国際社会で起こっている様々な問題を理解し、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とする。国際政治に関する基礎知識と分析枠組みの習得、ならびに他の学問（経済学、歴史学など）の成果をも踏まえた国際関係のダイナミクスの体系的把握を目指す。

講義概要

本講義では、現在世界各地域で起きている種々の問題を取り上げ、国際政治の基礎的理論の解説を織り交ぜながら具体的かつ多角的に分析・解説し、国際関係の包括的理解を促す。今年の講義では、世界各地域の国際関係の特徴を浮き彫りにし、さらにそれらの相互の関係を明らかにするために、ヨーロッパ、アジア、中東の地域に大まかに分けて分析する。

なお、授業は可能な限りプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜挿入する。

テキスト

特に指定しないが、各授業ごとに主要な参考資料を紹介する。

参考文献

田中明彦『新しい中世 - 21 世紀の世界システム』（日本経済新聞社、1996 年）

長谷川雄一・高杉忠明編著『現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、1998 年）

山本信人ほか『東南アジア政治学 - 地域・国家・社会・ヒトの重層的ダイナミズム（補訂版）』（成文堂、1999 年）

小杉泰編著『イスラームに何がおきているか - 現代世界とイスラーム復興』（平凡社、1996 年）など

評価方法

レポートを 1 回提出したうえで学年末試験を受け、それぞれに一定水準以上の成績を納めることが単位修得の条件。レポートは、指定されたテーマに沿って 2 千字以上、ワープロを用いて書き、e-mail で提出する。

年間授業計画

1. 概論：国際政治の捉え方 - 国家と国際社会
2. 国際政治のフレームワーク(1) - 近代主権国家システムの成立
3. 国際政治のフレームワーク(2) - イデオロギー対立から相互依存へ

4. ヨーロッパの国際政治(1) - 冷戦構造の形成と変容
5. ヨーロッパの国際政治(2) - マルクス・レーニン主義の理論と現実
6. ヨーロッパの国際政治(3) - 冷戦崩壊の構造
7. アジアの国際政治(1) - ナショナリズムの展開
8. アジアの国際政治(2) - 開発体制の理論と構造
9. アジアの国際政治(3) - 多元的社会の構造と変容
10. 中東の国際政治(1) - 宗教対立の起源
11. 中東の国際政治(2) - イスラームの挑戦
12. 中東の国際政治(3) - 民族、宗教、石油、戦争（テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢に変化が起きた場合には適宜取り上げる。）

科目名	国際関係史 a・b
担当者	有賀 貞

講義の目標

- 1 20世紀国際関係史全般に関する基本的知識を提供し、国際関係の歴史の変遷の理解に役立てる。
- 2 履修者が国際関係史に関連する日本語・英語の基本的語彙を習得できるようにする。
- 3 いくつかの英文外交文書を読み、その意味を検討する。

講義概要

前期には19世紀国際関係の概観から太平洋戦争の始まりまでを、後期にはそれ以後近年に到るまでを扱う。講義は英語で行い、日本語で補足説明する。講義の英文概要は前もって配布する。年間計画の中の諸項目の題には若干の変更があるかもしれない。

参考文献

参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房) カー『両大戦間における国際関係史』(弘文堂) 入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会) ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版) 細谷千博『日本外交の軌跡』(NHKブックス) W.R Keylor, *The Twentieth-Century World* (Oxford university Press, 3rd edition)、石井修『国際政治史としての20世紀』(有信堂) など。

評価方法

前期後期とも、期末に試験を行うほか、レポートを1回提出する。評価は試験とレポートとを総合して行う。レポートへの配点は40%程度であるから、レポートを提出しないで合格の評価を得ることは事実上不可能である。

受講者への要望

受講者にはかなりの量の英文を読む忍耐と英語学科学生に期待される程度の読解力を持つようになることが期待される。

年間授業計画

(前期)

- 1 . Introduction
- 2 . The Characteristics of 19th-Century International Relations
- 3 . Politics of Imperialism around the Turn of the Century
- 4 . The Outbreak of the First World War
- 5 . The Entry of the United States and the Bolshevik

Revolution

- 6 . The Versailles Treaty and Postwar Confusion in Europe and the Middle East
- 7 . The Washington Conference and the Asia-Pacific International Order
- 8 . The Return of Relative Stability in Europe
- 9 . The Great Depression and the Collapse of International Political Stability
- 10 . The Berlin-Rome Axis and the Failure of the Appeasement Policy
- 11 . The Outbreaks of the Sino-Japanese War and the Second World War
- 12 . The Road to Pearl Harbor

(後期)

- 1 . Wartime Diplomacy of the Three Major Allied Powers
- 2 . The End of the War and the Development of the Cold War
- 3 . Stabilized Europe and Turbulent East Asia
- 4 . Post-WW South and Southeast Asia
- 5 . The Foreign Policy of the Post-Stalin Soviet Union
- 6 . The Retreat of European Imperialism from the Middle East and Africa
- 7 . Progress in Economic Integration in Western Europe
- 8 . The Vietnam War and the Reorientation of US Foreign Policy
- 9 . The Fourth Middle Eastern War and After
- 10 . The "New Cold War" and the Prosperity of the Capitalist World
- 11 . The Collapse of the Old Order in Eastern Europe and the Soviet Union
- 12 . International Relations in the post-Cold War Era

科目名	国際開発協力論 a
担当者	(前期) 竹田 いさみ

講義の目標

本講義では、英語圏の国際関係を、国際開発と国際協力という分野から考察していきます。オーストラリアの対アジア関係を手掛かりに、先進国(日本や欧米)と途上国(アジア諸国など)の関係を検討し、途上国が抱える問題点を受講生と共に考えたいと思います。問題意識としては、日本外交の座標軸が底流にあります。オーストラリアそのものを扱う授業としては、国際関係論特殊講義(経済学部開設の地域経済論との合併)があります。

講義概要

テキスト、参考文献、ビデオを使用しながら、途上国問題の現状、先進国が途上国をどのように捉えてきたのか、さらに先進国の途上国政策などを検討します。政策領域は、開発援助(ODA)、人の移動(移民・難民)、地域協力システムなどです。テーマ研究を設け、受講生による単独、もしくは小グループでの発表を予定しています。受講生の規模が小さい場合は、さまざまなオプションを設定して授業を運営することになるでしょう。このため授業の年間予定に関しては、受講生と相談の上、大幅な変更もありません。

テキスト

竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書、2000年)

参考文献

外務省『外交青書2000』(大蔵書印刷局、2000年)

竹田いさみ『移民・難民・援助の政治学』(勁草書房、1991年)

竹田いさみ・森健編『オーストラリア入門』(東京大学出版会、1998年)

評価方法

評価は定期試験の成績を基本としますが、テーマ研究の発表やレポートによって最終評価することも考えられます。受講生の人数によって評価システムは変わります。

年間授業計画

1. 本講義の全体像 / オーストラリアのアジア関与・政策 多文化社会 / ミドルパワー (序、1章)
2. オーストラリアのアジア関与・政策 東チモール内戦 / ハワード・ドクトリン (6章4節)
3. ミャンマー / 北朝鮮 (6章4節)

4. カンボジア和平 (6章3節)

5. アジアとの一体化 / APEC / ケアンズ・グループ (6章3節)

6. ベトナム難民 (6章2節)

7. アジア系移民 (6章2 - 3節)

8. ミドルパワー論 / 第3世界外交 (6章1 - 2節)

9. 冷戦下のアジア政策 / 軍車関与 (5章3節)

10. テーマ研究 ODA

11. テーマ研究 人の移動

12. まとめ、討論

科目名	国際開発協力論 b
担当者	(後期) 金子 芳 樹

講義の目標

国際開発協力の枠組みならびにその実態について分析・解説することを目的とする。開発と国際協力の2つをキーワードに、先進国と発展途上国との二極構造を維持しつつ、同時に相互依存を深めていく現代国際社会の諸相の一端を明らかにする。

講義概要

三つの柱を立てて解説する。まず、「アジアの開発体制」では、「開発」という概念を軸に国づくりを行ってきたアジア諸国の政治・経済・社会システムについて、つぎに、「開発援助の政治経済学」では、先進国の開発行政の構造と問題点について、そして、「NGO/NPO と開発協力」では、近年途上国で主流となってきた NGO/NPO 中心型の開発協力の実態とその捉え方について、順を追って説明していく。

なお、授業は可能な限りプレゼンテーション・ソフトとビデオ資料を使って行う。

テキスト

特に指定しないが、各授業ごとに主要な参考資料を紹介する。

参考文献

東京大学社会科学研究所『20世紀システム・4：開発主義』（東京大学出版会、1998年）

川田順造ほか編『岩波講座：開発と文化（全7巻）』（岩波書店、1998年）

重富真一編『国家とNGO：アジア諸国の比較研究（仮題）』（明石書店、2001年）

山本信人ほか『東南アジア政治学（補訂版）』（成文堂、1999年）

評価方法

レポートを1回提出したうえで学年末試験を受け、それぞれに一定水準以上の成績を納めることが単位修得の条件。レポートは、指定されたテーマに沿って2千字以上、ワープロを用いて書き、e-mailで提出する。

年間授業計画

1. 概論：開発と国際協力
2. アジアの開発体制(1) 開発体制の登場
3. アジアの開発体制(2) 開発体制の構造
4. アジアの開発体制(3) ケーススタディ：インドネシア
5. 開発援助の政治経済学(1) 政府開発援助

(ODA)とは

- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 6. 開発援助の政治経済学(2) | 援助行政の仕組み |
| 7. 開発援助の政治経済学(3) | 被援助国の受け入れ態勢 |
| 8. NGO/NPO と開発協力(1) | 開発 NGO/NPO の登場 |
| 9. NGO/NPO と開発協力(2) | 開発 NGO/NPO の機能と役割 |
| 10. NGO/NPO と開発協力(3) | ケーススタディ：バングラデシュ |
| 11. NGO/NPO と開発協力(4) | ケーススタディ：マレーシア |
| 12. 21世紀の国際開発協力 | 日本の役割
(テーマについては若干の変更があり得る) |

科目名	国際関係論特殊講義 a・b
担当者	森 健

講義の目標

この講義は、経済学部の「東南アジア・オセアニア経済論」との合併科目である。

世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もそれぞれの固有性を反映し、多様な形態を示す。しかし、このような多様な形態を持つ経済活動も深く観察すれば、その根本には各国に共通する普遍的な論理が働いていることが確認できる場合が多い。この講義では、日本経済との結びつきが強く、また、この2 - 30年の間に自由貿易主義と多文化主義社会化の政策を急速に進めてきたオーストラリアを取り上げ、この国がかかる政策変更を採用するに至った要因を分析する。

講義概要

近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力会議（APEC）の結成を主唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ多様な文化の維持、発展に努める国としてしられる。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する国であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、文化、政治・社会体制、経済条件など）から解明する。

テキスト

・竹田いさみ、森 健（編）「オーストラリア入門」東京大学出版会、1998年。および、これを補完するプリント（特に前期）。

参考文献

・ジェフリー・ブレイニー著、加藤めぐみ・鎌田真弓訳、「オーストラリア歴史物語」、明石書店、2000年。
 ・関根政美著、「多文化主義社会の到来」、朝日新聞社、2000年。
 ・竹田いさみ著、「物語オーストラリア」、中公新書、中央公論新社、2000年。

評価方法

前期：定期試験

後期：定期試験

受講者への要望

他の国の経験を知ることで、社会現象を多面的に、相対的に見る眼が養われること（複眼的思想）を期待しています。

年間授業計画

前期

1. ビデオ等を使ったイントロダクション
2. 講義内容の総括的な説明
3. 歴史（1）：囚人労働とステープル産業としての羊毛産業
4. 歴史（2）：流刑制度をめぐる問題
5. 歴史（3）：ゴールド・ラッシュとその影響
6. 歴史（4）：仲間主義、平等主義、綱領なき社会
7. 歴史（5）：1860年代から1880年代にかけての長期高度成長
8. 歴史（6）：1890年代の恐慌と連邦結成
9. 歴史（7）：保護貿易主義と中央集権的賃金決定制度
10. 歴史（8）：経済ナショナリズムの形成
11. 文化（1）：エトス、アイデンティティ、アボリジニ
12. 文化（2）：ヒーロー、文学テーマ

後期

1. 社会（1）：多文化社会化
2. 社会（2）：多文化社会化の悩み（1）
3. 社会（3）：多文化社会化の悩み（2）
4. 社会（4）：労働、社会制度
5. 政治（1）：政治構造と制度：80年代以前の基本政策
6. 政治（2）：80年代以降の政策変更
7. 外交・安全保障（1）：冷戦時代
8. 外交・安全保障（2）：冷戦末期以降
9. 経済構造の特色：輸入代替工業化とオランダ病
10. 経済政策
11. 貿易と投資
12. 日豪経済関係

科目名	国際関係論文献研究 a・b1
担当者	阿部純一

講義の目標

英語文献を通じて、米ソ冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきた国際関係の構造変化を検討する。

講義概要

米ソ冷戦が終結して十年を経過した現在、政治・経済・軍事のあらゆる点でアメリカが突出した状況が定着しつつある。しかし、アメリカのリーダーシップがヨーロッパや日本、中国などとの協調を必要としていることも事実である。かかる現実を踏まえ、冷戦後の国際関係の構造変化をどう捉えるべきか、また現実には起きている国際関係の諸問題への対処の仕方がどう変化してきているか、等の問題について最新の文献をもとに議論する。

テキスト

アメリカの外交専門誌記事、政府機関・関連シンクタンクのレポートなどのコピーを配布する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

評価方法

成績は授業時の学生による報告（詳細なレジュメを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件となる。

受講者への要望

受講上限人数 35 名。これを超えた場合、関連科目（国際関係論、専門講読）受講者を優先する。出席率 70%以下は不可。

年間授業計画

テキストとして使用する文献が未定のため、開講時に通知する。

科目名	国際関係論文献研究 a2
担当者	(前期) 金子 芳 樹

講義の目標

現在の国際社会の基本的単位となっている国民国家 (nation state) のあり方について考察する。本授業では、国家の概念がもともと多岐・曖昧であった東南アジア地域を取り上げ、この地域の人々が国民国家主体の世界システムに適合すべく、新たな国家の形態や地域システムをいかに形成してきたかを検討する。

講義概要

テキストを読み進めることを中心に、東南アジア地域の国民国家形成における諸問題について検討する。履修者は指定されたテキストのパートを熟読したうえで、さらにその他の文献・資料で関連知識を補強しながら報告を行う。英語による要約を求める場合もあり得る。また、履修者全員に指定したテーマに関するレポートの提出を定期的に(月に1・2回程度)求める。

テキスト

Nicholas Tarling, *Nations and States in Southeast Asia*, Cambridge University Press, 1998.
(テキストは一括購入するので受講者が事前に準備する必要はない)

参考文献

山本信人ほか『東南アジア政治学：地域・国家・社会・ヒトの重層的ダイナミズム(補訂版)』(成文堂、1999年)

白石隆『海の帝国：アジアをどう考えるか』(中公新書、2000年)

Kevin Hewison, Richard Robison, Garry Rodan(eds.), *Southeast Asia in the 1990s : Authoritarianism, Democracy & Capitalism*, Allen & Unwin 1993.

評価方法

出席率、報告内容、討論への参加状況、レポート内容に基づいて総合的に評価を行う。

受講者への要望

出席を重視する。受講者数の上限を設定する。

年間授業計画

(テキストのパートごとに進める)

科目名	国際関係文献研究 b2
担当者	(後期)竹田 いさみ

講義の目標

第1の目標は、英語圏の国際関係を、雑誌論文や評論を手掛かりに分析・解釈し、現在進行形の国際関係を討論することです。第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。第3に、この授業は参加型であり、全員が積極的に発言する状況が生まれることです。

講義概要

英語圏の文献として、Foreign Affairs, Foreign Policy, International Affairs, The Economist, Far Eastern Economic Review, Asia Week, Asia Yearbook などを取り上げ、毎回の授業でレポーターを決め、個人もしくはグループで指定文献について発表します。

テキスト

上記の雑誌論文など

参考文献

『朝日現代用語・知恵蔵 2001』(朝日新聞社 2000年)などの現代用語事典

評価方法

出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備状態などで評価します。受講生の人数によって評価システムは変わります。

受講者への要望

参加型の授業であり、物理的に出席できない学生は履修しないほうがよいと思います。

科目名	異文化間コミュニケーション論 a・b1
担当者	石井 敏

講義の目標

本講義には 3 種類の基本目標がある。第 1 の目標は、日本社会に根強い欧米文化崇拜意識を異文化間の平等意識に変革することである。第 2 は、欧米文化移入・模倣の一方方向コミュニケーションの態度を異文化間の平等意識にもとづく双方向コミュニケーションの態度に転換することである。そして第 3 の目標は、上の 2 目標を達成するために不可欠な条件として、日本社会・文化に対する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を養成し、健全な異文化間コミュニケーション能力の基礎を築くことである。

講義概要

本講義の総合的内容は、文化の概念、コミュニケーションの概念、文化とコミュニケーションの相関関係、そして日本社会における研究・教育上の現状と今後の課題である。具体的には、「文化とは」、「文化の差異」、「コミュニケーションとは」、「ことばとコミュニケーション」、「ことばをこえたコミュニケーション」、「異文化と人間関係」、「異文化と社会関係」、「異文化理解とコミュニケーション技能」、そして「異文化コミュニケーション教育の課題と展望」である。

テキスト

石井敏他『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣

参考文献

- ・石井敏他『異文化コミュニケーション』有斐閣
- ・石井敏他『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣
- ・石井敏他『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣

評価方法

多数の受講者が予想されるため、期末試験の成績による。

受講者への要望

受講者は英語でノートをとることが多いため、授業計画に従って予習をし、必要な辞書や参考書を持参すること。万一欠席をする場合には、友人の協力を得て、欠けた部分の補充を早目にすること。

年間授業計画

1. 一般的導入と受講上の注意。文化、世界観、価値観（教科書 2～7 頁）

2. 文化相対論、サブカルチャー・共文化、時間、空間（教科書 8～17 頁）
3. 宗教、人間観、儀礼、倫理観、（教科書 18～25 頁）
4. 法意識、イェ、生死観、個人主義と集団主義（教科書 26～33 頁）
5. 達成と生得、偏見、自民族優越主義、ステレオタイプ（教科書 34～41 頁）
6. タブー、コミュニケーション、コード、意味づけ（教科書 42～51 頁）
7. フィードバック、知覚、認知、感情移入、自己概念（教科書 52～59 頁）
8. コンテキスト、コミュニケーション・レベル、コミュニケーション・パターン、言語と文化（教科書 60～69 頁）
9. 言語と思考、言語相対説、言語メッセージ、レトリック（教科書 70～77 頁）
10. メタファー、スモール・トーク、ユーモア、敬語（教科書 78～85 頁）
11. 婉曲表現、非言語メッセージ、身振り言語、近接学（教科書 86～95 頁）
12. 周辺言語、間、沈黙、ハラ（腹）（教科書 96～103 頁）
13. 以心伝心、Pタイム・Mタイム、ガイジン（外人）カルチャー・ショック（教科書 104～113 頁）
14. 縁、和、家族形態、公と私（教科書 114～121 頁）
15. タテ（縦）とヨコ（横）、ウチ（内）とソト（外）、世間体、仲介者（教科書 122～129 頁）
16. 贈答、礼儀、ホンネ（本音）とタテマエ（建前）、義理と人情（教科書 130～137 頁）
17. なじみ、甘え、補完と対称、派閥（教科書 138～147 頁）
18. イノベーション、労使関係、交渉、稟議と根回し（教科書 148～155 頁）
19. 意思決定、葛藤、異文化経営、現地主義（教科書 156～163 頁）
20. 非関税障壁、国際報道、プロパガンダ、コマーシャル（教科書 164～171 頁）
21. リーダーシップ、マイノリティ、国籍、国際結婚（教科書 172～179 頁）
22. 外国人就労者、難民政策、異文化理解教育、コミュニケーション能力（教科書 180～189 頁）
23. 外国語教育、日本語教育、外国人教員、通訳・翻訳（教科書 190～197 頁）
24. 海外子女教育、帰国子女教育、海外留学、外国人

留学生（教科書200～207頁）

科目名	異文化間コミュニケーション論 a・b2
担当者	町田 喜義

講義の目標

異文化間コミュニケーション・プロセスに関わる複雑な要因の連鎖を理解し、自文化（あるいは自己）と異文化（あるいは他者）を客観的・相対的に分析し、説明できる能力を養い、各自のコミュニケーション行動の客観的指標の確立を図る。

講義概要

前期は『異文化間コミュニケーション論入門』とし、1960年代以降の異文化間コミュニケーション研究の成果をマクロに考察する。主として、文化（社会）とコミュニケーション - そこから派生する様々な概念とその連鎖 - を日本の文化に軸足を置きながら講義する。後期は『異文化間コミュニケーション論特殊講義』とし、カナダとの比較文化論の内容にする。

テキスト

印刷物、ビデオ、その他を使用。後期使用テキストは、開講後明示する。

参考文献

開講時に別紙配布する

評価方法

前期：論述試験；50%

後期：グループ・リサーチ・プレゼンテーション（後期）：20%

グループ・リサーチ・ペーパー（後期）：30%

受講者への要望

グループ活動には各自の「責任」と「義務」が要求される。

年間授業計画

1. プロローグ：担当者自己紹介、講義概要の説明、「異文化間コミュニケーション」とは何かを考える = 受講生の「異文化」体験の発表など。
2. 「文化」、「異文化」、「コミュニケーション」の概念
3. グループ討議の為に班編成、および討議（トピックはヒ・ミ・ツ?）
4. ビデオ映画：'Gung Ho'
5. 討議：日・米文化のコミュニケーション・ギャップについて
6. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（1）
7. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（2）
8. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（3）

9. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（4）
10. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（5）
11. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（6）
12. 前記のまとめ：比較文化論への誘い
13. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（1）
14. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（2）
15. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（3）
16. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（4）
17. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（5）
18. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（6）
19. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（7）
20. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（8）
21. グループ・リサーチ・プレゼンテーション
22. グループ・リサーチ・プレゼンテーション
23. グループ・リサーチ・プレゼンテーション
24. エピローグ：今後のコミュニケーション行動について

科目名	マス・コミュニケーション論 a・b
担当者	佐々木 輝 美

講義の目標

マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。

講義概要

本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデル及び効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。

テキスト

(前期)プリント

(後期)佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房、1996

参考文献

・岡崎篤郎 他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版、1992

・H.J.アイゼンク他著 岩脇三良訳『性暴力メディア』新曜社、1982

評価方法

定期試験による。出席は参考程度。

受講者への要望

60点以下は不可となりますので、毎回出席して授業内容をよく理解するよう心がけてください。

年間授業計画

<前期>

1. マス・コミュニケーションとは
2. コミュニケーションについての基礎知識(1) プロセスの概念について
3. コミュニケーションについての基礎知識(2) 意味はどこに存在するか?
4. コミュニケーションについての基礎知識(3) メディア接触について
5. マス・コミュニケーションのモデルについて(1) モデルの長所と短所
6. マス・コミュニケーションのモデルについて(2) マス・コミュニケーションの要素

7. ビデオ視聴&解説

8. マスコミ効果の概念について(1) 効果とは

9. マスコミ効果の概念について(2) 順機能と逆機能

10. マス・コミュニケーションと教育(1)

11. マス・コミュニケーションと教育(2)

12. 前期のまとめ

<後期>

1. マスコミの影響研究について(1) 弾丸理論

2. マスコミの影響研究について(2) 限定効果モデル

3. マスコミの影響研究について(3) 適度効果モデルから強力効果モデルへ

4. メディア暴力研究について(1) 研究の背景

5. メディア暴力研究について(2) カタルシス理論

6. メディア暴力研究について(3) 観察学習理論

7. メディア暴力研究について(4) 脱感作理論

8. メディア暴力研究について(5) カルティベーション理論

9. ビデオ視聴&解説

10. メディア暴力研究について(6) 4理論のまとめ(暴力番組の類型化)

11. メディア暴力研究について(7) メディア暴力への対応

12. 後期のまとめ

科目名	スピーチ・コミュニケーション論 a・b1, 2
担当者	板 場 良 久

講義の目標

スピーチ・コミュニケーションとは音声表現のことではありません。スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチという発話を人間関係のダイナミクスに投じることによってさらに次の発話が生み出されていく生きたプロセス、すなわち発話の人間の連鎖なのです。発話としてのスピーチとは、政治演説や結婚式での祝辞のようなものばかりではありません。プロモーション・ビデオや何気ない一言、時には意味ありげな仕草や沈黙さえも発話として機能しますので、これらもコミュニケーション・プロセスに投げられるスピーチの一種と言えないことはないでしょう。しかしこの講義では、言葉で構成され、あるまとまった時間を費やして発せられたスピーチを中心に考えてみたいと思います。その中で、英語スピーチの技術だけでなく、人間が発話をする理由や知恵、あるいは意味ある発話から切り離すことのできない文化的イデオロギーの作用などを学び取っていくことを目指します。

講義概要

考察するスピーチとしては主に英語スピーチを用います。講義の大半は平易な英語（英検 2 級程度）で行ない、その要約を次の講義の冒頭に日本語で行ないます。

テキスト

前期：プリント配布予定。 後期：未定（決まり次第お知らせします）

参考文献

『20 世紀の証言』（第 4 巻、アルク）を部分的に使用します。

評価方法

小テスト（不定期、予告なしで 2 回）70%

口頭発表（グループ単位）30%

受講者への要望

この講義で取り上げる問題を、単なる知識としてではなく、自分と深く関係のある問題として捉えるようにしてください。なお、英語での講義のため、集中力が普段よりも必要となります。したがって、聞き取りに集中している受講生の妨げとなる私語は厳しく取り締まります。

年間授業計画

・前期テーマ 「スピーチ・コミュニケーション

の技術」

スピーチ・コミュニケーション教育の意義

スピーチ教育

a. 英検のスピーチを考える

b. 英語スピーチ・コンテストを考える

ディベート教育

ディスカッション教育

オーラル・インタープリテーション教育

・後期テーマ 「スピーチ・コミュニケーション

批評」

各スピーチ・コミュニケーション教育法の有効性と問題点

スピーチ・コミュニケーションの理論

スピーチの分析法

スピーチの批評法

(さらに詳しい授業計画を 4 月中の講義で配布します。)

科目名	コミュニケーション論特殊講義 a・b
担当者	鍋倉健悦

講義の目標

- インターカルチュラル・コミュニケーション -
文化とコミュニケーションのかかわりについて学ぶことで、文化背景を異にする人々と相互理解を深めていくにはどうしたらよいかを学習しながら、また自文化についての知識も高めていく。

講義概要

異文化間コミュニケーションの背景と領域、言語と認識の関係、言語と行動のつながり、非言語コミュニケーション、カルチャー・ショック、そしてより効果的なコミュニケーションの仕方。

テキスト

鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』（丸善ライブラリー）

鍋倉健悦（編著）『異文化間コミュニケーションへの招待』（北樹出版）

参考文献

求めに応じて紹介する。

評価方法

未定（試験かレポートによる）

受講者への要望

特にはない。

年間授業計画

1. 当講座の概要説明
2. 国際人と国際化
3. コミュニケーションとは何か
4. 人間の体験的世界
5. コミュニケーションの種類
6. 異文化間コミュニケーションの歴史
7. 異文化間コミュニケーションが学問として成立した背景
8. 異文化間コミュニケーションとアメリカ
9. 異文化間コミュニケーションの種類
10. 文化とは何か
11. 文化とコミュニケーションのつながり
12. 言語とは何か
13. 言語行動と文化
14. 言語相対論
15. 英語と日本語の比較
16. 非言語コミュニケーションの概要
17. 非言語コミュニケーションの種類
18. 非言語コミュニケーションと文化のかかわり

19. 価値観とエスノセントリズム

20. カルチャー・ショック

21. カルチャー・ショックの緩和対策

22. 異文化適応訓練

23. 日本のコミュニケーションの再認識

24. より効果的な異文化間コミュニケーションに向けての提言

科目名	コミュニケーション論文献研究 a・b
担当者	佐々木 輝 美

講義の目標

以下を講義の目標とする。

- (1) プレゼンテーションを効果的に行うことができる
- (2) コミュニケーションの領域の専門雑誌を自分で検索できる
- (3) 実証的な調査研究の計画、実施および分析ができる
- (4) 異文化コミュニケーションの文献をよみこなすことができる

講義概要

およそ次の順序で講義を進めて行く。

- (1) 効果的なプレゼンテーションを身につけるために、スピーチ・コミュニケーションの文献を読み、実際にプレゼンテーション(日本語で 5 分程度、前期 1 回、後期 1 回の予定)の練習を行う。
- (2) コミュニケーションの領域にはどのような英文専門雑誌があるのかを学習し、それぞれの専門雑誌の特徴を理解する。
- (3) 学術論文の構成、調査票の作り方、統計分析の方法について学び、模擬的な実証研究を行う。
- (4) 良いコミュニケーターになるためにはどうしたらよいのかをテーマにして、異文化コミュニケーションの文献を読んで行く。

テキスト

Samovar, L.A.& Porter, R. E., *Communication between cultures*, (3rd ed.) Wadsworth, 1998.

参考文献

古田 暁 監修、石井敏 他著『異文化コミュニケーション(改訂版)』有斐閣選書、1996

評価方法

定期試験、レポート、グループ発表、平常点の総合評価を行う。

受講者への要望

発表が多い授業なので、十分な準備と積極的な参加を希望します。なお、この科目は受講者の上限(35名)が決められていますので、第 1 回目の授業で抽選を行います。必ず第 1 回目の授業に出席してください。

年間授業計画

<前期>

1. オリエンテーション

2. プレゼンテーションとしてのスピーチ(1) スピーチの構成
3. プレゼンテーションとしてのスピーチ(2) 各自のプレゼンテーションを行う
4. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について(1)
5. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について(2)
6. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について(3) グループ発表
7. 研究方法について(1) 学術論文の構成、仮説の立て方、調査票の作り方(班分け)
8. 研究方法について(2) 統計分析の方法 A
9. 研究方法について(3) 統計分析の方法 B
10. 研究方法について(4) コンピュータによる分析
11. 研究方法について(5) 調査の実施
12. 班別の実証研究の発表

<後期>

- 異文化コミュニケーションをテーマに、以下の内容を 1 日約 10 ページずつ読み、その内容について効果的にグループ発表を行う。
- 第 3 章(pp.56-86): Cultural diversity in perception : Alternative views of reality
- 第 4 章(pp.87-118): The deep structure of culture : Roots of reality
- 第 6 章(pp.147-174): Nonverbal communication : The message of action, space, time, and silence
- 第 10 章(pp.240-272): Accepting differences and appreciating similarities : A point of view

科目名	エッセイ・ライティングⅦ
担当者	P . マッケビリー

講義の目標

The purpose of this course is to help students improve their writing ability to write essays in a systematic manner. The course will allow students to improve their ability to write essays in a systematic manner. Students will begin with the basics such as paragraph writing and idioms and progress to persuasive writing and writing a research paper

講義概要

We will be using a student-centred writing textbook on the write Track which was designed for Japanese college students. The first part of the course deals with problem areas such as grammar second language learning strategies paragraph writing, and idioms. The second part of the course deals with journal writing letter writing intercultural issues, persuasive writing, and writing a research paper. Students can choose different tracks such as Academic, Business, Travel, Personal and open in accordance with their interests.

テキスト

On The Write Track by Raymond J. Shmer, PhD.
Published by Intercom, Ltd

評価方法

Students will be graded on attendance and classroom participation. Students will be expected to complete all assignments. There will be a midterm and final exam.

年間授業計画

- 1 . Lesson 1 -Diagnostic Questions
- 2 .
- 3 . Lesson 2 -Getting Started
- 4 .
- 5 . Lesson 3 -Dealing With Difficulties
- 6 .
- 7 . Lesson 4 -Paragraph Writing
- 8 .
- 9 . Lesson 5 -Getting on Track
- 10 .
- 11 . Lesson 6 -Idioms
- 12 . Lesson 7 -Journal Writing CMidterm

- 13 . Lesson 8 -Review
- 14 . Lesson 9 -Letter Writing
- 15 .
- 16 . Lesson 10 -Crossing Cultures
- 17 .
- 18 . Lesson 11 -Persuasive Writing
- 19 .
- 20 . Lesson 12 -Vocabulary Building
- 21 .
- 22 . Lesson 13 -Revising
- 23 . Lesson 14 -Writing a Research
- 24 . (Final Exam)

科目名	Conversation - 9
担当者	P . マッケビリー

講義の目標

This course will focus on developing listening strategies and critical thinking skills necessary to be affective in discussion and debate. The textbook deals with issues that are important in America today. Students should gain a greater understanding of American values and culture.

講義概要

The textbook units are based on radio broadcasts from National Public Radio's "All Things Considered" and "Morning Edition". Students will get many opportunities to give their opinions and participate in discussions. In addition, the instructor will sometimes provide handouts of newspaper articles on interesting events and topics.

テキスト

Consider the Issues, 2nd Edition, by Carol Ann Tompkins
 Longman: Publisher

評価方法

There will be a mid-term and a final speaking exam. Students will be expected to demonstrate how well they can speak on the issues. Attendance and participation are also important in this class.

年間授業計画

- 1 . Unit 1 -Give Me My place to Smoke
- 2 .
- 3 . Unit 2 -A Wine that's Raised Some stunk
- 4 .
- 5 . Unit 3 -Drive In Shopping
- 6 .
- 7 . Unit 4 -Is it a Sculpture, Or is it Food?
- 8 .
- 9 . Unit 5 -Gang Violence
- 10 .
- 11 . Unit 6 -Create Controversy to Generate Publicity
- 12 . Mid-term Exam
- 13 . Unit 7 -Women Caught In The Middle of Two Generations.
- 14 .
- 15 . Unit 8 The Mail-Order Bride
- 16 .
- 17 .

- 18 . Unit 9 -Facing The wrong End Of A Pistol
- 19 . Unit 10 - What Constitutes A Family?
- 20 .
- 21 . Unit 11 - Facing Discrimination Where One Would Hope to Find Relief
- 22 .
- 23 . Unit 12 -Green Consumerism
- 24 . (Final Exam)